

# 2024年度 専門演習Ⅰ 講義要項



政治経済学部

# 政治学演習 I

整理番号	科目名	副題
101	政治学演習 I(縣公一郎)	公共政策研究
102	政治学演習 I(福継裕昭)	行政の諸活動を分析する
103	政治学演習 I(福村一隆)	政治哲学・思想史
104	政治学演習 I(梅森直之)	「和解学」の展開: 東アジア歴史認識問題の脱構築にむけて The Development of "Reconciliation Studies": Toward the Deconstruction of East Asian Historical Perceptions
105	政治学演習 I(尾野嘉邦)	選挙と投票行動
106	政治学演習 I(国吉知樹)	現代日本外交の分析
107	政治学演習 I(栗崎周平)	国際政治の理論研究・実証研究 Scientific Study of International Relations
108	政治学演習 I(小林哲郎)	メディアと世論の関係について学ぶゼミ
109	政治学演習 I(小原隆治)	自治・分権を考える
110	政治学演習 I(笹田栄司)	現代の司法
112	政治学演習 I(田中孝彦)	冷戦期世界政治の歴史的変容 1917年-1991年
113	政治学演習 I(都丸潤子)	ヒトの国際移動の文化的・歴史的分析
114	政治学演習 I(仲内英三)	近代西欧政治社会の歴史
115	政治学演習 I(中村英俊)	国際政治の理論と現実 - 英国学派を中心に
116	政治学演習 I(日野愛郎)	現代政治の実証分析(Empirical Analyses of Contemporary Politics)
117	政治学演習 I(眞柄秀子)	新福祉・成長ミックスの比較研究
118	政治学演習 I(谷澤正嗣)	現代リベラリズムとその批判

# 経済学演習 I

整理番号	科目名	副題
201	経済学演習 I(安達剛)	経済学を社会問題に応用する力を身に付ける。
202	経済学演習 I(荒木一法)	企業と家計の行動分析(応用ミクロ経済学)
203	経済学演習 I(上田晃三)	日本の経済・物価情勢の分析: ミクロデータからの分析
204	経済学演習 I(荻沼隆)	ゲーム理論と行動経済学を用いた経済分析
205	経済学演習 I(小倉義明)	金融の統計分析
206	経済学演習 I(金子昭彦)	マクロ経済分析と国際金融
207	経済学演習 I(上條良夫)	行動・実験経済学
208	経済学演習 I(近藤康之)	貿易、環境、経済効果の計量分析
209	経済学演習 I(西郷浩)	社会・経済の統計的分析
210	経済学演習 I(齊藤有希子)	空間経済学
211	経済学演習 I(笹倉和幸)	マクロ経済学(新古典派総合)
212	経済学演習 I(鏡目雅人)	世界の中における日本経済の歴史/Japanese economy in the modern world
213	経済学演習 I(田中久稔)	経済学のための数学的方法
215	経済学演習 I(内藤巧)	国際貿易論
216	経済学演習 I(船木由喜彦)	ゲーム理論と実験経済学
217	経済学演習 I(別所俊一郎)	財政・公共政策の実証研究
218	経済学演習 I(星野匡郎)	ミクロ計量経済学と機械学習
219	経済学演習 I(村上由紀子)	労働に関する研究
220	経済学演習 I(山本竜市)	ファイナンス
221	経済学演習 I(若田部昌澄)	現実の経済問題を考えるための経済学史: 中央銀行の経済学史的研究

# 国際政治経済学演習 I

整理番号	科目名	副題
301	国際政治経済学演習 I(久保慶一)	現代世界の武力紛争と紛争後平和構築
302	国際政治経済学演習 I(久米郁男)	政治現象分析の技法: 原因を推論する
303	国際政治経済学演習 I(小西秀樹)	経済政策の理論と実証
304	国際政治経済学演習 I(齋藤純一)	近現代の政治理論
305	国際政治経済学演習 I(清水和巳)	人間と社会の政治経済学
306	国際政治経済学演習 I(高橋百合子)	新興国・途上国との比較政治経済学 Comparative Political Economy of Emerging and Developing Countries
307	国際政治経済学演習 I(高橋遼)	開発経済学・環境経済学
308	国際政治経済学演習 I(多湖淳)	戦争と平和の科学を楽しく学ぶゼミ
309	国際政治経済学演習 I(唐亮)	現代中国の政治経済と外交戦略
310	国際政治経済学演習 I(遠矢浩規)	国際政治経済学の理論と分析

# ジャーナリズム・メディア演習 I

整理番号	科目名	副題
401	ジャーナリズム・メディア演習 I(齊藤泰治)	ジャーナリズムの視点からの中国研究 I
402	ジャーナリズム・メディア演習 I(高橋恭子)	ジャーナリズムの現在と未来～映像ジャーナリズムを中心に
403	ジャーナリズム・メディア演習 I(田中幹人)	ハイブリッド・メディアのメディア研究方法論
404	ジャーナリズム・メディア演習 I(土屋礼子)	近現代史におけるメディアとプロパガンダ、およびジャーナリズム
405	ジャーナリズム・メディア演習 I(中村理)	内容分析を中心に用いたメディア・メッセージの実証研究(演習I:ヒューマン・コーディング／演習II:コンピュータ・コーディング)

# 学際領域演習 I

整理番号	科目名	副題
501	学際領域演習 I(岡本暁子)	行動生態学と隣接諸科学I
502	学際領域演習 I(プロツソーシルヴィ)	映画研究演習、映画学入門の演習
503	学際領域演習 I(マルティ・オロバル ベルナット)	近世・近代における宗教思想(西洋・日本の宗教事情を中心に) History of Religious Thought in Modern and Contemporary Times (Religions in the West and Japan)
504	学際領域演習 I(室井禎之)	コミュニケーションとことば
505	学際領域演習 I(本野英一)	中国人の行動原理と日本への働きかけ
506	学際領域演習 I(ロペスアルフレド)	西洋文学論

# 政治学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
101	政治学演習 I (縣公一郎)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	縣 公一郎
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle
-----------------

公共政策研究

授業概要 Course Outline
------------------------

今日の社会生活で、政府活動の影響はあらゆる分野に及んでおり、私たちは政府活動との関連なくして一刻も生活を営めない、と言って過言でないだろう。従って、社会的諸関係構築のための戦略、計画、プログラム、個々の意思決定、具体的活動としての公共政策を通じて、政府が、なぜ如何なる行為を如何にして社会にもたらしているのかという点は、現代社会において問うべき重要な課題だろう。

本演習は、かかる政府活動の分析で基礎となる手法の学修と、その応用を目指すものである。

3年次春学期は、公共政策関連の内外文献を用いた報告や他大学との合同ゼミに向けた共同研究で基礎学修を進めつつ、各人の個別テーマ確定に努める。

3年次秋学期以降は、設定された個別テーマに関する研究と報告を経て、最終的にゼミナール論文を作成する。各人が研究対象とする国ないし地域（例えば、首都圏、日本、ドイツ、EU等）と、採り上げる政策領域（例えば、情報通信、通商産業、学術教育、国土、医療、農業、環境、交通、都市、労働等）もしくは政府・行政機構を、ある程度明確に設定しておいて頂きたい。その際、国際的枠組（例えば、ドイツの情報通信政策ならEU、日本の通商産業政策ならばWTOや対米関係）を十分に意識してほしい。原則として3年と4年は別々の会合を持つが、相互に交流を図るため、火曜日IV限とV限をゼミナールの共通時間として確保して頂きたい。

なお、ゼミナール選考に際して提出される研究計画書の最後の部分において、提出時点で設定された各人テーマに関して今後参照したい参考文献を、5冊明示されたい。

また、プレ演習では、Course N@vi上にて、ゼミナール論文構想構築に向けて、レポートの提出を求める。詳細は、適時お知らせする。

授業の到達目標 Objectives
-----------------------

各人のゼミナール論文完成。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review
--------------------------------------

自ら設定したテーマに関する学修。

授業計画 Course Schedule
-------------------------

第1回：オリエンテーション（本講義の目的と概要）／本講義の目的と概要について説明します。

第2回：学生による報告・討論

第3回：学生による報告・討論

第4回：学生による報告・討論

第5回：学生による報告・討論

第6回：学生による報告・討論

第7回：学生による報告・討論

第8回：学生による報告・討論

第9回：学生による報告・討論

第10回：学生による報告・討論

第11回：学生による報告・討論

第12回：学生による報告・討論

第13回：学生による報告・討論  
第14回：学生による報告・討論

教科書  
Textbooks

追って指示がある。

参考文献  
Reference Books

追って指示がある。

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	日常的討論と完成されたゼミナール論文に基づいて、総合的に判断する。

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 政治学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
102	政治学演習 I (稻継裕昭)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	稻継 裕昭
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle
-----------------

行政の諸活動を分析する

授業概要 Course Outline
------------------------

行政の諸活動は私たちの生活に知らず知らずのうちに大きな影響を与えている。

ある行政活動は、どのような構造のもとに、どのようなアクターが、どのように行動することによって行われているのか。

基礎的なことを学ぶとともに、いくつかの行政課題およびその解決策を特定し、なぜそのような行動がとられたのかその原因を考える。

ゼミのキーワードは、「書を持って街へ出よう」です。理論と実践の統合を目指します。教室による輪読などの座学と、フィールドワークとを組み合わせているのが、当ゼミの特徴です。輪読などによる基礎知識の習得と、現場に出たり（現場の方を迎える）して、実践的な動きを把握することを組み合わせて学びます。プレゼミでは基本書を読み、3年生からは実践を経験しつつそれを理論的に分析することを目指します。3年次にグループ研究を進めて、調査方法や分析方法について学び、4年次には個々人の卒論を仕上げます。

# 中央省庁や地方自治体の幹部や若手職員をゲストスピーカーとして招く場合があります。

2022年以降の実績・・総務大臣政務官（衆議院議員、元自治官僚）、財務省主計局若手官僚、福井県越前市長・元福井県副知事、国会議員（元防衛大臣）、CodeForJapanスタッフ/滋賀県日野町参与

#中央省庁や地方自治体を訪れてヒアリングなどを行う場合があります。

2022年以降の実績

福井県越前市役所（市長面会）、豊島区役所、富山県庁（知事面会）、金沢市役所、高山市役所、三重県伊勢市役所、多紀町役場、高知県日高村、梼原町、高知県庁、

#過去5年ほどは、1年間を通して特定の自治体にフィールドワークに入り、政策提言を行っています。

2016年本庄市、2017年本庄市、茅ヶ崎市、2018年茅ヶ崎市、岡山県真庭市、2019年岡山県美咲町、2020年岡山県美咲町、茅ヶ崎市、2021年茅ヶ崎市、2022年茅ヶ崎市、越前市、2023年茅ヶ崎市、荒川区日暮里織維街（地域活性化のご提案）

#合宿は、3年の夏、3年の冬、4年の夏の3回、2泊3日で行います。合宿への参加は単位取得のために必須です。

過去5年間、合宿は次の場所で行いました。

熱海2泊3日（市役所、商工会議所、観光協会、NPOなどにヒアリング調査）、岐阜県高山市2泊3日（市役所、支所（旧町役場）、飛騨ミートなど）、

新潟県長岡市2泊3日（市役所、山吉志支所ほか）、奈良県川上村2泊3日、滋賀県2泊3日（長浜市、湖南市ほか）、

岩手県2泊3日（盛岡市、花巻市、紫波町ほか）、福井県2泊3日（鯖江市、あわら市、福井県、恐竜博物館ほか）、

小諸市2泊3日（小諸市役所、ほか）、岡山県（倉敷市、岡山市）、伊豆川奈セミナーハウス（台風の為使用禁止となり急遽箱根の別荘を借りて合宿）2泊3日、

岡山県、那須塩原市、

2020年度はコロナ蔓延のため、全体での合宿は実施できず。11月に3年生の半数が岡山県美崎町を訪問し、町長や南和気地区の皆様と交流。

2021年度はコロナ蔓延のため合宿は全く実施できず。

2022年夏は4年生が富山県庁、金沢市役所、3年生が越前市役所、2023年春は3年生が高山市役所。

2023年夏は4年生が三重県（伊勢市、多気町）、3年生が高知県（日高村、梼原町）

### 授業の到達目標 Objectives

行政に関する諸課題について政治学的に考察する力、文章で表現する力を培う。  
論理的に考え方を養うこと。

### 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

プレゼミで、『行政学』(曾我謙吾)、『立法学』(中島誠)を読んでもらいます。  
その報告の過程で、パワーポイントの作成の仕方、効果的なプレゼンの方法、論理的思考を身に付ける種々の取り組みを行います。

報告に際してはそれぞれ4年生のメンターがつきます。

プレゼミは例年、毎週火曜日の5時限に教室に来ていただいて、上級生に交じって受けてもらっていました。

フィールドワークで出かける時(プレゼミ期間中に、1回か2回)は、3時限終了後すぐに大学を出発します。(遠方へ行く場合は、2時限終了後に大学を出発することもあります)。

例年、プレゼミ期間中にフィールドワークに出かけます。

### 授業計画 Course Schedule

第1回ー第5回：演習イントロ。R入門講座、「行政学」の残りの輪読。

第8回ー第14回：ゼミ生で決めてもらいます

1, 2回のフィールドワークと、1, 2回のゲスト講師。

合宿は参加必須ですが、行き先や時期はゼミ生で話し合って決めます。これまで、3年夏、3年冬、4年夏の3回の合宿をしてきました。

2泊3日の日程は、おおむね1日目、2日に自治体を訪問しヒアリングなど、3日目は適宜観光等を行っています。

その他ゼミ生主体で予定を決めていきます。

なお、合宿参加は必須で、合宿に不参加の場合は単位不可となります。

大勢で行動することが苦手であるなど合宿参加ができない人は最初から申し込みしないでください。

### 教科書 Textbooks

曾我謙吾『行政学』有斐閣アルマ

中島誠『立法学(第3版)』法律文化社

すでにプレゼミで輪読を終えているテキスト(北山俊哉ほか著『初めて出会う政治学』、久米郁男『原因を推論する』、戸田山和久『新版 論文の教室』、北山俊哉・稻継裕昭編著『テキストブック地方自治』)も適宜参照することができます。

### 参考文献 Reference Books

年報行政研究のバックナンバーも輪読します。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jspa1962/-char/ja/>

**評価方法**  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	60%	特別の事情がない限り欠席を認めていませんので、欠席の際には大きく減点。 課題のMoodleへの期限内提出。(期限に遅れると減点) 報告内容、討議への参加度
その他 Others	40%	行事(合宿、フィールドワーク、その他)への参加度も評価の対象となります。合宿への参加は必須。

**備考・関連URL**  
Note・URL

ゼミ生たちが自主的に作成・運営しているゼミのホームページ（作成に稲継はまったく関与していません（PWも知らない）が、適切に作成してくれており、ゼミ活動やゼミの雰囲気を知る上で大変参考になると 思います）

<http://inatsuguzemi.wix.com/wasedapse-undergrad>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。  
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 政治学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
103	政治学演習 I (稻村一隆)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	稻村 一隆
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

政治哲学・思想史

## 授業概要 Course Outline

政治哲学は社会規範について探究する学問です。国際援助と分配の正義、能力主義、正戦論、フェミニズムと結婚、人権と動物の権利、といったトピックについて、現代社会で生じている問題を知ると同時に、そうした問題の背後にある考え方を知ることが主眼です。そこで具体的な事例から出発しつつも、概念的に考察することになります。

本演習では、まずインプットが重要なので、政治哲学の基本文献を通して上記のトピックを学んでいきます。二つのタイプの文献を扱います。一つは西洋政治思想史の古典を講読します。どのテクストを扱うかは参加者の関心に応じて決めていますが、以下のようなテクストを扱います。プラトン『国家』、アリストテレス『政治学』、ホップズ『リヴァイアサン』、ロック『統治二論』、カント『永遠平和のために』、ミル『自由論』、アーレント『人間の条件』、フーコー『性の歴史』など。もう一つは専門的なジャーナルの論文を英語で読みます。論旨を正確に読み取る訓練をします。一人で読んで理解するのは難しくても、みなで議論しながら考察すると、学部生の間に十分に理解を深めることができるようになります。

本演習の特色の一つとして、論文の執筆を重要視しています。教員の英国での経験を生かして、政治哲学・思想史分野での論文の書き方を学習します。

トピックの選定については参加者各自の自主性を尊重しつつ、任意のトピックについて十分に資料を収集してから、毎学期、レポートを書きます。

自分と異なる見解を持つ人も説得できるように、丁寧に議論を作る訓練をします。

## 授業の到達目標 Objectives

- 1) 当該分野の古典を読む訓練を積むこと。
- 2) 当該分野の英語論文を読む習慣を身につけること。
- 3) 当該分野で論文を書く技法を身につけること。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

あらかじめ指定された文献を読んで議論したい点を考えること。毎回、予習が必要になります。

また期末レポートに向けて、自分でトピックを選び、それに必要なことを自分で調査することが求められます。

何をトピックにするかは参加者の自主性を尊重しています。

授業計画  
Course Schedule

具体的な計画は学期のはじめに参加者と相談の上、決定します。

3年次は文献の講読を中心に行います。テクストを読む訓練を積みます。

4年次は文献の講読だけでなく、卒業論文の作成にも取り組みます。先行研究を踏まえた上で、新しい議論を提示することが求められます。

期末レポートをもとに授業内での討論を通して、徐々に完成できるようになります。

教科書  
Textbooks

初回の授業で指定します。

参考文献  
Reference Books

政治哲学の入門書として以下を参照：

マイケル・サンデル『これから「正義」の話をしよう』早川書房、2011年。

ジョナサン・ウルフ『「正しい政策」がないならどうすべきか』勁草書房、2016年。

アマルティア・セン『人間の安全保障』集英社新書、2006年。

論文の書き方や、政治哲学・思想史の方法論の著作として以下を参照：

野矢茂樹『新版 論理トレーニング』産業図書、2006年。

井上彰、田村哲樹（編）『政治理論とは何か』風行社、2014年。

デイヴィッド・レオポルドほか（編）『政治理論入門』慶應義塾大学出版会、2011年。

犬塚元ほか「政治思想史の新しい手法特集号」『思想』no. 1143、2019年7月。

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	議論の明確性と新奇性
平常点評価 Class Participation	50%	発表と議論への積極的な参加
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 政治学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
104	政治学演習 I (梅森直之)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	梅森 直之
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

「和解学」の展開：東アジア歴史認識問題の脱構築にむけて

The Development of "Reconciliation Studies": Toward the Deconstruction of East Asian Historical Perceptions

## 授業概要 Course Outline

「紛争」が、社会生活をおくる人間の宿命であるかぎり、「和解」もまた人間の普遍的な営みの一部である。しかし和解はつねに、一定の歴史的・文化的刻印を帯びてあらわれる。紛争を生み出す社会の編制は多様であり、また歴史的に変化するものであるからである。和解学とは、和解をめぐって積み重ねられてきた人類の思索と実践を総合的にとらえ直し、未来に向けた社会構築のヴィジョンを構想する新しい学知である。「和解学」とは、単に既存の紛争を解決するための技術論を意味しない。むしろそれは、「和解」という現象そのものの構造を、それに対する原理的な反対を含め、根源的に考察するアプローチである。本ゼミでは、東アジアが現在直面しているさまざまな「紛争」を取り上げ、その解決を、思想史的方法に依拠しつつ検討していく。具体的には、東アジアの歴史を、「ナショナリズム」、「ジェンダー」、「資本主義」という三つの視座から解きほぐすことを試みる。東アジアの歴史を、和解学の基礎理論と重ね合わせながら議論することを通じて、歴史問題をめぐる解決の糸口を構想する。

As long as "conflict" is the fate of human beings in social life, "reconciliation" is also a part of universal human activity. Reconciliation, however, always appears with a certain historical and cultural imprint. The social arrangements that give rise to the conflict are diverse and historically variable. Reconciliation studies is a new academic knowledge that comprehensively reassesses humankind's accumulated thought and practices regarding reconciliation and envisions a vision of social construction for the future. Reconciliation Studies" does not simply mean a technical theory for resolving existing conflicts. Rather, it is an approach that fundamentally examines the very structure of the phenomenon of "reconciliation," including the principled opposition to it. In this seminar, we will take up various "conflicts" that East Asia is currently facing and examine their resolution, relying on the method of the history of ideas. Specifically, we will attempt to unravel the history of East Asia from the three perspectives of "nationalism," "gender," and "capitalism. Through discussion of East Asian history, superimposed on the basic theories of reconciliation studies, we will envision clues to resolving historical issues.

## 授業の到達目標 Objectives

テキストの「読み方」の習得

自分の考えを効果的に伝える「書き方」の練習

生産的に「議論する」訓練

思想史的方法、ならびに社会理論についての基本概念の習得

日本の歴史についての基本的知識の習得

「和解学」の基礎としてのナショナリズム論、ジェンダースタディーズ、資本主義論への理解

Learning how to "read" texts

Practice "how to write" to effectively communicate your thoughts

Practice "discussing" productively

Acquisition of basic concepts of the historical method of thought and social theory

Basic knowledge of Japanese history

Understanding of nationalism, gender studies, and capitalism as the basis of "reconciliation studies"

事前・事後学習の内容  
Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

The instructor will give instructions in class as appropriate.

授業計画  
Course Schedule

本ゼミでは、以下の四つの次元において、東アジアの歴史問題の構造を明確化することをめざす。ゼミの進め方としては、関連テキストの輪読と学生の報告に基づく議論が中心となる。

問題に接近する第一の次元は、「歴史とは何か」を根源的に問い合わせることである。歴史は、客観的な事実であると同時に、一定の意味を発生させる物語でもある。「歴史」そのものの重層的な構造を解明することを通じて、東アジアの各国の歴史認識が対立する理由とその和解に向けた可能性について議論する。

第二の次元は、「ナショナリズム」である。東アジアの近代を、戦争と帝国主義と植民地主義により織りなされたひとつの歴史空間として把握することを通じて、各国のナショナリズムの特質を構造的に把握することをめざす。

第三の次元は、「ジェンダー」である。「従軍慰安婦」問題は、日韓の国民的対立であると同時に、東アジアにおける女性の社会的位置づけの反映でもある。東アジアにおける女性の歴史を、こんにちのジェンダーギャップ問題と重ね合わせながら振り返っていく。

第四の次元は、「資本主義」である。東アジアに共通する根強い発展志向が、どのように「紛争」を惹起し、またそれを隠蔽してきたかを確認する。

本ゼミでは、具体的なテーマに則したディスカッションに加え、学術論文の書き方、プレゼンテーション・スキルアップの方法等についてのワークショップを、必要に応じて適宜行う。

This seminar aims to clarify the structure of East Asian historical issues in the following four dimensions. The seminar will be conducted mainly through discussions based on the reading of related texts and student reports.

The first dimension of approaching the problem is to question "what is history fundamentally? History is both an objective fact and a narrative that generates certain meanings. Through the clarification of the multilayered structure of "history" itself, we will discuss the reasons for the conflicting historical perceptions of East Asian countries and the possibilities for reconciliation.

The second dimension is "nationalism. By understanding modernity in East Asia as a historical space woven by war, imperialism, and colonialism, we aim to grasp the structural characteristics of nationalism in each country.

The third dimension is "gender. The "comfort women" issue is not only a national conflict between Japan and South Korea but also a reflection of the social position of women in East Asia. The history of women in East Asia will be reviewed in light of the current gender gap issue.

The fourth dimension is "capitalism. We will identify how the deep-rooted development orientation common to East Asia has both attracted and obscured "conflicts.

In this seminar, in addition to discussions on specific themes, workshops on how to write academic papers, how to improve presentation skills, etc. will be held as needed.

教科書  
Textbooks

授業期間中に指示する。

Instructions will be given during the class period.

参考文献  
Reference Books

梅森直之『初期社会主義の地形学』(有志舎、2016)

梅森直之編著『ベネディクト・アンダーソン グローバリゼーションを語る』(光文社、2007)

ハリー・ハルトゥーニアン『近代による超克』(岩波書店、2007)

Benedict Anderson, Imagined Community

Harry Harootunian, Overcome by Modernity

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	授業参加ならびにレポートを総合的に評価する。 Class participation and reports will be evaluated comprehensively.

備考・関連URL  
Note・URL

これまでの基礎知識は問いませんが、これから学習に対する強い意欲と好奇心ならびに知的柔軟性と持久力が必要です。無断欠席3回以上で、評価の対象から外します。

自国の事例を、他国に向けて発信したり、自国以外の国の人々と積極的に議論する意欲と能力を持つ学生を歓迎します。

No previous basic knowledge is required, but a strong desire and curiosity for future learning and intellectual flexibility and endurance are necessary.

More than three unexcused absences will be disqualified from the evaluation.

We welcome students willing and able to communicate their own country's case studies to other countries and actively discuss them with people from other countries.

政治経済学部では以下のリンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 政治学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
105	政治学演習 I (尾野嘉邦)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	尾野 嘉邦
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

選挙と投票行動

## 授業概要 Course Outline

投票行動に焦点を当てた政治行動論の演習です。人間はいろいろな場面で選択を迫られますが、選挙における投票という行為も選択の一つです。選択を迫られたとき、人はどのように決めるのだろうか、選択を左右するものは何だろうか、より良い選択をするにはどうしたらよいだろうか。フェイクニュースやデジタルテクノロジーなどによって、人々の自発的選択が無意識のうちに誘導されてしまうことはないのだろうか。選挙で当選を目指す候補者ならば、どう行動したらよいのだろうか。選挙という場面に焦点を当てて、選挙における人々の選択（投票行動）と民主主義の行方について、心理学や行動経済学なども参考にしながら考え、学術研究として新しい知見のアウトプットを目指す演習です。その過程で、データの実証分析やサーベイ実験を始め、研究成果のプレゼンテーション、論文執筆などにもチャレンジしてもらいます。

## 授業の到達目標 Objectives

学際融合型の社会科学研究の最前線に触れつつ、社会科学の考え方を学ぶとともに、物事を多様な面から客観的かつ批判的に考えることができる思考力を養う。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

演習時間外に実験課題などに取り組むことが求められる。

## 授業計画 Course Schedule

政治学の分野では、学部生の卒業論文や研究が学術雑誌に掲載されるケースが増えてきました。また、最近では米国中西部政治学会といった海外の学会などで、学部生が研究発表を行う機会も設けられています。2年間の演習を通じて、一緒に出版可能な学術研究に取り組んでいきましょう。

前期は、社会科学の基礎的な考え方や研究方法を学びつつ、政治学や心理学、脳科学を中心として、投票行動・政治行動に関する社会科学の最先端の研究内容や、国際学術誌への投稿プロセスなどについて紹介します（学術論文の査読にも挑戦してもらいます）。ニューロサイエンスや生命科学、AIを活用したテキスト分析・顔形態分析など、工学や自然科学の知見が社会科学にどのように活用されうるのか、そしてどのような貢献が可能なのかについても検討していきます。その過程で、先行研究を読んでレビューするとともに、さらに研究してみたいリサーチクエスチョンについて考えてもらいます。

後期は、各自のリサーチクエスチョンをもとに、実際の研究に取り組みます。データをどのように集め、分析をしたらよいのか、リサーチデザインを練り、サーベイ実験などを通じて、仮説を検証する作業を行ってもらいます。

### 1. イントロダクション

2-6 政治学における投票行動関連研究

7 研究アイディア発表

8-10 心理学における投票行動関連研究

11-13 脳科学における投票行動関連研究

14 まとめ

教科書  
Textbooks

参考文献  
Reference Books

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	20%	プレゼンテーションに基づき評価する。
平常点評価 Class Participation	80%	議論への参加・貢献度合いに基づき評価する。
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

この演習では基本的に英語の文献のみ扱うとともに、英語でのアウトプットを目指します。参加者には英語読解能力が求められますが、英文を読んだり、書いたり、話したりすることに慣れていない人も、演習での訓練を通じて、そのスキルを磨いていきましょう。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 政治学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year • Credits	担当教員 Instructor
106	政治学演習 I (国吉知樹)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	国吉 知樹
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題  
Subtitle

現代日本外交の分析

授業概要  
Course Outline

本演習では現代日本の国際関係・外交について理論および歴史の両面から考察する。

演習では、最初に基礎的なテキストの輪読と議論を通じて国際政治学の基礎概念について理解を深める。つづいて戦後日本外交史の論争点について日米関係および日本と近隣アジア諸国の関係に焦点を当てて分析を行う。さらに現代日本外交に関わる分析概念や論争的なイッシャーについて代表的な文献をたたき台にして議論をする。ここでは日本の安全保障問題、歴史認識問題とアジア外交、日中間の経済相互依存の意義、日韓文化交流の意義、日ロ間領土問題、日本の地域主義外交、沖縄の基地問題および日本の難民政策などを取り上げる予定である。

また、春学期の中盤から秋学期にかけて、ゼミ内で3~4人からなる複数のグループを組み、それぞれのグループが戦後日本外交に関わる論争的なイッシャーについてテーマを決め、外交文書の調査・分析を行い、共同論文の作成に取り組む。

演習 I では以上のようなプロセスを通じて外交を分析するための手法・視点を磨き、卒業論文執筆のための準備を進めていく予定である。日本が現在直面する外交上の諸問題を理解するために、国際関係の理論と歴史の習得に熱意を持って取り組み、積極的に議論に参加する意欲を持った学生を歓迎する。

授業の到達目標  
Objectives

1. 国際関係論の基礎概念を理解する。
2. 現代日本外交の形成と意義を理解するために必要な理論的・歴史的分析手法を習得する。
3. グループ論文への取り組みを通じて、学術論文を執筆するために必要な研究の手順、調査の方法を学び、執筆の心構えを身に付ける。

事前・事後学習の内容  
Preparation and Review

- 受講生はゼミでの議論に積極的に参加するために、事前に必ず課題文献を読んで演習に臨むことが求められる。
- グループ論文の作成にあたっては、グループ間で事前に文献や資料を検討し、共同で発表準備を行う。
- グループ論文の作成にあたって、授業でのフィードバックを基にして、新たな調査を行い、論文の執筆と修正を行う。

授業計画  
Course Schedule

- 第1回：ガイダンス  
第2回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（1）  
第3回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（2）  
第4回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（3）  
第5回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（4）  
第6回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（5）  
第7回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（6）  
第8回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（7）  
第9回：日本外交 グループ論文の作成：テーマ設定について  
第10回：日本外交 グループ論文の作成：リサーチデザインの検討と資料調査について  
第11回：日本外交 グループ論文の作成：先行研究の検討（1）  
第12回：日本外交 グループ論文の作成：先行研究の検討（2）  
第13回：日本外交 グループ論文の作成：先行研究の検討（3）  
第14回：日本外交 グループ論文の作成：調査の中間報告とディスカッション

教科書  
Textbooks

- 大矢根聰編 『戦後日本外交から見る国際関係：歴史と理論をつなぐ視座』（ミネルヴァ書房、2021年）。  
ピーター・カッセンスタイン 『文化と国防：戦後日本の警察と軍隊』（日本経済評論社、2007年）。  
国分良成・添谷芳秀・高原明生・川島真 『日中関係史』（有斐閣、2013年）。  
マイケル・シャラー 『「日米関係」とは何だったのか：占領期から冷戦終結後まで』（草思社、2004年）。  
ジョン・ダワー 『敗戦を抱きしめて』（増補版 上・下）（岩波書店、2004年）。  
ヴィクター・D. チャ（倉田秀也訳） 『米日韓 反目を超えた提携』（有斐閣、2003年）。  
波多野澄雄・佐藤晋 『現代日本の東南アジア政策』（早稲田大学出版部、2007年）。  
波多野澄雄編 『日本の外交 第2巻：外交史 戦後編』（岩波書店、2013年）。  
中島信吾 『戦後日本の防衛政策—「吉田路線」をめぐる政治・外交・軍事』（慶應義塾大学出版会、2006年）。  
宮城大蔵編 『戦後日本のアジア外交』（ミネルヴァ書房、2015年）。  
吉田真吾 『日米同盟の制度化：発展と深化の歴史過程』（名古屋大学出版社、2012年）。  
若宮啓文 『戦後70年 保守のアジア観』（朝日新聞出版、2014年）。  
李鍾元・木宮正史・磯崎典世・浅羽祐樹 『戦後日韓関係史』（有斐閣、2017年）。  
Joseph S. Nye and David A. Welch, Understanding Global Conflict and Cooperation: An Introduction to Theory and History, 9th edition, Pearson Education, 2012.

参考文献  
Reference Books

ゼミにおいて適宜紹介する。

グループ・ワークの際には、外務省が編纂・刊行した戦後期の『日本外交文書』を適宜参照する。

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	グループ論文作成への取り組み
平常点評価 Class Participation	70%	プレゼンテーション（30%）；出席および議論への参加、ゼミ運営への貢献 etc. (40%)
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

- ・グループ論文の作成にあたっては、外務省外交史料館で調査を行う。
- ・春（3月）および夏（8月末あるいは9月初め）に2学年合同で合宿を行う予定です。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。  
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.  
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.  
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 政治学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
107	政治学演習 I (栗崎周平)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	栗崎 周平
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle
-----------------

国際政治の理論研究・実証研究  
Scientific Study of International Relations

授業概要 Course Outline
------------------------

## \*注意\*

このシラバスは2021年度に開講したもので、2021年夏から2023年夏までサバティカルのため休講としておりましたが2024年度から再開します。

栗崎ゼミの基本方針はサバティカル以前のものを維持しますので、ここでは2021年度のものをそのまま掲載します。2024年度はサバティカルを経て現在行っている研究内容を反映したものにアップデートしますが、ここではアップデート内容はその概要のみを示し、詳細のシラバスは2024年開講時にお知らせします。

担当教員はゲームモデル分析とデータ科学を用いた研究で、安全保障政策では政府機関やシンクタンクといった政策コミュニティに対するコンサルティング、また経済安全保障関連では国内の政府機関および一般企業の経営企画部門やコンサルティング会社に対してコンサルティングを行なっていることから、ゼミでは進学せず就職する学生が多いことに鑑み、こうした経験が全面に出てくるような運営を心掛けます。また、一定のスキルを持つゼミ生にはリサーチアシスタントないしインターとして、担当教員が学外で行う事業案件に参画する機会の提供を模索します。

こうしたことから、本ゼミでは、国際政治の時事問題を討議したり、既存の文献を読んで既存の知識を吸収することはせず、国際政治分析という土俵であるものの、独自の研究プロジェクトを企画・実行し、自ら新しい知見を創造するというプロジェクトマネジャーとしての工程を経験することも目的にします。

国際政治、主に安全保障に関わる論点（国際紛争、平和構築、内戦、国際組織、国家間競争など）について、その原因、メカニズム、解決策、さらには政策論的含意などを考察するために、理論研究ないし実証研究を行います。単なる時事問題の討議や既存研究の評論に留まらず、各々が持つ国際政治についての問題意識に基づいて独自の学術研究を二年間かけて行います。理論研究ではゲーム理論を用い、実証研究では計量分析を行います。ゲーム・モデルの分析から導出された仮説の検証という、理論と実証の組み合わせでも構いません。研究テーマは独自の研究を行うことを推奨しますが、学生間の共同研究を推奨します。また担当教員のプロジェクトに共同研究者として参画することも可能です。担当教員の現在の主な研究課題は、国際紛争における外交（非軍事的手段）が果たす役割についてのゲーム理論を使ったモデル分析、統計データを使った実証分析、危機外交の理論モデル分析、政治（民主）制度の情報効果の定量的な実証分析、日本の集団的自衛権問題を含む東アジア国際関係の理論分析と実証分析、さらにはテキストマイニングなどのビッグデータ分析を来年度から始動します。

「ゼミ制度」は日本の大学制度の優れている点で、とくに社会科学ではこのゼミ制度を有効利用することで、北米のトップスクールと互角にあるいはそれ以上の成果を出すことが可能です。本演習ではこの「ゼミ制度」の強みを最大限利用します。そのために、毎週の演習では自身の研究のみならず他の研究プロジェクトについても討議を全員で行うことによって研究上の問題を協同して解決するとともに研究のノウハウの共有を図ります。ゲーム分析におけるモデル化や均衡導出と解析、計量分析におけるデータ収集・統計モデル構築・プログラミングなどは、毎週、参加者同士で切磋琢磨する中で習得してもらと同時にハンズオンの指導を行います。ゲームモデルの分析やデータ分析など必要なプログラムはGoogle Driveで全て共有して他のゼミ生も同時に分析をゼミの場で行うことで、他のゼミ生にとって「練習問題」にもなります。

### 授業の到達目標 Objectives

- (1) 大学・政治学研究という枠の中ですが、国際舞台・研究競争に打って出る力を養う。
- (2) ゲーム理論による理論研究や統計分析による実証研究を通して、論理的に説得的に魅力的に議論を展開できるようになること。
- (3) そのための技術の習得 (Critical thinking、argumentation、問題発見能力と問題解決能力、プロジェクト立案遂行能力、ロジック、データ分析、ライティング、プレゼンテーション能力)。
- (4) 文献の読み方3つのテクニック (本2時間読了、論文裏読み、短期間多読) を身に付ける。

### 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

実証分析に関しては、データを扱う事の楽しさを味わってもらるために政治学教員が担当する「政治経済の計量分析」を薦めます。「計量政治学」はUCLA政治学部と同内容ですのでお勧めします。

解析的・分析的な政治の理論研究に関しては、モデル分析の面白さを味わってもらうために、例えば「比較経済制度分析」などがお勧めです。

### 授業計画 Course Schedule

演習I & II :

- 第1回：イントロダクション  
第2-15回：Kydd教科書や研究論文 (APSRなど) の輪読と各自研究テーマについてのブレインストーミング  
第16-20：回関心テーマについてLiterature Review報告  
第21-25：回先行研究の再現・複製を通した研究プロジェクト企画立案  
第26-30：回研究プロジェクト (パイロットスタディ) 発表

演習 III & IV :

- 第1-2回：ISA学会プロポーザル(300 words)批評会  
第3-10回：プロジェクト遂行とLabミーティング  
第11-20回：プロジェクト中間報告とLabミーティング  
第21-30回：研究成果の論文執筆と発表への準備

### 教科書 Textbooks

David A. Lake and Robert Powell. 1999. Strategic Choice and International Relations. Princeton University Press.

Andrew Kydd. 2015. International Relations Theory: Game Theoretic Approach. Cambridge University Press.

国際政治研究の主要学術雑誌：APSR, AJPS, IO, IS, JCR, ISQ, などが実質的な教科書となります。

### 参考文献 Reference Books

特になし。

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	N/A
レポート Papers	0%	N/A
平常点評価 Class Participation	100%	参加することに意義があります。各人のゼミとの付き合い方は様々であっても良いと考えています。上記の栗崎の提供する教育サービスをどのように利用するかは、各自が決定すべきことで、それに応じて成績は割り当てられると考えてください。したがって、オリジナルの研究をしないというスタイルの参加であれば、それ相応の成績を取得して頂く、というビジネスモデルです。
その他 Others	0%	N/A

備考・関連URL  
Note・URL

ゼミには正式登録しない参加希望者は直接連絡を下さい。ゼミ未登録者による参加はこれまでにも参加いただいております。学内他学部に留まらず学外からの参加者もいます。

本演習で作成されることが期待される学術論文やポスターは下記から参照できます：

[https://drive.google.com/file/d/0B\\_-BxaJ90WcoS0hjWE9CcXZJZGs/view?usp=sharing](https://drive.google.com/file/d/0B_-BxaJ90WcoS0hjWE9CcXZJZGs/view?usp=sharing)

[https://drive.google.com/file/d/0B\\_-BxaJ90Wcoc1hvZ0xyYklrZms/view?usp=sharing](https://drive.google.com/file/d/0B_-BxaJ90Wcoc1hvZ0xyYklrZms/view?usp=sharing)

# 政治学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year • Credits	担当教員 Instructor
108	政治学演習 I (小林哲郎)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	小林 哲郎
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle
-----------------

メディアと世論の関係について学ぶゼミ

授業概要 Course Outline
------------------------

政治におけるメディアとコミュニケーションの関係について学び、実証的な仮説検証を行います。政治学だけでなく、社会心理学やジャーナリズム研究など幅広い関心を持つことが必須となります。前期は実証研究のための基礎的な訓練と文献レビューを通してリサーチクエスチョンを深めると同時に、データ収集の準備を行います。後期はデータに基づいた仮説検証と、論文の執筆を行います。

授業の到達目標 Objectives
-----------------------

データに基づいて仮説検証を行う力を身につけること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review
--------------------------------------

自発的に研究課題に関する文献を読み、考え、手を動かして分析する。

授業計画 Course Schedule
-------------------------

初回にゼミの方針を共有・確認した上で、参加学生の興味関心を踏まえて次回以降の計画を立てる。基本的に学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。

教 科 書 Textbooks
--------------------

追って指示する。

参考文献 Reference Books
-------------------------

追って指示する。

評価方法 Evaluation
--------------------

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	0%	
レポート Papers	60%	研究発表のプレゼンテーションと論文で評価する。
平常点評価 Class Participation	40%	ゼミへの参加と積極的な発言によって評価する。正当な理由がある場合を除き、無断欠席が2回あった場合には評価は不可とする。
その 他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

# 政治学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year • Credits	担当教員 Instructor
109	政治学演習 I (小原隆治)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	小原 隆治
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

自治・分権を考える

## 授業概要 Course Outline

自治・分権をめぐるさまざまな問題を多面的な角度から考察する。政治学演習I（春学期）は、参加者が複数のテキストを輪読形式で読み進める。今年度は、まず最初に担当教員が著した論文1本を取り上げて検討する。そのあと3人の著者の手になる教科書的なテキスト1冊を扱い（第16、18章はスキップする）、各自の問題意識を深めてもらう。政治学演習 I（春学期）のあとの政治学演習II（夏合宿-秋学期）では、参加者が春学期の学習を踏まえてそれぞれ関心あるテーマを選択し、テーマ別に編成したグループ単位で研究報告を積み重ねる。ゼミの学習面でも運営面でも、参加者の自主性に大いに期待したい。ゼミもまた「自治」の実践の場だからである。ゼミに出席することは参加者の権利だが、そこには相応の責任がともなう。無断欠席は認められない。また、相当の理由なく学期回数の3分の1以上欠席した者は、ゼミに参加する権利を自動的に失う。春学期に失格した者は、秋学期に参加する権利を持たない。

## 授業の到達目標 Objectives

自治・分権をめぐる全体的な問題状況を把握する。そのうえで個別具体的な制度・政策・事例のレベルに落として課題を考察する方法態度を身につける。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

参加者が自身の報告にあたって事前に十分準備をするのは当然だが、毎回事後に關して報告者が誰であるとを問わず、すべての参加者がクラスで提起された論点等に關し、ムードル上に設置する意見・質問箱のスペース等を利用した議論に積極的に参加することが望まれる。

## 授業計画 Course Schedule

第1回：ガイダンス

第2回：小原（2012）を1回で輪読する。

第3回ー第12回：磯崎・金井・伊藤（2020）を2章ずつ、10回で輪読する（第16、18章はスキップする）。

第13回ー第14回：今後の打ち合わせ（グループ研究のテーマに関する討論、グループ編成、夏合宿の打ち合わせなど）

教科書  
Textbooks

小原隆治 (2012) 「自治・分権とデモクラシー」 齋藤純一・田村哲樹編『アクセス デモクラシー論』 日本経済評論社

磯崎初仁・金井利之・伊藤正次 (2020) 『ホーンブック 地方自治 (新版)』 北樹出版  
小原 (2012) は、担当教員が受講者にPDFを用意する。

参考文献  
Reference Books

開講時をはじめ隨時紹介する。

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	前述の出席要件を満たしていることを前提として、日頃のゼミへの貢献度を評価する。
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

開講中はアナウンスメント等の箇所を含め、ワセダムードルを丹念にチェックする。  
関連URLは隨時紹介する。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 政治学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year • Credits	担当教員 Instructor
110	政治学演習 I (笹田栄司)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	笹田 栄司
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle
-----------------

現代の司法

授業概要 Course Outline
------------------------

行政や国会に比べ変わることのなかった司法制度は、20世紀末に始まる改革によって大きく変容した。消極的と批判されることの多かった違憲審査も司法制度改革や憲法改正論議を経ていくらか積極的な動きを見せている。また、2018年からは刑事訴訟に「司法取引」が導入されカルロス・ゴーン逮捕に結びついた。さらに、司法のIT化が本格化してきた。AIが司法に導入された国も出てきている。本演習は、近年、注目されることの多い司法について、法学、政治学、そしてメディアなどによる分析を検討することによって、司法の現状と問題点を把握することを狙いとする。そして、司法に対する理解が進んだことを前提にして、秋学期は人権に関する裁判を対象にしたロールプレイングによる討論を行う。司法による人権の保障が次のテーマである。

まず、司法に強い関心を持っていることが重要である。司法についての知見が段階的に獲得できるよう演習プログラムを構成しているので、現時点での司法についての知識は問わない。春学期は、授業計画に挙げている教科書から割当てられたテーマの研究報告を受講生が行い、その報告に基づいて、全員で討論する。その際、テキストの要約に加えて、担当箇所について「新しいテーマ」を各自追求する。ゼミの最終回に、各自がゼミで報告した「新しいテーマ」を改善したものを用いてプレゼンテーションを行う。

なお、ゼミは対面で行うことを原則とする。

授業の到達目標 Objectives
-----------------------

司法制度の重要な柱である違憲審査制・最高裁判所・裁判官制度、裁判員制度・検察審査会、裁判外紛争処理(ADR)などについて、制度の概要及びその問題点を理解する。また、新しいテーマである「裁判のIT化」や「司法取引」も理解する。本演習では、取り上げるテーマに関連する資料を調査し、自分の考えをまとめ、発表し、討論する能力の向上を目指す。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review
--------------------------------------

新聞やインターネットを通じて、最近起きている事件について感度を高めておくこと。

授業計画 Course Schedule
-------------------------

第1回：ガイダンス

第2回～第12回：木佐茂男他『テキストブック現代司法 第6版』を読む。

第13回：ゼミメンバー全員がそれぞれ、自分が担当した部分のうち興味があるところをさらに調べて報告する(10分程度)。各自のプレゼンテーションをゼミメンバー全員で評価する。

第14回：メンバー全員参加のプレゼンテーション大会

教科書  
Textbooks

木佐茂男・宮澤節生・佐藤鉄男・川島四郎・水谷規男・上石圭一『テキストブック現代司法 第6版』(日本評論社、2015年)

参考文献  
Reference Books

笹田栄司『司法の変容と憲法』(有斐閣、2008年)、市川正人・酒巻 匡・山本和彦『現代の裁判』第7版(有斐閣、2017年)、笹田栄司『裁判制度のパラダイムシフト』(判例時報社、2023年10月発行予定)、泉徳治ほか『統治構造において司法権が果たすべき役割 第二部』(判例時報2479号、2021)。

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	40%	課題の設定、資料の収集、レポートの構成
平常点評価 Class Participation	60%	報告課題の内容、討論への積極的参加
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

憲法を未履修のゼミ生は、三年次に履修すること。また、比較憲法論も同じく履修すること。基本的に対面でゼミを行う予定である。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 政治学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
112	政治学演習 I (田中孝彦)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	田中 孝彦
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

冷戦期世界政治の歴史的変容 1917年-1991年

## 授業概要 Course Outline

\* 田中孝彦ゼミの教員によるゼミオリエンテーションの動画を必ずご覧ください。

### 【問題意識】

1980年代末から90年代初頭にかけて終焉を迎えた冷戦の後、今日までの国際政治のあり方とその秩序は、依然として不透明な部分が多く、現代の世界秩序の姿は、まだ明確に見えてこない。この授業では、冷戦期の国際政治が、どのような変化を見せて、今日の国際政治の様々な条件を形成してきたのかについて、冷戦期国際政治の歴史的変化を大きく俯瞰することによって考察する。その際、冷戦期を国際政治の長期的な変動過程の中に据え、その変動の重要な過渡期として捉える視点から、議論を試みる。2023年度の政治学演習Iでは、1917年から1968年までを扱い、冷戦の背景要因、冷戦の起源、そして、冷戦の変容について分析を試みる。

### 【授業の方式】

#### ＜討論中心の授業＞

毎回の授業は、テキストの指定された章や指定された論文を各自が読んできて、討論を行う。その際、毎週2名の報告担当者(Commentators)が論点を提示し、それをたたき台として討論を行う。

報告担当者は、(1) 議論するべき論点 (2) テキストに対する批判、をあわせて3つ以上提示しなければならない。(1)については、なぜその論点(疑問点)が重要なのかについて説明が施されなければならない。(2)については、論理的および実証的に批判が展開されなければならない。報告担当者に加えて、討論者(Discussants)を2名置く。Discussantは、Commentatorの報告に対してその場で簡潔なレスポンスを行う。

#### ＜グループ討議＞

特に重要な事件や問題については、学期中に2~3回、3つ程度のグループによる討議を行い、プレゼンテーションを行う形式を通じて、国際政治について考える訓練を行う。最優秀グループは表彰する。

#### ＜利用する文献＞

授業で利用するテキストは、以下の著作である。

Fink, Carole (2018) Cold War: An International History, 2nd edition, Routledge.

また、その他の文献については、授業計画の各回を参照されたい。

### 【その他】

新型コロナの影響で、2021年度は実施できなかったが、例年夏合宿を行うことにしており。夏は軽井沢セミナーハウスで行い、学問のみならずスポーツなどのレクリエーションも行う。

## 授業の到達目標 Objectives

世界政治の状況を、歴史的に分析する力を身につけてもらう。具体的には以下を参照されたい。

- (1) 世界政治の歴史的文脈を、どのように見いだすか。何が終焉し、何が変化し、何が継続し、何が新たに生まれ出されたのかを見極める。
- (2) 歴史的事象の原因について、自分なりの仮説をたて、それを歴史的証拠に基づきどのように検証するのか。その手法を身につける。
- (3) 今日の世界政治における様々な問題の淵源を、冷戦期の現象の中に探る。
- (4) 歴史を学ぶことによって、現在の理解を深めるとともに、未来へのトレンドを把握する。

事前・事後学習の内容  
Preparation and Review

【事前学習】

- (1) 授業計画に示されているテキストの該当箇所や論文は、必ず読んでくることが前提として求められます。  
(2) 「国際関係史I」(旧「国際政治史」)を履修してあることが望まれますが、必修ではありません。

【事後学習】

- (1) 授業中に話せなかつたことや、議論できなかつた論点について、CourseN@viの機能を利用して自主的にディスカッションを行つてください。適宜、私もチェックしてコメントします。  
(2) 学期中にショート・エッセイの提出を求めます。それを通じて、事後学習を行つてください。

授業計画  
Course Schedule

第1回：冷戦史の視座

冷戦期世界政治の歴史的展開をみるために設定することが必要な視点について、講義を行います。

第2回：冷戦の序曲

第2次世界大戦において、終戦後にはじまる冷戦の条件が、どのように形成されたのかについて考察します。

[必読文献]

McMahon, Robert (2021) *The Cold War: A Very Short Introduction*, Chapter 1. 'World War II and the destruction of old order', pp. 1-15.

第3回：ヨーロッパにおける冷戦の起源 1945年～1950年

米ソ対立およびそれによって形成された東西対立へのプロセスがどのように醸成されたのかについて、議論します。

[必読文献]

McMahon, op. cit., Chapter 2. 'The origins of the Cold War in Europe, 1945-50,' pp. 16-34.

第4回：史料読解 1

ヨーロッパでの冷戦の開始にかかわる重要史料を読み、それらの史料が意味するものについて、議論を行います。

第5回：冷戦初期のアジア 1945年～1950年

第2次世界大戦後から冷戦初期にかけてのアジアでの世界政治の変容について、考察します。特に、中華人民共和国の誕生、朝鮮戦争の勃発について学びます。

[必読文献]

McMahon, op. cit., Chapter 3. 'Towards "Hot War" in Asia, 1945-50,' pp. 35-55.

第6回：史料読解 2

朝鮮戦争にかかわるアメリカ政府の声明などの史料を読み解き、議論をこころみます。<Midterm Report 1> ここまで授業に関連する自分なりに立てた論点について、ショートエッセイを提出してもらいます。

分量: 2,000字程度(本文)

注釈: 学術的エッセイとして、脚注をつけてもらいます。

文献リスト: 参照した文献のリストを文末につけてもらいます。

ファイル形式: PDFでお願いします。

提出場所: Waseda Moodleにセットします。

提出締切: 次回の授業の前日23時59分

※コメントをつけて返却します。

第7回：冷戦のグローバル化: 「中心」の安定と「周辺」の紛争 1950年～1958年

1950年代における水爆の保有が、ヨーロッパでの東西緊張の緩和を導いた一方で、脱植民地化の進む第三世界が東西対立の重要な舞台となっていきます。そのプロセスと第三世界をめぐる東西対立の特質について学びます。

[必読文献]

McMahon, op. cit., Chapter 4. 'A global Cold War, 1950-58,' pp. 56-77

第8回：史料読解 3

冷戦のグローバル化にかかわる史料を読み解きます。

第9回：危機から緊張緩和へ 1958年～1968年

台湾海峡危機、ベルリン危機、ベトナム戦争、米ソ軍拡競争、そしてキューバ・ミサイル危機の展開が、東西間での危機を深めていきますが、それが逆に東西間の緊張緩和への転換をうみだしていくプロセスについて分析を試みます。

[必読文献]

McMahon, op. cit., Chapter 5. 'From confrontation to detente, 1958-68,' pp. 78-105.

第10回：史料読解 4

上記のそれぞれの危機と、危機後に進展した部分的核実験禁止協定、核不拡散条約、さらにはこの時期に決定的となった中ソ対立にかかわる史料を読み解きます。

< Midterm Report 2 >

第7回から第10回までの授業を通じて、自分で立てた論点についてショートエッセイを提出してもらいます。要領は、< Midterm Report 1 >と同様です。

## 第11回：冷戦と国内政治・第三世界

冷戦がそれぞれの諸国の国内政治や国内社会にどのような影響を与えたのか、そして内政が不安定であり続ける第三世界諸国にどのような影響をおよぼしたのか。これらの問題について考察します。

### [必読文献]

McMahon, op. cit., Chapter 6. 'Cold Wars at home,' pp. 106-121.

## 第12回：デタントの展開とその終焉 1968年～1979年

米ソ緊張緩和、米中和解といったデタントの生成発展のプロセスと、1970年代中葉から、再び東西間の緊張が深まっていくプロセスについて議論します。

### [必読文献]

McMahon, op. cit., Chapter 7. 'The rise and fall of superpower detente, 1968-79' pp. 122-143.

## 第13回：史料読解 4

東西緊張緩和の展開とその終焉にかかる史料を読み解きます。[必読史料]

TBA

## 第14回：冷戦の終焉 1980年～1990年

レーガン米政権の成立後に現れた「第二次冷戦」と呼ばれる米ソ緊張の深刻化から、1985年のゴルバチョフ・ソ連政権の成立を契機に急転直下、冷戦が終結していく過程について、分析を試みます。

### [必読文献]

McMahon, op. cit., Chapter 8. 'The final phase, 1980-1990,' pp. 143- 168.

## 教科書 Textbooks

### 【テキスト】

Robert McMahon (2022) *The Cold War: A Very Short Introduction*, Oxford University Press.

(邦訳、ロバート・マクマン著(2018)『冷戦史』青野利彦監訳、平井和也訳、勁草書房。)

※各自入手のこと。授業では英語版を使います。邦訳は自分の理解を確認するために使ってください。

### 【史料集】

Edward H. Judge and John W. Langdon (1999) *The Cold War: A History Through Documents*.

※必要箇所についてコピーを配布します。

## 参考文献 Reference Books

適宜、授業で指定します。

## 評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験は行わない。
レポート Papers	20%	学期中に提出されるエッセイを評価する。
平常点評価 Class Participation	80%	報告担当時の報告内容について、その論理性、実証性、独自性を評価する。
その他 Others	0%	なし

## 備考・関連URL Note・URL

【授業形態についての重要事項】 新型コロナの感染拡大状況などに鑑み、オンラインによるリアルタイム授業となる可能性があります。授業の形態については、新年度早々に各ゼミ生に連絡いたします。

### 【その他】

英語文献をかなり大量に読んでもらいます。それゆえ、英文読解に自信の無い人には、ハードルが高いかも知れませんが、あきらめずに続ければ、かならず上達します。ガッツをもって果敢に挑戦する方に期待します。 史料などが掲載されているwebsiteのURLは、授業第1回目の授業時に、より詳しいシラバスを配りますので、それを参照してもらいます。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 政治学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
113	政治学演習 I (都丸潤子)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	都丸 潤子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

ヒトの国際移動の文化的・歴史的分析

## 授業概要 Course Outline

この演習では、多様な主体によって重層的に構成されている国際社会において、トランクショナルな現象の代表例である人間およびその集団の移動が、どのような原因で生じ、いかなる過程を経て、どのような結果をもたらすかを社会科学的に分析し、理解を深めることを目的とする。分析にあたっては、理論にとどまるところなく特に実証分析を重視し、政治的・経済的側面だけでなく、文化的・社会的・心理的な側面からの検討を行う。具体的には、移民・難民・ディアスpora・出稼ぎ・派遣・留学・国際交流・兵士・人身取引などさまざまな形のヒトの国際移動に伴って生じる文化の接触と変容、移動者のアイデンティティの変容と権利・安全をめぐる問題、送出国・経由国・ホスト国や国際組織の関与、移動者と移動元・移動先の社会との関係や多文化共存のあり方などを研究対象とする。また、ヒトの国際移動の歴史は古く、特にナショナル・ヒストリーとグローバル・ヒストリーをつなぐ現象とされる植民地化と脱植民地化の過程で起こった社会・文化変容・外交政策の変化やヒトの移動の影響は、現在にも広くみられる。従って、このような事例に関する歴史的分析も重視したい。また、現在私たちが直面しているグローバル・イシューとしてのCOVID-19パンデミックや戦争との国際移動の関係の検討も試みる。これらの視点は、人間集団のなかでも、一般市民、マイノリティ、弱者の立場から国際社会の現象を捉えなおすことにもつながる。参加者と一緒に、より人の顔のみえる国際関係像をさぐってゆきたい。

## 授業の到達目標 Objectives

国際関係においてヒトの移動が果たした役割を歴史的文脈のなかで理解し、私たちが直面しているコロナ禍も含めて、現代国際社会のさまざまなイシューとのつながりを多角的に、人々の経験や感情を重視した(人の顔のみえる)形で把握することをめざしたい。各参加者が現代の諸問題解決への具体的アプローチを、説得的提示できるようになることが理想である。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

## 授業計画 Course Schedule

以下は主として初年次履修学生春学期 I の授業計画です。秋学期の演習IIにおいては、輪読も行いますが、ゼミ論のテーマについて、各自が報告、グループディスカッションを行う機会をふやします。1年でゼミ論を執筆する予定の学生、大学院進学・留学希望者には、早期執筆のための個別課題の設定や個人指導も行います。

輪読、報告と討論の回では、基本的に各回について報告者、コメンテーター(議論の口火を切る役目)を決めて、学生の主体的参加と討論を重視します。

3、4年生合同のゼミも有効かつ好評だったため、適宜合同開催も行う。

第1回：ガイダンス、導入的講義と問題提起：国際関係論の研究・分析とは？なぜ国際移動が重要か？  
第2回～第4回：輪読とディスカッション：テキストを以下の教科書欄の導入的文献などから選び、履修者全員が事前に批判的・発展的に読んでくる。あらかじめ指定された報告者・コメンテーターが内容の紹介と批判的・発展的論点の提示を行い、全員で討論をする。

第5回～第9回：輪読または3、4年生合同ゼミの形での4年生のゼミ論中間報告(各回2-3名ずつ)と質疑

応答。

第10回～第13回：ゼミ論テーマ・プロポーザル：各回につき、テーマの近い学生約3-4名ずつが各自のテーマ案を報告し、全体で質疑応答を行う。

第14回：まとめと夏休みの課題呈示（共通テーマによるグループ別共同研究、または共通テキストの批判的・発展的輪読）。

夏合宿はコロナの市中感染状況、ゼミ生諸氏の希望状況によって実施の有無を検討します。

実施する場合、内容は、夏休みの課題についてのグループ報告・討論、最終年次学生はゼミ論研究の中間報告となります。

教科書  
Textbooks

<春学期 I : 導入的文献>

ロビン・コーベン『移民の世界史』東京書籍、2020年。

S・カースルズ、M・J・ミラー著、関根政美、関根 薫訳『国際移民の時代 第4版』名古屋大学出版会、2011年。

マイロン・ウェイナー著、内藤嘉昭訳『移民と難民の国際政治学』明石書店、1999年。

ロビン・コーベン、ポール・ケネディ著、山之内靖監訳『グローバル・ソシオロジー I、II』平凡社、2003年。

トマス・ソーウェル著、内藤嘉昭訳『征服と文化の世界史』明石書店、2004年。

永島剛ほか編『衛生と近代：ペスト流行にみる東アジアの統治・医療・社会』法政大学出版局、2017年。

秋田茂『イギリス帝国の歴史-アジアから考える』中公新書、2012年。

塩川伸明『民族とネイショナリズムという難問』岩波新書、2008年。

滝澤三郎・山田満編著『難民を知るための基礎知識』明石書店、2017年。

(秋学期のIIではより発展的な文献、英文文献を輪読する予定)

参考文献  
Reference Books

詳細は開講中に履修者の関心に合わせて示すので、ここでは主な参考文献をあげておきます。

平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年。

梶田孝道編『新・国際社会学』名古屋大学出版会、2005年。

日本比較政治学会編『年報2009：移民と国内政治の変容』ミネルヴァ書房、2009年。

平野健一郎ほか編『国際文化関係史研究』東京大学出版会、2013年。

山田美和編『「人身取引」問題の学際的研究』IDE-JETRO アジア経済研究所、2016年。

北川勝彦編『イギリス帝国と20世紀 第4巻 脱植民地化とイギリス帝国』ミネルヴァ書房、2009年。

O・A・ウェスタッド著、佐々木雄太ほか訳『グローバル冷戦史』名古屋大学出版会、2010年。

ヴァミク・ウォルカン著、水谷驥訳『誇りと憎悪：民族紛争の心理学』共同通信社、1999年。

初瀬龍平編『エスニシティと多文化主義』同文館、1996年。

梶田孝道・丹野清人・樋口直人『顔の見えない定住化一日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』名古屋大学出版会、2005年。

ディヴィッド・バットストーン著、山岡万里子訳『告発・現代の人身売買：奴隸にされる女性と子ども』朝日新聞出版、2010年。

Walker Connor, Ethnonationalism, Princeton University Press, 1994.

John Darwin, Unfinished Empire: The Global Expansion of Britain, Penguin, 2012.

Philip D. Curtin, The World and the West, Cambridge University Press, 2002.

Marjorie Harper and Stephen Constantine, Migration and Empire, Oxford University Press, 2010.

Alexander Betts and Gil Loescher, eds., Refugees in International Relations, Oxford University Press, 2011.

David Kyle and Rey Koslowski, eds., Global Human Smuggling, 2nd edn., Johns Hopkins University Press, 2011.

**評価方法**  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	20%	報告用レジュメの充実度などで評価する
平常点評価 Class Participation	80%	出席・報告内容・議論への貢献度を重視する。
その他 Others	%	

**備考・関連URL**  
Note・URL

本ゼミでは、積み上げ式の演習と論文指導を行い、上級生・下級生を含めたゼミメンバー同士の切磋琢磨を重視しますので、留学予定者を含めて、(プレゼミを除き) 少なくとも3学期以上在籍される方を歓迎します。

留学計画がある場合には、各自の履修計画が履修／単位取得条件を満たすかどうかを事前に事務所で確認の上、応募時にわかる範囲で、あるいは留学決定後すみやかに、その旨教員まで申し出てください。

留学をまたいでの履修計画等については、履修・登録方法について事務所でも手続きを確認のうえ、早めに教員に相談してください。

国際政治経済学科生、経済学科生も大いに歓迎します。

ゼミ初年次終了までにできるだけ国際社会関係論を履習してください。左の科目に加え、国際関係論入門もすでに履習していることが望されます。

主体的に研究を進める熱意を持ち、卒業後も含めて仲間を大切にし、建設的な議論のできる学生のみなさんを歓迎します。

したがって、当然ながらゼミ論完成まで、継続的なゼミへの出席と議論への参加を重視します。

学部で卒業し実務をとおした社会貢献を考える学生諸氏はもちろんのこと、国内外の大学院進学希望者も大いに歓迎し、その目標にあわせた指導を行います。

\*政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 政治学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
114	政治学演習 I (仲内英三)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	仲内 英三
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

近代西欧政治社会の歴史

## 授業概要 Course Outline

本年度は、19世紀後半から20世紀中葉にかけての英国とドイツの政治について、とくに政党の活動を中心 に検討していきたい。同じくヨーロッパに属する英国とドイツではあるが、両地域における政党の発展は、歴史的・社会的・思想的なさまざまな要因から異なる発展を遂げてきた。それは当時の両地域の政治社会の違いを知るうえで重要であるばかりでなく、現在のヨーロッパの政治を考えるうえでも非常に示唆に富むものである。

なお「プレ演習」として、ヨーロッパ政治の歴史に関する基本的な文献をいくつか読んでいきたい。どのような文献を読んでいくかについては、春学期に行った講義「西洋政治史」で配った参考文献表のなかの、もつともやさしい基本文献のなかから、学生諸君の要望などを聴きながら選んでいきたいと考えている。

## 授業の到達目標 Objectives

近現代のヨーロッパの政治について理解できるようになる。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

## 授業計画 Course Schedule

第1回：政党とその役割

(第2回ー第16回：英国の政党の発展)

第2回：政党研究の歴史と政党の類型

第3回ー第4回：1867年から1895年までの自由党優位の時代

第5回ー第6回：1874年から1900年までの保守党の復活

第7回ー第8回：19世紀後半（後期ヴィクトリア時代）の政治変革

第9回ー第10回：19世紀末から第一次大戦までの政党の危機

第11回：世紀転換期の新自由主義の形成

第12回：世紀転換期の労働主義と労働党の誕生

第13回ー第14回：1906年から1914年までの政党政治（選挙選を中心に）

## 教 科 書 Textbooks

なし。教師が授業内容に即したレジュメを配布する。

## 参考文献 Reference Books

授業のはじめに、参考文献の一覧表を配布する。

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	演習の最後に少なくとも1回は小論文もしくはレポートを提出していただけ。内容は授業の過程で扱った時代や地域に関して、各自が関心を持ったテーマについて、あまり長くない分量で書けるものを提出していただけことになる。
平常点評価 Class Participation	70%	演習は基本的に授業に出席することから始まるので、まず普段の授業への参加が出発点となる。授業では最低1回は発表の機会があるので、その出来具合も評価の対象となる。
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 政治学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
115	政治学演習 I (中村英俊)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	中村 英俊
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

国際政治の理論と現実－英国学派を中心に

## 授業概要 Course Outline

「グローバルなリベラル秩序」が流動化している。EU・ヨーロッパ統合（ブレグジットを含む）、アジア（インド太平洋）の地域統合、日米欧G7体制とG20サミット、国際連合（国連システム）、核拡散問題、気候変動問題、感染症拡大問題など国際関係・国際政治の事例について、その本質（「現実」）を研究（理解・説明・分析）する上で、私たちは一定の理論的枠組みを必要とする。

国際政治の理論研究は、第二次世界大戦後、アメリカの学界を舞台に発展してきたと言える。そこでは、リアリズムとリベラリズムの間のパラダイム論争が重要な位置を占めてきた。しかし、大西洋の反対側・英国（および他のヨーロッパ諸国）の国際政治学界では、アメリカの学問的流行とは一線を画した、独特な理論研究が積み重ねられてきた。「英国学派」（English School）と呼ばれる国際政治の見方（パラダイム）を学ぶことが、本演習の基本的目標である。

本演習は、プレ演習後に I から IV までを（2年余りにわたり）連続履修する典型例では、次のような段階で展開する。まず第1段階（プレ演習と演習 I）では、邦語・邦訳文献を中心とした輪読を通して、主にアメリカ国際政治学界で展開してきたリアリズムとリベラリズムの論争について概観したい。つぎの第2段階（演習 I と演習 II）では、「英国学派」の国際政治理論についても基礎知識を身に付けた後、より専門的な英語文献に取り組みたい。具体的には、International Affairs、International Security、International Organization、International Studies Quarterly、European Journal of International Relations、Journal of Common Market Studies、Journal of European Public Policyなどの学術誌から各自が関心を寄せるテーマの論文を選び、報告・輪読の作業を重ねる。この段階で、各自が研究テーマを絞り込む作業を始めることになる。この段階で、各自の事例研究に必要な方法論（研究手法）の習得も始めることが求められる。最後に第3段階（演習 II から IV）では、それまでの理論研究の成果を踏まえて、（一次資料などのデータ収集を続けながら）各自が事例研究のテーマを決定する。そして最終的に、理論研究と事例研究が上手く融合する卒業論文（ゼミナール論文）を完成してもらう。

## 授業の到達目標 Objectives

原則として 2 年間で、良い卒業論文を書き上げてもらう。そのために、順次、必要な知的訓練を重ねもらう。

本演習 I（3 年春学期）では教科書（Nye and Welch）および各章ごとに関連する文献を輪読してもらう。共通の知的基盤を構築した後、夏季休業中には各自の研究テーマを本格的に考え始め、演習 II（3 年秋学期）では各自のテーマに即した先行研究（学術誌の英語論文）を輪読する。3 年終了時点では、まずはタームペーパーを提出してもらう。4 年への過渡期（2~3 月）に、同タームペーパーに基づく報告会を開催し、卒業論文完成へ向けての課題（多くの場合は資料収集に関する課題）を自覚してもらうことになる。演習 III（4 年春学期）では、卒業論文の中間報告を重ね、特に夏季休業中には（3 年生も前に）報告会を開催する。演習 IV（4 年秋学期）で完成させる卒業論文については、1 月末か 2 月初旬に口頭試験ないしは最終報告会を開催することにする。

事前・事後学習の内容  
Preparation and Review

演習Ⅰに先立つ「プレ演習」では、演習Ⅰテキストの翻訳（『国際紛争』）を中心に日本語の基礎文献を読み込んでもらう。

演習Ⅰでは、英語テキスト（および関連文献）の輪読と同時に、各自の研究テーマを考えてもらう。（演習Ⅰでは毎週の事前学習として、レジュメ作成や輪読コメントの準備など多くの時間を割くだろう。事後学習としては、演習Ⅱ終了時点で完成するタームペーパーに関連する論点の考察を深める時間を確保する必要があるだろう。）

演習Ⅰの後は夏合宿などを挟んで、各自の研究テーマに関する日本語・英語などの文献（先行研究）調査を試みてもらう。演習Ⅱの輪読テキストは、各自の研究テーマを反映した、英文雑誌の論文（複数）である。

授業計画  
Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション  
第2回：国際政治の研究テーマ  
第3回：英語基礎文献輪読 (Nye and Welch, Chap. 1)  
第4回：英語基礎文献輪読 (Nye and Welch, Chap. 2)  
第5回：英語基礎文献輪読 (Nye and Welch, Chap. 3)  
第6回：英語基礎文献輪読 (Nye and Welch, Chap. 4)  
第7回：各自が関心を寄せるテーマに関する英語の先行研究の調査実習  
第8回：英語基礎文献輪読 (Nye and Welch, Chap. 5)  
第9回：英語基礎文献輪読 (Nye and Welch, Chap. 6)  
第10回：英語基礎文献輪読 (Nye and Welch, Chap. 7)  
第11回：英語基礎文献輪読 (Nye and Welch, Chap. 8)  
第12回：英語基礎文献輪読 (Nye and Welch, Chap. 9)  
第13回：英語基礎文献輪読 (Nye and Welch, Chap. 10)  
第14回：各自の研究テーマの選定：先行研究の検討  
(\* 8月初旬予定の報告会：各自の暫定的研究テーマについて)

教科書  
Textbooks

Joseph S. Nye and David A. Welch, Understanding Global Conflict and Cooperation: An Introduction to Theory and History (10th Edition; Pearson 2017)

参考文献  
Reference Books

適宜指定する

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	実施しない
レポート Papers	50%	報告用レジュメの作成などで評価する
平常点評価 Class Participation	50%	毎回のゼミへの積極的な参加姿勢など
その他 Others	0%	特になし

備考・関連URL  
Note・URL

関連科目：国際関係領域の必修選択科目（「国際関係論入門」および「国際政治学」\*）に加えて、「国際機構論」および「地域統合論」は（必ず3年生までに）履修してください。（\*「国際政治学」は、奇数度の春学期に私が担当する予定です。）

学生に対する要望：切磋琢磨して学びあえる、厳しく楽しいゼミを創りたいと思います。様々なグループワークなどに積極的かつ主体的に参加してくれる人の応募を待っています。演習論文完成までゼミに関与し続ける意思および能力（実行力）の強さ・高さを選考基準として最優先します。

留意事項：毎週木曜5時限のゼミ（演習IとII）は時間を延長して（6時限も）ジックリと議論を深めます。2月初旬予定のゼミ合宿あるいは集中ゼミ、夏季休業中（8月初旬予定）のゼミ合宿あるいは集中ゼミへも参加してください。学期中の土曜日などに集中講義形式で「補講」を実施することもあります。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 政治学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
116	政治学演習 I (日野愛郎)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	日野 愛郎
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

現代政治の実証分析 (Empirical Analyses of Contemporary Politics)

## 授業概要 Course Outline

このゼミは政治を実証的に分析することに关心を持つ仲間とともに楽しく真剣に学問を追究するゼミです。ゼミのテーマは政治に関するデータを実証的に分析するものであればどのようなものでも構いません。データを分析するためには、その方法を学ぶ必要があります。たとえば、メディアと選挙に関する実証分析を行うとしましょう。そのためには「メディア」をはじめとする送り手の分析や「選挙」における有権者をはじめとする受け手の分析の方法を習得する必要があります。例えば、メディアや政党、政治家などの送り手のメッセージの分析や有権者や読者・視聴者・ユーザーなどの受け手の意識や行動の分析を行うことになります。このゼミでは、メディアや政党・政治家のメッセージを数量化する手法である内容分析 (content analysis) や統計モデルに基づく計量テキスト分析の手法を学ぶことができます。同様に、世論調査 (内容をランダムに変える調査実験を含む) やソーシャル・メディアへの投稿内容の分析方法を学び、有権者や一般の人々の態度や反応を明らかにします。また、複数の国や地域を統合的に分析する比較分析の手法 (マルチレベル分析) も、必要に応じて学んでいきます。テーマに応じて、適切な分析手法を学び、応用しています。

現代政治の実証分析に関する分野では、有権者の投票行動分析や政党の政策競争の分析をはじめとして多くの研究成果が蓄積されています。このゼミでは、これまでの豊かな研究の蓄積を踏まえて、ゼミ生同士でアイディアを出し合いながら、新しい知見を産み出すことを目指しています。この目標を達成するために、ゼミの1年目は実証分析をするために必要となる様々なデータ収集・作成の手続きや分析手法を一緒に学んでいきます。過去の研究を再現 (replicate) することから様々なデータ分析の手法を学び、共通のテーマについて話し合い、グループワークを通して実証分析の基礎を養います。2年目からは、自らの関心に沿って、先行研究を読みながらプロポーザル (研究計画書) を練り、卒業論文の作成を進めます。皆さんは卒業すると「学士」になります。多くの人にとって人生で最初の「士」になると思います。最終的に質の高い卒業論文を書き遂げて名実ともに「学士」になることが2年間のゼミの目標になります。

## 授業の到達目標 Objectives

疑問に思うことを学術的な問い合わせの形で表現する力 (リサーチクエスチョンを立てる力)、「これは!」と思う答えを探し出す力 (仮説を立てる力)、立てた仮説が正しいかを確かめる力 (仮説を検証する力) を養います。これらの力は、学術の世界だけでなく、皆さんが社会人になる時に大きな武器となるだけでなく、日々の営みを豊かにしてくれます。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示します。

授業計画  
Course Schedule

プレゼミ（2023年度冬クオータ）：R1グランプリ（統計ソフトRを用いて出版された論文のレプリケーションを行い発表するコンテスト）の実施  
第1回：イントロダクション、ゼミの運営について、合宿、OB/OGとの交流会  
第2回：グループワークにむけたブレインストーミング  
第3回～第5回：関連文献を基にしたディスカッション  
第6回～第9回：先行研究のレプリケーション  
第10回～第13回：データの収集と分析  
第14回：まとめとオープンゼミにむけた話し合い

教科書  
Textbooks

特にありません。適宜文献を指定します。

（プレゼミ）今井耕介『社会科学のためのデータ分析入門（上・下）』（粕谷祐子・原田勝孝・久保浩樹訳）  
岩波書店、2018年。（Kosuke Imai, Quantitative Social Science: An Introduction, Princeton University Press, 2017.）

参考文献  
Reference Books

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	ゼミにおける学習状況、貢献度を総合的に評価します。他のゼミ生のプレゼンテーションへのフィードバックの量、質を考慮します。
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

- プレゼミ（2023年度冬クオータ）は火曜日2限に予定しています。他の科目と履修が重ならないよう留意してください。詳細はプレゼミのシラバスをご覧ください。
- 本ゼミの1年目は火曜日2・4限、2年目は火曜日4・5限を予定しています。1年目は4限に開講されている4年生ゼミにも参加してもらい、2年目は5限に開講されている大学院ゼミにも出席してもらいます。先輩の研究が出来上がっていく過程をリアルタイムで見ることは生きた教材になるはずです。
- 3年次終了までに、「計量分析（政治）」と「政治テキスト分析」を履修することを、ゼミに参加する条件としています。
- 通常のゼミや合宿への参加は必須です。欠席が多くなる方はご遠慮いただいています。
- 入ゼミ後に課題があります。過去のゼミ生（1期～9期）の卒業論文の中から1つを選び、その論文を2000字前後で論評してもらいます。論文集は下記URLから入手できます（<https://goo.gl/xm88Mj>）。ゼミの面接時に感想を尋ねる可能性があります。同じURLにゼミ生が作成したオリエンテーション資料も格納されています。
- 普段のゼミの様子はゼミ公式のX(@airohinoseminar)やInstagram(airohinoseminar)をご覧ください。
- 留学を予定している学生や留学から帰国した学生にも学びの機会を作っていくたいと考えています。個別にご相談ください。定期的に外国からゲストを招聘し、最新の研究成果や手法について学ぶ機会を用意する予定です。This seminar is open to EDP students. The working language of the seminar will be mainly Japanese but the instructor is prepared to accommodate students who are interested in learning empirical and comparative analyses of media and elections in general.

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 政治学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year • Credits	担当教員 Instructor
117	政治学演習 I (眞柄秀子)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	眞柄 秀子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

新福祉・成長ミックスの比較研究

## 授業概要 Course Outline

2024年度は、現在の新しい危機が各国に与えているインパクトを射程にいれつつ、ヨーロッパにおいて広く共有されている社会的投資という概念に焦点を当て、21世紀の新福祉政策と成長戦略のあり方を、民主主義の質という観点を重視しながら検討したい。社会的投資戦略とは、現在の諸問題に対応しつつ、将来の帰結を想定し、女性や子供などポテンシャルが特に大きなセクターを人的資本形成のターゲットとして積極的に政策を展開してゆく戦略である。具体的には、教育政策、保育支援政策、積極的労働市場政策などが最も重要な政策分野であると考えられている。顧みれば、1980年代以降、先進諸国における経済的不平等が拡大し、さらに最近は各国の財政悪化を背景とした緊縮政策が支配的となっている。各国選挙では、人々は予想外の劇的展開を目の当たりにしている。このような環境で、人々の能力を高め、新しい知識基盤経済へのシフトを推進するとともに、これまでの社会政策で重視してきた平等の追求や貧困の軽減をも目指す社会的投資戦略は、果たしてケインズ主義と新自由主義を超えた新しいパラダイムになることができるのだろうか。

アプローチのとり方は自由。社会学的、歴史学的、経済学的アプローチのどれを使ってもよい。ただし、比較政治学および比較政治経済学の基礎的知識を有しており、福祉政策や成長戦略に関する学術的な問題意識を持っていることが選考において特に重要となる。また、選考の際には、英語およびスペイン語、フランス語、イタリア語、ドイツ語等の外国語の勉強の成果が出ておりグローバルな視点を持っている人が有利となる。

社会的投資国家の分析では、先進諸国にアクセントが置かれるが、アジア、ラテンアメリカなどの新興国の研究も歓迎する。各自がそれぞれの分析対象国に関する緻密な研究を行うと同時に、他のゼミ生の研究発表を通じて世界中の政治の現在を知り、各国が共通して直面している問題の解決の道を模索する。

## 授業の到達目標 Objectives

世界各国の政治経済の実態を把握し、比較政治学の理論や分析枠組みを用いてそれを分析することを通じて政治世界の今日的な諸課題に対して、政治学がどのように貢献できるのかを問いたい。日本語文献だけでなく、たくさんの英語文献を読みこなす。また、英語以外の外国語にも力を入れて勉強したい。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

このゼミでは、社会的投資を検討しますが、現在の日本と世界の危機は、歴史的に重大なものになりつつあります。政治学を勉強する者にとっても、無視することはできないでしょう。そこで、このゼミでは、まず、政治学で危機をどのように捉えるのかについて、検討することから始めたいと思います。

授業計画  
Course Schedule

第1回：イントロダクション（自己紹介とスケジュール調整等）

第2回ー第6回：文献の講読と討論

下のリストを参考に必要に応じてより新しい文献も加えて、重要な理論枠組みを検討する。

(1) Magara, H. and B. Amable (eds.) (2017) *Growth, Crisis, Democracy – The Political Economy of Social Coalitions and Policy Regime Change*. Routledge, UK.

(2) Magara, H. (ed.) (2017) *Policy Change under New Democratic Capitalism*. Routledge, UK.

(3) Magara, H. (ed.) (2014) *Economic Crises and Policy Regimes – The Dynamics of Policy Innovation and Paradigmatic Change*, Edward Elgar, UK.

第7回ー第10回：グループ研究

テーマ別国別にチームを作り、各国最新の政治経済問題をアカデミックな視点からグループごとに研究し、報告する。

第11回ー第13回：各自の研究予定課題発表と討論

第14回：研究計画書の提出とまとめ

教科書  
Textbooks

ゼミにおいて指摘する。

参考文献  
Reference Books

ゼミにおいて指摘する。

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	なし
レポート Papers	20%	学期末の研究計画書の提出
平常点評価 Class Participation	80%	毎回のゼミでの貢献度
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

福祉政策や成長モデルをめぐる比較政治学の主要理論を学び、仮説を立て、それを実証するというスタイルで勉強したい人向き。特定のテーマや地域・国に関心を持ち、その最新の展開をフォローするよう心がけてほしい。大学院進学希望者や、ゼミで習得した知識や国際性を仕事に活かしたい人が本格的に研究し多くの学べるゼミにしたい。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 政治学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
118	政治学演習 I (谷澤正嗣)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	谷澤 正嗣
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

現代リベラリズムとその批判

## 授業概要 Course Outline

政治を語る際に用いられる重要な概念について分析しつつ、「権力とはどんな力か」「自由と平等を両立させる政治体制は可能か」「正義と不正義を判別する原理は何か」といった問題を扱うのが政治理論である。政治理論の研究は古典古代にさかのぼる歴史的次元と、きわめて抽象的な哲学的次元を有するが、本演習では現代の哲学的研究に焦点を合わせる。こうした研究の多くが参照の枠組としているのが、「リベラル・デモクラシー」と称される現代の政治体制である。リベラル・デモクラシーに含まれる価値や規範を肯定し正当化する志向を強くもつ政治理論を「現代リベラリズム」と呼ぼう。他方、それらの価値や規範に対する批判に重きをおく政治理論を「現代リベラリズム批判」と呼ぼう。本演習では、現代リベラリズムとそれを批判するさまざまな潮流のあいだの対話を追いながら、現代リベラリズムがどのように洗練されてきたか、それにもかかわらず存在している問題点は何かを明らかにする。

## 授業の到達目標 Objectives

- (1) 現代政治理論の主要な論点、とくに現代リベラリズムとその批判について理解する。
- (2) 哲学的な読解、思考、表現、討論の技法を学ぶ。
- (3) 政治学演習II、IIIおよびIVを受講し、演習論文を執筆するための能力を涵養する。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

ゼミでの討論に先立ってテキストを読んでおくこと、討論の後にあらためて自分のテキスト解釈を考え直すことを求める。とくに、事前のテキスト精読は必須である。

## 授業計画 Course Schedule

- 第1回：イントロダクション 政治理論とは何か  
第2回～第13回：文献講読と討論  
第14回：まとめと討論

## 教 科 書 Textbooks

開講時に受講生と相談の上で指定する。いくつか候補となる著作を挙げておく。  
フランシス・フクヤマ (会田訳) 『リベラリズムへの不満』(新潮社、2023年)。  
メアリー・ホークスワース (新井ほか訳) 『ジェンダーと政治理論』(明石書店、2022年)。  
ポール・ケリー (佐藤ほか訳) 『リベラリズム』(新評論、2023年)。  
ジョン・ロールズ (川本ほか訳) 『正義論 改訂版』(紀伊國屋書店、2010年)。  
ジョン・ロールズ (田中ほか訳) 『公正としての正義』(岩波書店、2020年)。  
ジョン・ロールズ (神島・福間訳) 『政治的リベラリズム 増補版』(筑摩書房、2022年)。  
アイリス・マリオン・ヤング (飯田ほか訳) 『正義と差異の政治』(法政大学出版局、2020年)。

参考文献  
Reference Books

川崎修／杉田敦編『新版 現代政治理論』(有斐閣、2012年)。  
齋藤純一『不平等を考える』(ちくま新書、2017年)。  
齋藤純一／田中将人『ジョン・ロールズ 社会正義の探求者』(中公新書、2021年)。  
戸田山和久『最新版 論文の教室』(NHK出版、2022年)。  
ウィル・キムリッカ(千葉／岡崎ほか訳)『新版 現代政治理論』(日本経済評論社、2005年)。  
デイヴィッド・ミラー(山岡／森訳)『はじめての政治哲学』(岩波書店、2019年)。

評価方法  
Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポー ト Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	レジュメによる報告、討論への積極的で協力的な参加、討論から明らかになる文献の理解度などを総合的に評価する。
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
201	経済学演習 I (安達剛)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	安達 剛
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

経済学を社会問題に応用する力を身に付ける。

## 授業概要 Course Outline

ミクロ経済学は知識ではなく思考の型であり、社会や日常生活の現場で活用できなければ意味がありません。ミクロ経済学やゲーム理論の授業では理論を抽象的な形で学習していますが、それを「どこで」「どのように」使うのかという技術は、理論とは別に体系的に学習して身に付ける必要があります。この演習では、討議に重点を置いた理論テキストの輪読と、現実の社会問題についてのケーススタディ、そしてフィールドワークの3つを柱として『ミクロ経済学・ゲーム理論を現場で使う技術』を習得していきます。

演習 I では、①問題をインセンティブ構造で捉える技術、②仮説を【発見・発明】に変える技術、③ミクロ経済学・ゲーム理論や統計学を使って独自の研究をする技術、の習得と習熟を目指します。ゼミ生同士の討議をメインとしたケーススタディと、研究計画の指導が中心になります。

## 授業の到達目標 Objectives

問題をインセンティブ構造で捉える技術について習熟する。

ミクロ経済学・ゲーム理論・統計学を用いた研究の構造について理解する。

問題を自ら見つけ、仮説を考え、検証するプロセスとその意義を学習する。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

## 授業計画 Course Schedule

- 第1回：イントロダクション
- 第2～4回：インセンティブ構造で考える（反復練習）
- 第5～6回：仮説をみがく（反復練習）
- 第7～8回：簡単に検証する
- 第9～10回：学問を使って発見・発明をする
- 第11回：検証方法の学習（ミクロ経済学・ゲーム理論）
- 第12回：検証方法の学習（統計学）
- 第13回：研究計画をたてる
- 第14回：まとめ

## 教 科 書 Textbooks

## 参考文献 Reference Books

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	討議への参加度合と、輪読で使用するテキストの読み込み度合で評価する。
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
202	経済学演習 I (荒木一法)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	荒木 一法
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

企業と家計の行動分析 (応用ミクロ経済学)

## 授業概要 Course Outline

(目的) 本演習は、企業と家計の行動分析を題材として、参加者の分析力とコミュニケーション能力を向上させることを主たる目的とします。

(方法) 伝統的なミクロ経済学に加えて、ゲーム理論や契約理論を具体的な分析事例を交えて学ぶことで、参加者の分析力の質を高め、幅を広げることを試みます。また、プレゼンテーションと討論の機会をできるだけ多く確保するとともに、適宜短いレポートの提出を求め、参加者の「話す力」「書く力」の向上に努めます。

(題材の説明) 主に企業の戦略決定（投資・資金調達行動、マーケティングなど）と資金仲介者（銀行・証券会社等）の行動を分析し、時間的余裕があれば家計の消費・貯蓄・資産選択行動も扱いたいと考えています。これらのトピックをミクロ経済理論を用いて分析する文献を輪読するとともに、関連ニュースを報じる和文および英文の新聞・雑誌等の記事を題材にディスカッションをおこない理論の応用力を強化します。

(授業の進め方) 春学期は共通のテキストを使用し、参加者が担当箇所を発表していきます。例年は各人3回の発表機会があります。夏合宿では事前に設定した課題について調査し、その結果を口頭で発表するとともに、レポートとしてまとめ提出してもらいます。

(授業時間について) ゼミは、3年4年合同で月曜4時限、5時限連続で行います。

(授業以外のゼミ活動) 年間数回のペースで実務の第一線で活躍されているゲストスピーカーによる講義やゼミ卒業生も参加する勉強会を実施する予定です。講義や勉強会を通じて、ゼミ生の皆さんがあたらしい知識・視点を吸収し、将来の進路について考えるヒントを得ることを期待します。月曜4時限&5時限以外の時間に実施される活動については参加を必須とはしませんが、ゼミ生諸君はこれらの活動にも積極的に参加してください。

## 授業の到達目標 Objectives

- ・状況に応じたプレゼンテーションをおこなうことができる。
- ・ディスカッションにおいて、自らの考えを効果的に伝えたり、多様な意見を整理し集約したりすることができる。
- ・ミクロ経済理論の応用力を強化し、与えられた事例に即応的分析を加えることができる。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

## 授業計画 Course Schedule

- 第1回：プレゼンテーションに関する留意点（講義）  
 第2回～第13回：受講生によるプレゼンテーションとディスカッション  
 第14回：夏休みの課題の説明

教科書  
Textbooks

2023年春学期は次の3冊を輪読しました。

花園『産業組織とビジネスの経済学』有斐閣ブックス  
朝岡・砂川・岡田『ゼミナール コーポレートファイナンス』日本経済新聞出版  
筒井・佐藤『現代マーケティング・リサーチ(新版)』有斐閣

参考文献  
Reference Books

適宜紹介します。

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験は実施しません。
レポート Papers	50%	期末レポートを評価します。
平常点評価 Class Participation	50%	プレゼンテーションの内容とディスカッションへの貢献を評価します。
その他 Others	0%	特にありません。

備考・関連URL  
Note・URL

応募を検討する場合は、必ず教員によるオリエンテーション動画を視聴し、ゼミの内容・方針を確認した上で判断してください。特に、次の3科目の単位を取得済みであることを応募の前提条件としていますので注意してください。「ミクロ経済学入門」、「経済数学入門」、「ミクロ経済学A」

また、本演習の履修が決定した場合は2023年秋学期に「ミクロ経済学B」を必ず履修してください。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year • Credits	担当教員 Instructor
203	経済学演習 I (上田晃三)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	上田 晃三
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

日本の経済・物価情勢の分析：ミクロデータからの分析

## 授業概要 Course Outline

本演習では、最近の日本経済について、ミクロデータを用いて分析することを目的とする。

具体的に扱うミクロデータは2つある。第1は、みずほ銀行の取引データである。これは、みずほ銀行さんと早稲田大学との間の学術交流協定に基づき利用が可能になった極めて潜在性の大きいデータである。第2は、スーパーマーケットのPOSデータである。レシート単位での買い物情報から、品目、会員ごとの価格・数量情報を観察できる。

演習をでは、Rを学習し、それをこれら2つのデータの分析に応用し、経済学・計量経済学の知識を活用しながら日本の経済・物価情勢についての分析を試みる。

また、経済財政白書、日銀展望レポートなどの輪読も行う

## 授業の到達目標 Objectives

最近の日本経済についての理解、経済学・計量経済学の理解の深化、Rプログラミングの習熟、プレゼン能力の向上

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎週、相応の事前準備が必要。一人一人が担当をもち責任をもった分析をすることだけでなく、各班単位でグループとして協調することも重要。

## 授業計画 Course Schedule

- ・コード (R) の実践
- ・データの分析
- ・プレゼン
- ・経済財政白書、日銀展望レポートなどの輪読
- ・適宜インゼミの実施

## 教 科 書 Textbooks

特になし

## 参考文献 Reference Books

- 福地純一郎、伊藤有希、「Rによる計量経済分析」、朝倉書店、2011
- 一星野匡郎、田中久穂、「Rによる実証分析」、オーム社、2016
- 一馬場真哉、「R言語ではじめるプログラミングとデータ分析」、ソシム、2019

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	プレゼン内容、グループ討議での貢献度合い、発表の内容。出席は必須。
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

出席と毎回のゼミへの貢献（発表、質問、コメントなど）は必須。  
2年次のプレゼンは、1～2回のレポート提出、3・4年生のゼミへの数回の参加を課す予定。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。  
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year • Credits	担当教員 Instructor
204	経済学演習 I (荻沼隆)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	荻沼 隆
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

ゲーム理論と行動経済学を用いた経済分析

## 授業概要 Course Outline

この演習では、まず行動経済学の理論と分析手法についての基礎的な内容を学習する。その上で、限定合理性を考慮した理論的な分析のように発展的な研究を行うか、特定の分野に関するやや現実的な応用研究を行うことを目的とする。

## 授業の到達目標 Objectives

意思決定理論・ゲーム理論の基本的内容を理解し、それらを現実の経済問題の分析に用いることができるようとするための準備として、行動経済学の基礎的な内容と心理統計の手法の基礎を理解する。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

関連する統計学、ミクロ経済学、ゲーム理論などの基礎的な知識

## 授業計画 Course Schedule

第1回ー第7回：行動経済学のテキストを輪読し、その内容について議論する。

第8回ー第14回：心理統計のテキストを輪読し、その内容について議論する。

また、行動経済学的な内容について、アンケート調査を用いた実証分析の計画をグループ分けをし、立ててもらう。

その計画について、グループごとに発表してもらう。

## 教 科 書 Textbooks

室岡 健志「行動経済学」日本評論社

南風原朝和「心理統計学の基礎 統合的理解のために」有斐閣アルマ

その他

## 参考文献 Reference Books

竹村和久「経済心理学 行動経済学の心理的基礎」培風館

筒井他「行動経済学入門」東洋経済新報社

山田・村井「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房

など。

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	内容の正確さおよび問題設定・分析力を考慮する。
平常点評価 Class Participation	50%	出席および授業への参加度、授業内での発表を総合的に考慮する。
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

学生に対する要望：ミクロ経済学とゲーム理論に関する演習なので、演習参加者は、事前にミクロ経済学とゲーム理論の基礎知識があることが望まれる。それがあまりない場合は、演習での最初のテキストブックの学習の時点で、キャッチアップするやる気のあることが前提条件になる。なおこの演習は、今年度は対面授業を予定している。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
205	経済学演習 I (小倉義明)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	小倉 義明
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

金融の統計分析

## 授業概要 Course Outline

この演習では、金融理論の基本を参加者全員で議論しながら学ぶと同時に、自ら論理を組み立て、統計的手法でそれを立証し、文章あるいはプレゼンテーションとしてそれを表現する訓練をする。

## 授業の到達目標 Objectives

この演習では、以下の 5 点を目標とする。

1. 金融の基礎概念・理論を十分に理解すること。
2. 日々報道される金融事象の意味を的確に把握できること。
3. 自分の前提とする仮定を意識しつつ、自ら論理を組み立て、それを表現できるようになること。
4. 英語による情報収集に慣れること。
5. ソフトウェアを用いた統計分析に慣れること。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

## 授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション・打ち合わせ

第2～7回：テキスト 1 輪読・検討 Part 3: Financial Institutions (毎回 3-4 名程度が担当個所を報告)

第8～11回：統計ソフトウェア R の練習

第12～13回：グループ研究

第14回：グループ研究の中間報告

## 教 科 書 Textbooks

Mishkin, F. S., The Economics of Money, Banking and Financial Markets, Global Ed. (13th)., 2019 (前半でPart 2、後半でPart 3, 4を輪読する。Kindle版がお勧め、中古でも可)

## 参考文献 Reference Books

授業中に関連する論文・書籍・データを紹介する。

評価方法  
Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	グループ研究構想発表会に参加すること
平常点評価 Class Participation	70%	出席。報告。議論への活発な参加。
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

- マクロ経済学A、ミクロ経済学Aを履修済みであることが望ましい。
- 金融論とファイナンスの両方を履修する予定であることが望ましい。
- 計量経済学を並行して履修すると、分析手法の幅が広がるのでなお良い。

指導教員のホームページ

<https://www.waseda.jp/fpse/faculty/2019/08/12/401/>

指導教員の近著 :

『地域金融の経済学-人口減少下の地方活性化と銀行業の役割』 2021年 慶應義塾大学出版会

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
206	経済学演習 I (金子昭彦)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	金子 昭彦
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題  
Subtitle

マクロ経済分析と国際金融

授業概要  
Course Outline

経済学演習Iでは、まず下記の教科書1を利用し国際金融及び国際貿易の基礎を学ぶ。その後、参加者各自の興味を踏まえた上で、教科書2や参考文献にあるような国際金融への実証的アプローチもしくは動学的アプローチに移る。

授業の到達目標  
Objectives

国際金融及び国際貿易の基本モデルを理解すること。

経済学演習IIでは、教科書2を用いて実証的アプローチを勉強する予定であるが、その前段階として国際金融及び国際貿易の基本モデルを理解することが経済学演習Iの目的である。

事前・事後学習の内容  
Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画  
Course Schedule

第1回ー第15回：国際金融及び国際貿易の基礎知識の取得

教 科 書  
Textbooks

1. "The Economics of European Integration" 6th edition Richard Baldwin and Charles Wyplosz, McGraw-Hill Education

2. 「経済・ファイナンスデータの計量時系列分析」 沖本竜義

参考文献  
Reference Books

"International macroeconomics: A modern approach" Martín Uribe, Stephanie Schmitt-Grohé, Michael Woodford, Princeton

「MBAのための国際金融」小川英治 川崎健太郎 有斐閣

「実証から学ぶ国際経済」 清田耕造 神事直人 有斐閣

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	授業準備の状況、授業における積極性
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門の内容を理解していること。  
自習時間に時間をかけることが望まれる。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。  
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.  
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.  
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
207	経済学演習 I (上條良夫)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	上條 良夫
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題  
Subtitle

行動・実験経済学

授業概要  
Course Outline

一連の演習 (I~IV) は、実験経済学および行動経済学に関する卒業論文を執筆することを目標として実施されます。実験経済学の研究の花形である経済実験を利用した研究を遂行するには以下のような多様な能力が必要となります。

- (1) 経済理論や他分野の理論に基づいて仮説・予測を構築する能力
- (2) 仮説・予測を検証するための適切な実験計画を立てる能力
- (3) 実験を準備し、遂行する能力
- (4) 収集されたデータを解析する能力
- (5) 一連の作業を言語化し論文としてまとめる能力

一連の演習では、これらの能力を獲得するための学習に取り組みます。学習内容は、実験経済学・行動経済学・ゲーム理論のテキスト輪読に加えて、実際の研究データを題材としたデータ解析演習、先行研究を読み込んだ上での自分なりの仮説構築を目的としたグループワーク、実験実施の際に必要なマテリアルの作成演習などを含みます。もちろん、一人の個人がこれらの多様なスキルに熟達することは非常に困難です。そこで、学生の皆さんには、まずこれらの能力に関して一定水準のスキルを獲得した上で、それぞれの個性と希望に応じて、

- (A) 数理的な解析に基づいて仮説・予測を構築するグループ
- (B) 政治学・心理学・社会学などの他分野の理論から仮説・予測を構築するグループ
- (C) 実験用の資料やアプリを作成するグループ
- (D) データを解析するグループ

などに分かれて活動してもらいます。

詳細な内容やグループ分けは、学生の関心、習熟度などに応じて臨機応変に決定します。

演習 I では、実験計画書（研究計画書）の執筆を目標とします。

授業の到達目標  
Objectives

卒業論文の執筆に向けた技能を習得するとともに、実験計画書（研究計画書）の執筆をする。

事前・事後学習の内容  
Preparation and Review

入門的な統計学の知識及びゲーム理論の知識を前提とする。

**授業計画**  
Course Schedule

学生の発表とグループワークを中心として演習を進める。

学生の希望に応じて、他大学（同志社大学の田口ゼミなど）との合同ゼミなどの企画について検討する。

- 第1回：研究アイデアに関する進捗報告とディスカッション（1）
- 第2回：研究アイデアに関する進捗報告とディスカッション（2）
- 第3回：研究アイデアに関する進捗報告とディスカッション（3）
- 第4回：研究アイデアに関する進捗報告とディスカッション（4）
- 第5回：研究アイデアに関する進捗報告とディスカッション（5）
- 第6回：研究計画書に関する進捗報告とディスカッション（1）
- 第7回：研究計画書に関する進捗報告とディスカッション（2）
- 第8回：研究計画書に関する進捗報告とディスカッション（3）
- 第9回：研究計画書に関する進捗報告とディスカッション（4）
- 第10回：研究計画書に関する進捗報告とディスカッション（5）
- 第11回：研究計画の発表（1）
- 第12回：研究計画の発表（2）
- 第13回：研究計画の発表（3）
- 第14回：これまでの総括

**教科書**  
Textbooks

講義中に指示する。

**参考文献**  
Reference Books

講義中に指示する。

**評価方法**  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	平常点 50% その他 50% 発表及び実験計画書のクオリティ

**備考・関連URL**  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
208	経済学演習 I (近藤康之)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	近藤 康之
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

貿易、環境、経済効果の計量分析

## 授業概要 Course Outline

製品を生産するには半製品や電力などが必要であり、半製品や電力を生産するには原材料や天然資源が必要です。製品のサプライチェーンは、さまざまな生産プロセス(あるいは産業)の複雑なネットワークにより構成されています。経済のグローバル化が進んだ現代においては、製品のサプライチェーンは世界各国に広がっています。したがって、我々の消費活動は国内産業だけでなく、貿易を通じて他国の産業にも影響を与えます。また、生産活動により不可避的に廃棄物や温室効果ガスなどが排出されるため、我々の消費活動は様々な地域の自然環境にも影響を与えます。持続可能な消費と生産を実現するためには、製品の国際サプライチェーンについて、データに基づいて理解することが必須です。

この演習では、貿易、環境、経済効果の計量分析の方法として、産業連関分析を学びます。産業連関分析は、経済学分野において発展してきたものですが、産業エコロジ一分野における主要な分析手法の1つとしても広く用いられています。経済学演習IとIIを通して、学んだ産業連関分析の方法をデータに適用して環境問題・社会経済問題を分析します。これを1チーム4人程度の共同研究として実施します。

2年生の秋学期後半に実施するプレ演習では、産業エコロジ一分野における産業連関分析に関する分析事例を通して、産業連関分析がどのように用いられているかを学びます。

## 授業の到達目標 Objectives

産業連関分析の基礎的方法を理解し、それを実際にデータに適用して貿易、環境、経済効果の計量分析を行えるようになること。また、分析結果をレポートおよび口頭により発表する技術を向上すること。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する。

## 授業計画 Course Schedule

産業連関分析の基礎的方法の学習は、オンデマンドコンテンツを用いた事前学習と、ゼミの授業時間中の補足説明などを組み合わせて行います。1チーム4人程度で1月までに共同論文を執筆するために予備的分析を行うことが春学期中の課題です。ゼミの授業時間の多くは、共同論文のためのグループワークに充てられます。

第1回ー第6回：共同研究論文のテーマ検討

第7回ー第14回：共同研究論文のためのグループワークおよび進捗報告

## 教 科 書 Textbooks

指定しません。

参考文献  
Reference Books

学期の途中で随時指示します。

小長谷一之・前川知史（編）（2012）『経済効果入門：地域活性化・企画立案・政策評価のツール』日本評論社

藤川清史（2005）『産業連関分析入門：ExcelとVBAでらくらくIO分析』日本評論社

Miller, R. E.; Blair., P. D. (2022) Input-Output Analysis: Foundations and Extensions, 3rd ed. Cambridge University Press

Nakamura, S. ; Kondo, Y. (2009) Waste Input-Output Analysis: Concepts and Application to Industrial Ecology. Springer

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	宿題、共同研究論文（予備的分析）
平常点評価 Class Participation	50%	グループワーク、進捗報告のプレゼンテーション
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year • Credits	担当教員 Instructor
209	経済学演習 I (西郷浩)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	西郷 浩
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

社会・経済の統計的分析

## 授業概要 Course Outline

この演習Iは、Rなどの統計ソフトウェアを利用しながら、各種の統計分析の手法を学習する。教科書を含めた教材は、ゼミ生と相談して選ぶ。ゼミ生全員が自主的に実習に取り組むことを期待する。

この演習は、ゼミ生が演習I、II、III、IVをすべて履修することを想定して、演習IVにおいて演習論文を完成することを最終的な目標とする。演習Iと演習IIは、演習論文作成に必要となる統計的分析手法の習熟に充てられる。演習IIIと演習IVは、各自が選んだテーマに沿って、分析の結果を定期的に報告し、ゼミ生との議論に基づいて分析を発展させることに充てられる。

演習I、演習III（どちらも春学期に開講される）では合宿を実施する予定である。

年間の予定や演習論文のテーマについては、備考・関連URLにある、2004年度以降の演習の記録を参照のこと。

## 授業の到達目標 Objectives

演習I : Rなどのソフトウェアを用いて統計分析が実行できること。

演習II : 同上

演習III : 各自が選んだテーマに沿って統計データを分析すること。

演習IV : 演習論文の完成

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

(1) 「統計学I」と「統計学II」を単位取得済みであること。

(2) 「計量経済学I」を単位取得済みまたは登録中であることが望ましい。演習Iと並行して登録するのもよい。

## 授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション・教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第2回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第3回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第4回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第5回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第6回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第7回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第8回：教科書の輪読  
教科書の輪読とRによる統計実習  
第9回：教科書の輪読  
教科書の輪読とRによる統計実習  
第10回：教科書の輪読  
教科書の輪読とRによる統計実習  
第11回：教科書の輪読  
教科書の輪読とRによる統計実習  
第12回：教科書の輪読  
教科書の輪読とRによる統計実習  
第13回：教科書の輪読  
教科書の輪読とRによる統計実習  
第14回：教科書の輪読  
教科書の輪読とRによる統計実習

教科書  
Textbooks

ゼミ生と相談して決定する。

参考文献  
Reference Books

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	期末レポート（演習で使用したスライドなどをもとに作成したもの）
平常点評価 Class Participation	50%	演習における報告の内容
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

過去の演習の記録 <http://www.f.waseda.jp/saigo/info/seminarsupervision.htm>

提出された演習論文の題名

<http://www.f.waseda.jp/saigo/info/seminartheses.htm>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
210	経済学演習 I (齊藤有希子)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	齊藤 有希子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

空間経済学

## 授業概要 Course Outline

現実社会において、空間経済学がどのような示唆を与えるのか、興味のあるテーマを設定するとともに、学術的な研究背景の理解を促す。

新規性のある研究を行い、研究成果の発表、卒業論文を作成するための指導をする。

## 授業の到達目標 Objectives

文献を精査し、それぞれのテーマにおいて、解明されてきたこと、解明されるべきことを深く考え、論理的に伝えられるようになる。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

データの収集、データの解析、プレゼンテーションの準備などを行う。

## 授業計画 Course Schedule

- ①テーマごとに文献を調査し、文献レビューを発表する。
  - ②興味あるテーマを設定し、データの収集をし、実証分析を行う。
  - ③研究計画を議論し、研究の新規性についてレポートにまとめる。
- 3年次の年度末および卒業時には論文の提出を義務付ける。  
質の高い卒業論文を書くことが最終的な目標である。

## 教 科 書 Textbooks

## 参考文献 Reference Books

適宜指示する。

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	学期中、学期末に2回提出するレポートによって評価する。
平常点評価 Class Participation	70%	自身の研究発表および他人の発表に対する質問・コメントを評価する。
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

ミクロ経済学の基礎、経済数学の基礎を前提とする。  
空間経済学またはSpatial Economicsの講義を履修すること。

# 経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
211	経済学演習 I (笹倉和幸)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	笹倉 和幸
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題  
Subtitle

マクロ経済学 (新古典派総合)

授業概要  
Course Outline

この演習では新古典派総合について研究する。新古典派総合とは、短期においてはケインズの理論がそして長期においては新古典派の理論が成り立つという、1955年にサミュエルソンによって提案されたマクロ経済学の考え方である。新古典派総合は1960年代には影響力があったが、次第に顧みられなくなり、現在では「瓦解した理論体系」とみなされている。この演習では新古典派総合の今日的意義を探究する。新古典派総合については『標準 マクロ経済学』13~15ページにわかりやすい説明がある。さらに新古典派総合については参考文献 (1) ~ (4) を、マクロ経済学の現状については参考文献 (5) ~ (8) をできるだけ読んでおくこと。

授業の到達目標  
Objectives

新古典派総合について自分自身の考えをもてるようになる。

事前・事後学習の内容  
Preparation and Review

ケインズ『一般理論』を毎週2章ずつ読んで報告書を作成する。所要時間は毎週90分。

授業計画  
Course Schedule

第1回：ケインズ『一般理論』  
ケインズ『一般理論』について説明します。  
第2回：古典派理論とセイの法則  
古典派理論とセイの法則について説明します。  
第3回：有効需要の原理  
有効需要の原理について説明します。  
第4回：消費理論  
消費理論について説明します。  
第5回：乗数理論  
乗数理論について説明します。  
第6回：投資理論  
投資理論について説明します。  
第7回：流動性選好説  
流動性選好説について説明します。  
第8回：貨幣数量説  
貨幣数量説について説明します。  
第9回：ハロッドの経済動学  
ハロッドの経済動学について説明します。  
第10回：ケインズ派の景気循環理論  
ケインズ派の景気循環理論について説明します。  
第11回：ヒックスとIS-LMモデル  
ヒックスとIS-LMモデルについて説明します。  
第12回：マネタリズムと合理的期待形成学派

マネタリズムと合理的期待形成学派について説明します。

第13回：新しいケインズ派経済学

新しいケインズ派経済学について説明します。

第14回：新古典派経済成長理論

新古典派経済成長理論について説明します。

教科書  
Textbooks

Keynes, John M., 1936, The General Theory of Employment, Interest and Money, London: Macmillan. (ケイズ (塩野谷祐一訳), 1995, 『雇用・利子および貨幣の一般理論』東洋経済新報社.)

参考文献  
Reference Books

- (1) 荒憲治郎, 1974, 「新古典派総合：混合経済下の政策論の模索」, 稲田献一・岡本哲治・早坂忠編『近代経済学再考』有斐閣, pp. 91-118.
- (2) 根井雅弘, 2018, 『サムエルソン『経済学』と新古典派総合』中央公論新社.
- (3) De Vroey, Michel, 2016, A History of Macroeconomics from Keynes to Lucas and Beyond, New York: Cambridge University Press.
- (4) Karier, Thomas, 2010, Intellectual Capital: Forty Years of the Nobel Prize in Economics, Cambridge: Cambridge University Press. (カリア (小坂恵理訳), 2012, 『ノーベル経済学賞の40年』(上下巻) 筑摩書房.)
- (5) Chugh, Sanjay K., 2015, Modern Macroeconomics, Cambridge, Massachusetts: The MIT Press.
- (6) Colander, David, and Craig Freedman, 2019, Where Economics Went Wrong: Chicago's Abandonment of Classical Liberalism, Princeton: Princeton University Press.
- (7) Mankiw, N. Gregory, 2006, "The Macroeconomist as Scientist and Engineer," Journal of Economic Perspective, Vol. 20, pp. 29-46.
- (8) Romer, David, 2019, Advanced Macroeconomics, 5th Edition, New York: McGraw-Hill. (ローマー (堀雅博・岩成博夫・南條隆訳), 2010, 『上級マクロ経済学』(第3版) 日本評論社)

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	40%	3年次はタームペーパー、4年次はゼミ論文の質で評価する。
平常点評価 Class Participation	60%	授業への積極的参加。
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year • Credits	担当教員 Instructor
212	経済学演習 I (鎮目雅人)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	鎮目 雅人
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

世界の中における日本経済の歴史/Japanese economy in the modern world

## 授業概要 Course Outline

われわれが生きている現在は、過去から未来へと続く長い歴史の一局面である。本演習では、グローバルな環境の中での日本の位置づけの変遷を意識しつつ、日本経済史研究の基礎を学ぶ。その際、経済学の知識(理論・実証)と歴史学のアプローチ(史料批判/document critique)を用いて社会現象を分析する方法論を学ぶ。履修者は、自ら資料を読み歴史について考えるという意味で、講義科目としての経済史の授業(既存の研究成果を受け身で受け取る)とは異質な世界を体験することとなる。春学期(演習I)においては、経済史に関するカレントなトピックを選び、資料を批判的に検討する。毎回、参考文献・資料について、全員でディスカッションを行うことを想定しているので、参加者全員があらかじめ参考文献に目を通しておくことが期待される。履修者は、2年生秋学期までに「経済史入門」「日本経済史」を履修すること。なお、ゼミへの参加に際して日本語の文献を読む能力は必須である/Students are expected to be able to read contemporary Japanese.

## 授業の到達目標 Objectives

日本経済史研究の基礎を習得したうえで、経済史研究の方法論に則り、各自が単著による研究論文を完成させることを最終目標とする。そのための準備作業を通じ、①自らの問題意識に基づき、②客観的な論拠に基づいて検証を行い、③研究の成果を他者に伝える技術を習得する。研究論文の執筆言語は日本語または英語とする/Students will be required to write a thesis either in Japanese or English.

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎回のゼミに際して、事前に全員が課題に目を通し、ゼミ開始までに要約を提出することを義務付ける。

## 授業計画 Course Schedule

- 第1回：授業の目的、今後の進め方
- 第2回：課題図書の輪読
- 第3回：課題図書の輪読
- 第4回：課題図書の輪読
- 第5回：課題図書の輪読
- 第6回：課題図書の輪読
- 第7回：卒業論文作成に向けた研究計画
- 第8回：課題図書の輪読
- 第9回：課題図書の輪読
- 第10回：課題図書の輪読
- 第11回：課題図書の輪読
- 第12回：課題図書の輪読
- 第13回：課題図書の輪読
- 第14回：卒業論文作成に向けた研究計画

教科書  
Textbooks

指定しない。

参考文献  
Reference Books

その都度指示する。

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	毎回のゼミの事前課題：30% 授業への積極的参加（報告・ディスカッション）：70%

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year • Credits	担当教員 Instructor
213	経済学演習 I (田中久稔)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	田中 久稔
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

経済学のための数学的方法

## 授業概要 Course Outline

この演習では、経済学（とくに計量経済学）を学ぶにあたって必要となる数学的な基礎を習得する。線形代数や統計学の基礎をすでに身につけている学生を対象に、計量経済学の基礎理論（最小二乗法、GMM、最尤法など）についてのトレーニングを行う。参加希望者は以下の点に十分に注意すること：(i) 本演習では統計処理言語「R」や数学的文書作成ソフト「LaTeX」を多用する。したがって各自が自分のノートPC（安価なもので構わない）を用意する必要がある。 (ii) この演習では非常に広い範囲を深く学習することになるため、月曜4限・5限に2コマ連続して実施する。 (iii) 木曜日4限にサブゼミを実施する。大学院進学希望者は参加を義務付ける。

## 授業の到達目標 Objectives

以下の3点を目標とする。

- (i) 計量経済学の理論的な基礎について、十分な理解を得る。
- (ii) 社会・経済現象を統計処理言語「R」を用いて数値的に分析する。
- (iii) 「LaTeX」を用いて数理的な内容を含む小論文を執筆できる。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

ゼミの前後に予習復習を課す。また当番制でゼミの内容をまとめたノートをLaTeXにより作成する。いずれも数時間をする。

## 授業計画 Course Schedule

- 1) 数理統計学の復習とLaTeXの使い方（プレゼン）
- 2) ノンパラメトリック推定理論の基礎
- 3) 機械学習によるノンパラメトリック推定

## 教 科 書 Textbooks

西山・人見「ノン・セミパラメトリック統計解析」（共立出版）  
Devroye and Lugosi, Combinatorial Methods in Density Estimation, Springer

## 参考文献 Reference Books

田中久稔「計量経済学のための数学」（日本評論社）  
星野・田中・北川「Rによる実証分析」（オーム社）

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	100%	毎回のゼミの後に作成する「議事録」によって評価する。
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
215	経済学演習 I (内藤巧)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	内藤 巧
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle
-----------------

国際貿易論

授業概要 Course Outline
------------------------

国々はどのような財を輸出し、輸入するのか？人々は貿易から利益を受けるのだろうか？このような問題を扱う国際貿易論は19世紀以来多くの人たちの興味を引きつけてきたが、それを理解し、他人に説明できるまでに習熟するのは平均的な経済学科の学部生にとって非常に難しい。

国際貿易論が難しい1つ目の理由は、一般均衡モデルを考えなければならないからである。国際貿易は異なる産業の間で、あるいはある産業内の異なる製品の間で起こるものなので、必然的に2つ以上の財あるいは製品（そしてそれらの生産に使われる生産要素も）の市場均衡を同時に扱わなければならない。中級ミクロ経済学の授業でさえ不十分にしか触れられない生産経済の一般均衡モデルを、2つ以上の国がある経済で分析しなければならないのだから、理論的な難易度が高いのは当然である。

2つ目の理由は、国際貿易論の実証科学化である。より細かいデータの入手可能性とコンピューターの性能が高まり続けていく中で、国際貿易の理論はますます実証可能になってきている。しかしながら、理論と現実の距離を正確に測るために、適切な計量手法を理解し、実装するスキルを身につけなければならない。

このように、国際貿易論に習熟するには多くの時間と努力が必要である。このゼミでは、I-IVの4学期にわたって、国際貿易モデル（完全競争モデルと不完全競争モデル）の理論と実証を「ゆっくり」「深く」学ぶ。より具体的には、奇数年度には完全競争モデル（リカード・モデル、ヘクシャー・オリーン・モデルなど）、偶数年度には不完全競争モデル（クルッッグマン・モデル、メリッツ・モデルなど）を扱う。春学期（演習I, III）には理論、秋学期（演習II, IV）には実証を行う。

前提条件として、演習Iの開始時点までに2年春学期配当「ミクロ経済学A」、及び演習IIの開始時点までに2年春学期配当「計量経済学」を履修するか、それと同等の知識を身に着けていることが必要である。

授業の到達目標 Objectives
-----------------------

国際貿易モデル（完全競争モデルと不完全競争モデル）の理論と実証を理解し、説明できるようになる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review
--------------------------------------

発表者はランダムに当たられるので、全ての学生は常に発表の準備をし、章末問題を解いておかなければならぬ。理論の場合は発表スライドを用意する必要はない。

授業計画 Course Schedule
-------------------------

奇数年度第1回 - 第14回：完全競争貿易モデルのハンドアウトを輪読し、章末問題を解く。  
偶数年度第1回 - 第14回：不完全競争貿易モデルのハンドアウトを輪読し、章末問題を解く。

教科書  
Textbooks

なし；ハンドアウトがオンラインで配布される。

参考文献  
Reference Books

大学院レベル：

Feenstra, R. C., 2016. Advanced International Trade, Second Edition, Princeton University Press, Princeton.

実証（演習II, IVの教科書）：

清田耕造, 神事直人, 2017. 『実証から学ぶ国際経済』. 有斐閣, 東京.

中級（プレ演習の教科書）：

阿部顕三, 遠藤正寛, 2012. 『国際経済学』. 有斐閣, 東京.

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	・発表及び議論のパフォーマンスを総合的に評価する。 ・欠席3回以上で不合格。ただし、就職活動等による欠席は事前に証拠を提出したときのみ欠席として扱わない。
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

<<https://www.f.waseda.jp/tnaito/>>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
216	経済学演習 I (船木由喜彦)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	船木 由喜彦
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

ゲーム理論と実験経済学

## 授業概要 Course Outline

この演習では I から IVまで継続することにより、「ゲーム理論」の基礎を修得すること、また、「経済学実験」を実施・分析する基礎能力を修得することを目標とします。さらに、それに関連する経済学・政治学諸分野の問題を研究します。例えば環境問題、情報の経済学、産業組織論、公共財供給問題などがそれらの研究テーマの一例となります。

ゲーム理論では、互いに依存関係のある状況における、個人の合理的な意思決定や行動を研究します。実験経済学では、ゲーム理論や経済学の理論のとおりに人々が行動するのか、もし、そうでないとすると、それはなぜかという問題を研究します。

最終的な目標は自分の定めた研究テーマの卒業論文を作成し、それを卒論発表会で報告して頂くことです。3 年次の演習 I・演習 II では、このための基礎研究をします。まずは、担当教員の推薦するゲーム理論あるいは実験経済学の平易なテキストまたは資料を輪読することから始める予定です。その際、実際にゼミの皆さんに参加していただいて、人々の行動選択の実験を実施し、実験経済学をより理解していただく予定です。卒業論文のテーマとしては上記のほか、実際に実験を実施した研究、国際政治・国際経済に関する研究、スポーツのゲーム理論分析、制度の比較研究、交通混雑の解消の問題、ゼミの学生マッチングの問題など内容は多岐にわたりますが、そのほとんどがゲーム理論に関連した研究です。その中には論文コンクールにおいて優秀賞を受賞したものもあります。なお、卒業論文の内容は卒論発表会にて報告しますが、OB や 2 年生の参加もあります。例年、1-2 割の学生が大学院に進学します。なお、各演習科目修了時にはその期間に学んだことをまとめたレポートを作成していただきます。

実験経済学に関しては、担当教員の実施する経済学・ゲーム理論実験に参加して頂き、実地的に実験経済学の知識・技能を修得して頂く予定です。東京大学や慶應大学とのインターベゼミ、さらにオープンゼミの準備、発表会なども実験経済学の修得に役立ちます。

## 授業の到達目標 Objectives

ゲーム理論の基礎知識の確実な修得、経済学実験実施・分析能力の修得、さらにそれらを踏まえた応用力の養成。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画  
Course Schedule

大学の基準に沿って、対面授業で行います。

経済学演習 I

- 第1回：春休み中の研究報告、テキスト選定、年度計画  
第2回－第13回：テキスト輪読、経済学実験実習  
第14回：テキスト輪読、経済学実験実習、オープンゼミへの対応を含めた演習  
夏合宿（テキスト輪読、経済学実験実習、懇親会）

経済学演習 II

- 第15回－第20回：テキスト輪読、経済学実験実習、慶應大学とのインターフェース  
第21回－第22回：卒論テーマ設定（議論と面接）  
第23回－第24回：卒論研究に向けての報告と議論、3年次期末レポートの作成  
第25回－第26回：4年生の卒論に対する討論、3年次期末レポートの作成  
第27回：卒論発表会（4年生）と討論会  
第28回：今後研究計画の報告、3年次期末レポートの提出

教科書  
Textbooks

担当教員の配付する資料またはテキストを用います。

参考文献  
Reference Books

- 船木由喜彦『初めて学ぶゲーム理論』（新世社）  
船木由喜彦『ゲーム理論講義』（新世社）  
船木、武藤、中山編著『ゲーム理論アプリケーションブック』（東洋経済新報社）  
中山、武藤、船木編著『ゲーム理論で解く』（有斐閣）  
武藤滋夫『ゲーム理論入門』（日経文庫）  
船木、石川編著『制度と認識の経済学』（NTT出版）  
佐々木宏夫『入門ゲーム理論』（日本評論社）  
梶井厚志『戦略的思考の技術』（中公新書）  
船木由喜彦『演習ゲーム理論』（新世社）  
岡田 章『ゲーム理論・入門』（有斐閣アルマ）  
河野、西條編『社会科学の実験アプローチ』（勁草書房）  
川越敏司『行動ゲーム理論入門』（NTT出版）  
フリードマン・サンダー『実験経済学の原理と方法』（川越ほか訳・同文社）

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	出席点を基に、演習での報告、議論、レポートの内容を加味して成績評価をする。

備考・関連URL  
Note・URL

学生に対する要望：「受講希望学生に対する掲示」を良く読んでください。

関連URL：<http://funakiwaseda.goodplace.jp/>

<http://yukihikofunaki.blogspot.jp/>

大学院進学希望者は4年次より、大学院のゼミに参加することができます。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
217	経済学演習 I (別所俊一郎)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	別所 俊一郎
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

財政・公共政策の実証研究

## 授業概要 Course Outline

大学は知識を創造しているところです。講義ではすでに創造された知識を伝達することに重点が置かれています。せっかく大学に来ているのに、それだけではもったいないです。

演習は、知識を創造するという経験をする場所です。すでに創造された知識を受け取るだけでなく、受け取った知識を活用して、自分なりの問題に対して回答を導き出し、新たな知識を生産します。さらに、新しく生産された知識を分かりやすく他の人に伝達するという訓練も行います。そのため、このゼミでは、他の講義や授業でもできることはやりません。準備し、発表し、質問を受け、回答を返すことを通して、新たな知識の創造を、少人数体制でじっくりと体験します。

知識を創造することは、ものの見方をえます。新たに知識を得ると、テレビを見ても、電車に乗っても、街を歩いていても、これまでとは違った風景に感じられるはずです。学問とは、そのためにあるのです。大学で、大学らしいことを、やってみましょう。

## 授業の到達目標 Objectives

この演習での目標は、みなさん自身が興味のあるテーマについて論文を書き上げることです。自分の興味のあるテーマについて経済学的な論文を書くことは、得難く、楽しい経験になるはずです。「経済」にいまひとつ興味がもてない人、数式やグラフで練習問題は解けても何をやっているんだかびんとこない人に、もつと知的で素敵な体験をしてほしいと思っています。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

2年生秋学期から3年生にかけて、計量経済学系科目と、政策系の科目の履修を強く推奨します。具体的な科目については個別に紹介します。

## 授業計画 Course Schedule

演習1では、演習2以降で行う実証研究の基礎を固めるために、まず、計量経済学の基礎的手法の実践、統計・計量経済学ソフトウェアの扱いについて学びます。次に、研究テーマの探索・関連する先行研究の検討を進めます。

授業は学生の発表と、それに対する学生と教員のコメント、応答を中心進めます。より具体的な方法については参加者と相談して決定します。1学期内での発表回数は、参加者数にもよりますが、多めになる予定です。

教科書  
Textbooks

とくになし

参考文献  
Reference Books

Stock, James H., Mark W. Watson. 2019. Introduction to Econometrics, Global Edition.  
そのほか、適宜紹介します。

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	ゼミの一員として毎回出席して積極的に発言することを求めます。欠席するときには事前に教員に必ず連絡してください。
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

応募に際しては、ゼミオリエンテーション資料と、教員ウェブサイト <http://tiny.cc/besshosemifaq> を必ず参照してください。

# 経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
218	経済学演習 I (星野匡郎)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	星野 匡郎
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle
-----------------

ミクロ計量経済学と機械学習

授業概要 Course Outline
------------------------

ミクロ計量経済学とは、個人や家計、企業などの個票データに関する計量経済手法のことを指します。本講義では、機械学習を含む先端的なミクロ計量経済学の学習に取り組みます。

近年はとくに機械学習を中心に学習しています。

具体的な内容については、テキストの輪読、統計ソフトを用いた演習、グループでの論文執筆、論文・政策コンテストへの参加など、学生のレベルや希望に応じて決定します。

2024年9月～2025年8月まで在外研究の予定です。この間のゼミはオンラインで行います。

授業の到達目標 Objectives
-----------------------

卒業論文の執筆に向けて、より専門的なテキストや先行研究を読解できるようになる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review
--------------------------------------

入門的な計量経済学の知識は前提とします。

授業計画 Course Schedule
-------------------------

学生の発表を中心に授業を進めます。前半はテキストの輪読、統計ソフトを用いた演習、グループワークなど。後半から卒業論文執筆に向けてより応用的な学習を行います。そのほか、合宿や他大学との合同ゼミの有無などは、学生の希望に応じて決定します。

教 科 書 Textbooks
--------------------

講義中に指示する

参考文献 Reference Books
-------------------------

2018年度輪読テキスト

『Rによる実証分析：回帰分析から因果分析へ』 (2016) オーム社 星野匡郎, 田中久穂

2019年度輪読テキスト

『Pythonからはじめる数学入門』 (2016) オライリージャパン Amit Saha

『ゼロから作るDeep Learning: Pythonで学ぶディープラーニングの理論と実装』 (2016) オライリージャパン 斎藤康毅

2020年度輪読テキスト

『TensorFlowで学ぶディープラーニング入門』 (2016) マイナビ出版 中井悦司

2021年度輪読テキスト

『東京大学のデータサイエンティスト育成講座』 (2019) マイナビ出版 塚本邦尊, 山田典一, 大澤文孝

『自然言語処理のための深層学習』 (2019) 共立出版 Yoav Goldberg

2022年度輪読テキスト

『Pythonで動かして学ぶ！あたらしい機械学習の教科書』 (2019) 翔泳社 伊藤真

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	60%	授業出席, 発表, 議論への参加
その他 Others	40%	発表のクオリティーに応じて加算する.

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
219	経済学演習 I (村上由紀子)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	村上 由紀子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

労働に関する研究

## 授業概要 Course Outline

経済活動における労働の役割や貢献は大きい。生産関数には労働という生産要素が含まれ、これは人口の影響を受けるが、その質を高め活かすことは、企業の繁栄、イノベーション、経済成長へつながっていく。また、労働力を供給する人間の多くは、人生の多くの時間を労働に費やしている。能力を発揮し、やる気をもつて仕事に取組みながら、人生の中でワークとライフのバランスをとっていくことは重要である。本演習では、経済の根幹と我々の生活を支える労働について、国や企業の視点からは、技術進歩、産業構造の変化、経済のグローバル化、少子高齢化等の環境変化の中で、いかに人的資源の質を高め、有効に活用し様々な分野で成果を上げていくかという課題について取組む。また、勤労者の視点からは、個人がより幸せになるように、ライフステージに応じた労働時間、働き方、職業の選択、教育訓練投資や労働移動（転職や国際移動）などが実現するように、社会の仕組みや政策について考察する。

## 授業の到達目標 Objectives

授業概要で記したテーマに関連する文献を読み、ディスカッションを行うことを通じて、知識を深め、思考力と研究に必要なスキルを高める。また、12月に予定されているインターゼミナールの準備として、グループに分かれ、研究課題を設定し、研究計画をたてる。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

## 授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション  
第2回～5回：文献研究とディスカッション  
第6回：ディベート  
第7回：データ検索  
第8～11回：文献研究とディスカッション  
第12～13回：グループ研究の課題設定と研究計画  
第14回：プレゼンテーション

教科書  
Textbooks

参考文献  
Reference Books

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	出席および授業中のディスカッション等への参加(50%) 宿題(30%) グループワークの成果(20%)

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year • Credits	担当教員 Instructor
220	経済学演習 I (山本竜市)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	山本 竜市
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題  
Subtitle

ファイナンス

授業概要  
Course Outline

ファイナンスとは資産運用・取引、リスクマネージメント、投資の意思決定に関する研究全般を示します。本演習ではファイナンス分野の教科書の輪読やファイナンス理論・実証論文のサーベイを通じ、卒論のテーマの探し方、論文の書き方、研究発表方法など指導します。卒論では興味のあるファイナンスの世界にある問題をとりあげ、データを使って（数学を使っても構わない）簡単に分析してもらいます。

毎年8月下旬にソウル国立大学、台湾国立政治大学、Israel College of Management、千葉商科大学（学長ゼミ）、ベトナム国立大学などの学生、教員が一度に集まるインゼミを行います。毎年参加者数約150人の大きな大会でインゼミでの使用言語は英語です。国際感覚を養ってもらいます。2014年のインゼミはベトナム国立大学、2015年は台湾国立政治大学、2016年はソウル国立大学、2018年は千葉商科大学にて開催。2022年度は台湾国立政治大学主催でZoomでの開催、2023年はベトナム国立大学にて現地開催予定。

本演習履修前に2年生のプレ演習に参加してください。プレ演習の内容は後日emailにて連絡します。

授業の到達目標  
Objectives

本演習では、ファイナンス分野の教科書の輪読、理論・実証論文のサーベイ、卒論作成の過程で、以下の点を到達目標とします。1) ファイナンスの基礎概念の理解する、2) 基礎概念を応用することで現実で見られる様々な経済問題の原因を理解する、3) 現実で見られる経済問題に対し自分の意見をまとめ、発表する能力・技術を磨く。卒論とは別にインゼミに向け英語での論文を作成し、英語での発表の仕方も勉強します。

事前・事後学習の内容  
Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画  
Course Schedule

第1回：打ち合わせ

第2-14回：ファイナンス分野の教科書の輪読または理論・実証論文のサーベイ、研究報告

第15回：各自の研究計画の検討

教科書  
Textbooks

参考文献  
Reference Books

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	報告、討論、出席などが評価される。レポート、宿題を課す場合もある。
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
221	経済学演習 I (若田部昌澄)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	若田部 昌澄
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

現実の経済問題を考えるための経済学史：中央銀行の経済学史的研究

## 授業概要 Course Outline

私は経済学は大変面白いと思っています。ただ、多くの学生は、経済学の面白さを体感するところまでは到達していないのが実情ではないでしょうか。経済学が面白くなるには、経済学を使ってみることが一番です。そもそも経済学は現実の経済問題を理解し、解決することを目的としてきました。この点、色々と批判はありますが、問題解決の学問としての現在の経済学は実際の役に立ちます。例えば、2021年初頭から世界的にインフレ率が上昇しました。この現象について、ここまで最も優れた予測と解説をしてきたのは、オリヴィエ・ブランシャールら主流派の現代マクロ経済学者たちでした。もちろん、彼らも完璧ではなく、間違えていたところもあります。むしろ、経済学者はその時々の情勢を踏まえて、経済知識のアップデートを進めているし、進めていくのが健全な姿です。ここで、経済学の歴史を知っていることも大いに役に立ちます。経済学史は、経済そのものの歴史を扱う経済史とは異なり、経済学という学問の歴史です。しかし、歴史はそれ自体を学ぶことよりも、経済問題を念頭に置きながら経済学の論理と組み合わせると面白みが増します。ことに、人類がこれまで経験してきた経済・金融危機や、大きな変化に対して、経済学者がいかに格闘し、経済学を進化させてきたのかを理解すると、経済学が身近に、そして重要なものとして実感できます。私の最近の関心は、中央銀行の理論と実践を経済思想史的に考察することです。特に、中央銀行は、歴史的にみて数々の経済・金融危機に直面してきたことから生まれたものであり、経済学との関係は最も密接ですし、今後もそうあり続けると考えられます。さらに、現在、世界経済は、「大きな政府」への転換、脱グローバル化、生産性の低下、成長地域の変遷、気候変動、技術変化、格差の拡大、地政学的リスクの増大といった数々の変化にさらされていると言われています。こうした変化がどこまで事実かはさておき、中央銀行も変化への対応に迫られており、中央銀行の任務についても見直しがされています。従来の任務に限ってみても、変化が物価と金融システムに与える影響には無視し得ないものがあります。なお、演習は2つのパートに分けて運営する予定です。パート1は、現在の経済問題を自由に考えます。この問題は、その時々に話題になっていることならば、何でも取り扱います。そこから、歴史と繋げる試みをしましょう。例えば、最近話題のAIの急速な進歩は過去に先例がないことで、歴史からは何も学ぶことはないのでしょうか。そうではない、というのが、ダロン・アセモグルとサイモン・ジョンソンの新著Power and Progressです。むしろ現在しっかりと対応するには歴史を学ぶべきだというのが彼らの主張です。パート2は、現在の私の関心事である中央銀行の経済学史的研究に関わる研究になります。ここでは、中央銀行の歴史、金融政策・ブルーデンス政策の理論と実践、そして中央銀行の将来について考えて行きます。

文献読解が主になりますが、時には外部から講師を読んできてお話をさせていただくことも有益でしょう。

## 授業の到達目標 Objectives

1. 論理的な思考力を身につける
2. 口頭でのプレゼンテーション能力を身につける
3. 文献を読むことを苦にしなくなる
4. 英語の文献を読むことを苦にしなくなる
5. 文章を書くことに慣れる
6. 現実の経済問題を分析する能力を身につける
7. 経済学の古典に親しむ

事前・事後学習の内容  
Preparation and Review

1. 事前には教科書の予習が必須。マクロ経済学、ミクロ経済学について、きちんと理解しておくように。
2. 事後的には、学んだことをどう活かすかを考えることが重要。

授業計画  
Course Schedule

1. 問題解決とは何か：どういう道具が必要か、どういう問題を考えるか、どういう解決策を考えるか
2. 中央銀行の歴史
3. 中央銀行と経済学
4. 中央銀行の将来

教科書  
Textbooks

安宅和人『イシューからはじめよ——知的生産の「シンプルな本質」』(英治出版、2010年)：問題解決の手引きとして有用。

アギオン、フィリップ、セリーヌ・アントニン、サイモン・ブネル『創造的破壊の力』(東洋経済新報社、2022年)：マクロ経済学のもう一つの軸である経済成長論の現状評価として有用。金融政策を考える上でも有益。

Bernanke, Ben S, 21st Century Monetary Policy: The Federal Reserve from the Great Inflation to COVID-19 (W. W. Norton, 2022年)：言わずと知れた米連邦準備制度理事会元議長かつノーベル経済学賞受賞者による中央銀行論。これがメインテキストになる。

Blanchard, Olivier, Fiscal Policy under Low Interest Rates (The MIT Press, 2022) (『21世紀の財政政策』日本経済新聞出版、2023年)：金融政策は財政政策と密接に関係していることがよくわかる。

Brunnermeier, Markus K., and Ricardo Reis, A Crash Course on Crises: Macroeconomic Concepts for Run-Ups, Collapses, and Recoveries (Princeton University Press, 2023) : 100ページ余りで経済危機のマクロ経済学をまとめている。先進国だけでなく、Emerging Marketsにも目配りしているのが良い。

その他の教科書については、興味深い新刊が出てくるかもしれない、演習の中で決める。

参考文献  
Reference Books

若田部昌澄『危機の経済政策』(日本評論社、2009年)

Wakatabe, Masazumi, Japan's Great Stagnation and Abenomics: Lesson for the World (PalgraveMacmillan, 2015)

若田部昌澄「歴史一『大自動化問題』論争の教訓」山本勲編著『人工知能と経済』(勁草書房、2019年)、305-338頁

若田部昌澄「金融政策の未来：貨幣経済学の歴史に学ぶ」景気循環学会第38回大会における基調講演、2022年12月3日。 [https://www.boj.or.jp/about/press/koen\\_2022/ko221203a.htm](https://www.boj.or.jp/about/press/koen_2022/ko221203a.htm)

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	小論文と平常点評価を持ってかえる。
レポート Papers	20%	学期末に提出する小論文の質。経済学史と何らかの関連付けがある限り、題材は学生が自由に選択できる。ただし、事前に講師と相談することが望ましい。
平常点評価 Class Participation	80%	出席は必須。無断欠席はしないように。日頃の発表、議論への参加度で評価する。
その他 Others	0%	該当なし。

備考・関連URL  
Note・URL

演習を希望する学生には以下のことを望みます。

1. 担当講師について、あらかじめ知識を得ておくこと。例えば、参考文献に挙げている本を読んでもらうと、講師についての理解が深まるでしょう。
2. 英語に苦手意識を持っていないこと。
3. 演習は自習ではなく、共同作業です。講師や他の受講生とコミュニケーションが取れることが大事です。
4. 経済学そのものをしっかりと学ぶこと。ことに計量経済学を受講することを強く薦めます。
5. 知的好奇心を持っていること。

# 国際政治経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
301	国際政治経済学演習 I (久保慶一)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	久保 慶一
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

現代世界の武力紛争と紛争後平和構築

## 授業概要 Course Outline

冷戦終焉後、旧ユーゴやルワンダをはじめ、スラブ・ユーラシア、アフリカ、中東、ラテンアメリカ、アジアなど新興国で起きている武力紛争（内戦）が人道的危機として国際社会の関心を集めている。これを受け、紛争を終結させるための武力介入（人道的介入）、紛争終結後の戦闘員の武装解除と社会復帰（DDR）、紛争中に起きた非人道的行為に関する真相究明と責任者の処罰（移行期正義）、紛争再発を予防するための政治経済機構の再建（紛争後国家建設）など、紛争の終結と再発防止のために国際社会による様々な取り組みが行われている。本演習では、武力紛争はなぜ発生するのか、その終結や再発防止のために国際社会が行う様々な取り組みにはどのような効果があるのか、といった諸問題について考察する。比較政治学では、紛争発生の諸要因や、国際社会による介入・政策の効果について、多くの理論や実証的研究の知見が蓄積されている。演習Iは、卒業論文を執筆するための出発点として、自分が選択したテーマに関する先行研究を各自が渉猟し、その内容に関するプレゼンテーションと質疑応答という形で進めていく。各自の研究テーマに関する基礎的概念や理論について確認し、各分野の実証的知見を批判的に理解することを目的とする。各自の研究テーマの設定に際しては、地域や方法論に関する制限は特に設けない。多様な地域、方法論に関心を有する学生を歓迎するが、武力紛争・内戦の発生要因や国際社会の取り組みの効果に関する先行研究には、計量的な手法を用いた研究が多数あるので、計量分析手法に関する知識・スキルを有していることが望ましい。

## 授業の到達目標 Objectives

1. 内戦、紛争後平和構築に関する比較政治学の理論的・実証的な先行研究を批判的に理解する。
2. 演習参加者が卒業論文のテーマを決定し、そのテーマに関する先行研究のリサーチを開始する。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

## 授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション：ゼミの運営方法に関する説明、参加者の自己紹介、各週の発表者の分担の決定などを行います。

第2回～第13回：各自のテーマについての先行研究についてのプレゼン：ゼミ参加者が自分のテーマについての先行研究1～2点の内容を紹介するプレゼンテーションを行い、それに関する質疑応答を行います。先行研究の批判を通じて各自の研究テーマを絞り込んでいくことを目指します。

第14回：まとめ：春学期の議論を総括します。最後に、ゼミ参加者が各自の夏季休暇中の課題について発表します。

教科書  
Textbooks

特になし。

参考文献  
Reference Books

久保慶一・末近浩太・高橋百合子『比較政治学の考え方』有斐閣、2016年。  
柏谷祐子『比較政治学』ミネルヴァ書房、2014年。  
久米郁男『原因を推論する－政治分析方法論のすゝめ』有斐閣、2013年。  
加藤淳子・境家史郎・山本健太郎編『政治学の方法』有斐閣、2014年。

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	ゼミでの発表の内容、ディスカッションにおける発言・議論の内容などをもとに総合的に評価します。
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 国際政治経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
302	国際政治経済学演習 I (久米郁男)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	久米 郁男
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

政治現象分析の技法: 原因を推論する

## 授業概要 Course Outline

この演習の目標は日常起こっている様々な現象を政治学的に考える訓練を行うことになります。政治的な紛争というものは、紛争当事者が理性的に話し合えば解決できるのでしょうか?人道的援助は、世界を平和にするのだろうか?政策のことをしっかりと考えて皆が投票すればよい政治が実現するのでしょうか?経済が成長すれば、民主化するのでしょうか。新聞やテレビでの「常識」とは少し違う角度から様々な政治経済現象を見ることによって政治学の世界を学びます。扱う対象は多様ですが、政治学とりわけ実証的・経験的な政治学における分析方法を学び、様々な政治現象が何故生じているのかを説明する能力を磨いてもらいます。

なお、ゼミがスタートするまでに統計ソフトを使って重回帰分析が出来るようになっていることを前提にゼミを進行します。プレ演習では、そのための実習を行いますが、事前の統計的知識は不要です。

3年生は、4年生ゼミにも参加することを求めます。

ゼミ合宿については、ゼミ生の希望があれば実施します。

## 授業の到達目標 Objectives

様々な政治現象を、他人の意見に簡単に説得されず、データや理論に基づいて社会科学的に分析し、自らの主張をディベート、プレゼン、論文の形で提示し、人を説得する能力の涵養を目指します。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

ゼミがスタートするまでに、統計ソフトを使って重回帰分析が出来るようになっていることを前提にゼミを進行します。プレ演習では、統計分析の手法についての実習を行います。事前の統計的知識は不要です。

## 授業計画 Course Schedule

- 第1回：はじめに
- 第2回－第5回：方法論の基礎
- 第6回：分析のロジック
- 第7回－第8回：ディベート
- 第9回：政治経済学的問へ
- 第10回：研究デザイン
- 第11回：合理性について
- 第12回：ゲームの世界
- 第13回－第15回：古典を読む
- 第16回：プレゼンテーション
- 第17回－第20回：レプリケーションを通じた計量分析実習
- 第21回：ディベート
- 第22回－第24回：計量分析を用いた研究を読む
- 第25回－第28回：事例研究を読む

教科書  
Textbooks

久米郁男『原因を推論する政治分析方法論のすゝめ』有斐閣

参考文献  
Reference Books

課題文献を講義中に適宜指示します。

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	ゼミでの報告、課題提出、積極的な参加。
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

ゼミに関するより詳しい内容については以下のホームページに記載されています。応募前に必ず参照して下さい。なお、応募者は応募締め切りまでにA4一枚程度の自己紹介をkumezemi@gmail.comに送ってください。  
<http://kumezemi.html.xdomain.jp/course.html>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 国際政治経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
303	国際政治経済学演習 I (小西秀樹)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	小西 秀樹
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

経済政策の理論と実証

## 授業概要 Course Outline

この演習は、各学生が自分の関心にしたがって、論文を読み、仮説を立て、データを集めて解析たり、理論モデルを作って均衡解を解いたり、得られた結果を現実の事象にフィードバックしたりして、最終的には独立で卒業論文を作成する2年間のプログラムを想定しています。演習Iはその第1段階に相当し、卒論作成に必要な基礎訓練を提供します。

最近では、政治でも経済でも、政府でも民間でも、意思決定の際に求められるのはエビデンスです。しかし、実際に「これがエビデンスだ」という主張は案外危ういものです。統計データにはいろいろな読み方があり、その基本を知らないと簡単に騙されてしまいます。

そこで演習Iでは、入門レベルの教科書を使って計量経済学の基礎を学び、データ分析の実習を行います。こういった基礎知識や技術はこれから社会に出ていく皆さんにとって必要不可欠の素養になるはずです。演習II以降で実証分析を手掛ける学生はもちろんのこと、理論や制度の分析を行う学生も、データを読む力は必ず役に立つと確信しています。

なお、本演習から始まる2年間のプログラムは、すべて各学生が担当教員や他の参加者とディスカッションしながら、個人で研究を進め、自力で卒論を完成させることを目的としています。グループ研究など、学生間での共同作業はやりません。他人に頼らず、自分で問題を発見し、自分で考えて自分で解決策を探し、論文を完成させるプロセスを思う存分経験し、達成感を味わってもらいたいと考えています。その過程でプレゼンテーションの技術、文章表現のテクニックも学んでいくことになります。もちろん、各自の考えをゼミで発表して大いにディスカッションはしてもらいたいですし、ゼミの活動以外でも交流を深めてくれればと思います。

卒論のテーマは、学習した分析方法や経済理論を用いた内容である限り、各学生が自由に選ぶことができます。担当者は財政学、政治経済学などの分野で、ミクロ経済学やゲーム理論を応用した理論分析を手掛けできましたが、最近では修士課程の学生を中心に実証分析のアドバイスもしています。学生がゼミで報告する論文は必ず担当者も事前に読んでいて議論をします。理論分析に関心がある学生は、演習Iでは実証分析の技術を身につけることを主眼に置いていますが、演習II以降で理論的な研究を進めてもかまいません。

関心のある人は、学部主催のゼミオリエンテーションの資料も参考にしてください。(なお、学生主催のオリエンテーションには参加しません)

## 授業の到達目標 Objectives

計量経済学の基礎を学び、実際にデータを扱った実習を行います。様々な計量モデルの構築方法、パッケージソフトの使い方、計量分析のアウトプットの読み方を一通り学習し、実証分析の論文をなんとか読みこなせるところまで訓練します。テキストは決して難しくありません。一歩一歩読み進めれば、必ず理解できます。学期の最後には、各自が関心のあるテーマの実証論文を探してきて、ゼミで報告できるようになるはずです。実際、修士の学生も参加して開催する夏合宿で、学部生にも論文の報告を義務付けています。

事前・事後学習の内容  
Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示します

授業計画  
Course Schedule

STATAを使った実証分析の実習を行います (Rを使ってもいいですが、担当者が使わないのでコマンドなどの指導ができませんから自力でやってもらうことになります)。演習Iで計量経済学の基礎をきちんと学んだ上で、演習II以降ではなるべく最新の論文、たとえばコロナ対策の効果を取り扱った論文など、アカデミックな論文を各学生が自由に選んで、一人毎週1つずつ読んでいく予定です。なお、必要に応じて、英文の教材を利用することもあります。

このゼミでは卒論作成までの2年間のプログラムを想定しています。いわば、アカデミックな意味で学生時代のモニュメントを作つてもらいたいと考えています。就職が決まつたらゼミをやめようとか、卒業に必要な単位が足りたらゼミをやめてもいいというような、軽い気持ちでゼミ参加を考えている人は遠慮してください。

教科書  
Textbooks

田中隆一著「計量経済学の第一歩」(有斐閣)を用いる予定だが、もし非日本語話者の学生も参加する場合は、英文の計量経済学の教科書に変更するので、指定される前に購入する必要はない。

参考文献  
Reference Books

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	該当しない
レポート Papers	0%	該当しない
平常点評価 Class Participation	100%	出席状況、与えられた課題やプレゼンテーションへの取り組みで評価する。
その他 Others	0%	該当しない

備考・関連URL  
Note・URL

長く更新していませんが、念のため、小西研究室のウェブサイトも参考にしてください。

<http://www.f.waseda.jp/h.konishi/index.html>

対面もしくはオンラインで実施します。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 国際政治経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
304	国際政治経済学演習 I (齋藤純一)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	齋藤 純一
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

近現代の政治理論

## 授業概要 Course Outline

このゼミでは、自由、平等、公共性、デモクラシー、社会保障、社会統合など近現代の政治理論の主要なテーマを取り上げてきました。

ゼミの前半のパートでは、主に政治理論・政治思想史の重要な文献を取り上げ、その理解をはかるとともに、提起された論点について議論します。

この数年間に読んだのは、J. ロールズ『政治的リベラリズム』、I. M. ヤング『正義と差異の政治学』、E. ブレイク『最小の結婚』、オルtega『大衆の反逆』などの著作です。2023年度秋学期にはJ. シュクラー『不正義とは何か』を読む予定です。

毎回のゼミの後半は、メンバーによる個人研究報告にあてています。個人研究報告は問題関心の共有をはかるとともに演習論文執筆の準備として行われます。

## 授業の到達目標 Objectives

政治理論・政治思想史のテキストを精確に理解し、議論を整理して考え、理由（論拠）を明確に挙げて自分の考えを伝える力を涵養することがこのゼミの目標です。そのうえで、現代の政治社会の制度や規範を評価し、その問題や改善の方向について自分の意見を形成できるよう指導したいと思います。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

あらかじめテキストを読み、各自内容の理解をはかるとともに、疑問点などを特定しておいてください。報告者や討論者としての役割を求められることもあります。準備時間は約2時間です。

## 授業計画 Course Schedule

2024年度春学期は、主にH. シューアの『基本権』を読み、国際人権の正当化や諸人権間の関係について検討します。

## 教 科 書 Textbooks

ヘンリー・シュー(馬淵浩二訳)『基本権: 生存・豊かさ・合衆国の外交政策』(法政大学出版局、2023年)。

参考文献  
Reference Books

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	出席、報告、討論、研究発表、毎回の議論への参加・貢献等を総合的に評価します。
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 国際政治経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
305	国際政治経済学演習 I (清水和巳)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	清水 和巳
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

人間と社会の政治経済学

## 授業概要 Course Outline

「不思議なものは多い。しかし人間ほど不思議なものはない」(ソフォクレス『アンチゴーネ』)

古代から現代に至るまで、人間はあらゆる学問分野で最大の謎であり続けてきた。社会科学はとりわけ人間と社会の関係に興味をもってきた。スミスは人間が利己的に行動しているにもかかわらず社会が破綻しないことを、ヴェーバーは資本主義という特殊な社会経済制度を支える人間が西欧という地域で生じたことを、マルクスは人間が作り出した社会が逆に人間を疎外していくことを不思議に思い、それぞれの謎に彼らなりの解答を用意した。とはいっても、こういう偉大な先達がとりくんだ大問題だけが謎なのではない。たとえば、海外旅行をしたときにあるレストランで食事をしたとしよう。「ここで食事することはおそらくもう二度とない」とわかっていても、われわれはチップを払う。実はこれも(ある観点からすると)人間と社会に関する謎なのだ。

本演習の目的は、人間の意思決定・行動、その結果として生じる社会制度に関する謎を自分でみつけ、そこに社会科学的に切り込む方法を学ぶことにある。その際、「自分」にとっては謎だが、他人にはなぜそれが解くべき謎なのかが理解できない、「自分」はその謎に答えたつもりだが他人は納得しない、こういう事態は避けたい。したがって、演習参加者は少なくとも以下の3点に関して自問自答してほしい。

- なぜ(どのような立場からすると)その問題を「謎」ととらえることができるのか?
- もし、その問題が本当に「謎」であるなら、それにどのように応答することが社会科学的と言えるのか?
- そもそも、社会科学的に思考するとはどういうことなのか?

## 授業の到達目標 Objectives

演習参加者は、自分の問題設定、問題の検討方法を他の参加者に理解させ、納得させために必要な技術や方法を身につける。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

## 授業計画 Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：議論することになれる I
- 第3回：議論することになれる II
- 第4回：「書く技術」
- 第5回：議論することになれる III
- 第6回：基礎的知識の学習 1
- 第7回：基礎的知識の学習 2
- 第8回：基礎的知識の学習 3
- 第9-14回：各人の興味対象に応じて、既存の研究をグループで発表
- 14回目以降は夏合宿での卒論計画発表をふまえて、各人に報告を割り当てる。

教科書  
Textbooks

特にない。事前に、文献リスト、課題となる論文等を配布する。

参考文献  
Reference Books

第一回目のゼミナールにおいて参考文献リストを配布するが、制度の経済学、ゲーム理論、科学方法論などの分野を重点的に読んでいく。

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	発表・レポートの出来・不出来に応じる。
平常点評価 Class Participation	50%	ゼミの時間中の議論の組み立て方に応じる。
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

学生に対する要望：

- (1) 質問がある場合、次のアドレス宛てにメールで問い合わせること：skazumi1961@gmail.com。
- (2) 担当教員の「比較経済制度分析」を受講済みであること、加えて、ミクロ経済学、ゲーム理論、統計学、科学哲学に関する基本的な知識があることが望ましい。まだ「比較経済制度分析」を受講していない場合は、来年度受講することを強く勧める。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 国際政治経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
306	国際政治経済学演習 I (高橋百合子)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	高橋百合子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

新興国・途上国の比較政治経済学

Comparative Political Economy of Emerging and Developing Countries

## 授業概要 Course Outline

本演習では、新興国・途上国の比較政治経済学で扱われるテーマについて実証分析を行うことを目指す。ゼミ生は、比較政治経済学の基本概念と理論、および主要なリサーチ・メソッドを学習した後、各自が関心を持つテーマについて実際に分析を行うことを予定している。

従来の比較政治経済学では、経済成長、福祉国家、労働市場等が主要なテーマとして扱われてきた。しかし、最近の研究では研究対象が広がりつつあり、例えば、インフォーマル部門の政治、貧困とクライアントリズム、選挙不正、汚職、麻薬取引と暴力的犯罪、移民問題等について、政治経済学的観点から実証分析が盛んに行われるようになってきた。これらは、諸アクター間での公正性・公平性を欠く取引慣行、弱い法の執行、ガバナンスの欠如といった問題を抱える新興国・途上国の政治・経済システムに特徴的な現象である。新興国・途上国では、何故こうした現象が頻繁に起こるのか、その帰結は何か、問題解決に向けた政策的含意は何か。こうした一連の問い合わせに取組むことが、本演習の主な目的である。

2024年度の国際政治経済学演習Iでは、コロナ感染拡大が収束を迎える中、新たな形で重要性を増しつつある移民・難民問題の政治経済的要因および帰結についての実証研究に重点を置くことを予定している。担当教員は、米州地域を専門とするが、他地域に関心のある学生も歓迎する。

ゼミ生は、卒業論文の執筆に向けて、ラテンアメリカ、アジア、アフリカの国・地域の事例に焦点を合わせつつ、「良い」リサーチ・クエスチョンを見つけ、妥当な仮説を導き出し、オリジナルのデータを収集し、手堅い実証分析を行うことが期待される。

This seminar introduces students to empirical analyses of comparative political economy with a special focus on emerging and developing countries. Students first study basic concepts and theories of comparative political economy as well as major research methods employed in this field, and then apply them to analyze a topic of their interests.

Traditionally, comparative political economy has focused on topics such as economic growth, welfare state, and labor market. More recent works cover a broader range of topics including the politics of informal sector, poverty and clientelism, electoral fraud, corruption, drug trafficking and violent crime, migration, etc. They are political economic problems particular to emerging and developing countries, because the political and economic systems are often characterized by unfair and unequal transactions among different actors, weak law enforcement, and poor governance. Analyzing the causes and consequences of these issues is the primary purpose of this seminar.

Seminar I in FY2024 will focus on empirical research on the causes and consequences of immigration and refugees, which have become increasingly important in new ways as the Covid 19 outbreak has come to a halt. The instructor will specialize in the Americas, but students interested in other regions are welcome.

Selecting the cases from Latin America, Asia, and/or Africa, students are expected to find a "good" research question, formulate plausible hypotheses, collect original data, and conduct a solid empirical analysis for their graduation thesis.

## 授業の到達目標 Objectives

本演習は、次の3点を到達目標としている。

1. 課題文献の輪読とゼミでの議論を通して、比較政治経済学における主要な議論とリサーチ・メソッドに習熟すること。
2. ゼミ生同士で活発な意見交換を行い、ディベートとプレゼンテーションのスキルに磨きをかけること。
3. 卒業論文の執筆を通して、現実社会における政治経済問題について専門知識にもとづく分析を行う能力を身に着けること。

The goal of this seminar is three-fold.

1. Through doing reading assignments and participating in discussion, students will get familiar with the major literature and research methods of comparative political economy.
2. Active interactions among seminar participants will help improve the debate and presentation skills.
3. An exercise of writing a thesis will make students well prepared to be a professional analyst engaging with political economic problems in the real world.

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

ゼミ生は、基礎レベルの計量分析について既に学習済みであることが望ましい。「計量政治学」の受講を強く薦める。

Students are expected to have taken courses on basic quantitative methods before attending this seminar.

## 授業計画 Course Schedule

<国際政治経済学演習I/Advanced Seminar (International Political Economy) I>

\*教科書 (Baker 2014)を中心、新興国・途上国との比較政治経済学についての主要なテーマについて、基礎的な知識を身につける。

\*実際にデータを使って、新興国・途上国が直面する政治経済問題について、分析してみる。

\*We will read through the textbook (Baker 2014) and get familiar to key issues in the field of comparative political economy.

\*We will also try to analyze data on political-economic issues facing emerging and developing countries.

## 教科書 Textbooks

Baker, Andy. 2014. Shaping the Developing World: the West, the South, and the Natural World. CQ Press/Sage Publications.

## 参考文献 Reference Books

適宜、指定する。

TBA.

## 評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	課題、議論への参加・貢献、プレゼンテーションにもとづき総合的に評価を行う。 Evaluation will be made based on students' performances in essays, contribution to class discussion, and presentation.
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

本ゼミは、EDPの学生にも公開となるため、英語を多用することをご承知ください。

課題文献は、すべて英語となります。毎週、英語論文1本、もしくは英語で書かれた本の1－2章に相当する文献が課題として課され、それについて英語でペーパーを執筆することも求められます。この課題をこなすことは、単位の取得の必須条件となります。

卒業論文では、定量的な実証分析を行ってもらいますので、計量分析の基礎を習得していることが期待されます。

ゼミではR/RStudioを使用して、データ分析の練習も行う予定です。

Students are expected to conduct quantitative analysis for their graduation thesis. You should have mastered basic statistics.

We will use R/RStudio for data analysis exercises.

# 国際政治経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
307	国際政治経済学演習 I (高橋遼)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	高橋 遼
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

開発経済学・環境経済学

## 授業概要 Course Outline

本演習では、開発途上国における社会問題について、実証分析を行い、学生の視点からの政策提言を行うことを目的とする。本演習において、開発経済学に関する実証研究への知見を深めること、および実証分析への理解と統計分析を行うためのプログラミング言語の習得を目指す。

参加は任意であるが、学生の学習意欲が高いと判断した場合、開発途上国でのフィールド調査を実施する。対象国として、バングラデシュ、インドネシア、ベトナム、もしくはエチオピアを想定している。自らで集めたデータを用いて、実証分析を行い、結果を解釈し、分析結果に基づく政策提言を行う。

## 授業の到達目標 Objectives

開発途上国におけるフィールド調査の設計を学び、実際に調査を実施することでデータ収集の技法を習得すること。

収集したデータを用いて実証分析を行い、現場での観察をもとにした考察を行えるようになること。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

## 授業計画 Course Schedule

春学期において、学生からの発表や議論、教員からの講義を通して、以下の点について習得を目指す。

1. プログラミング言語 Pythonの基礎
2. 計量経済学 (OLS、DID、IV)
3. 開発経済学の知識

夏休みの期間に有志で海外調査を実施する可能性がある。

また、ゼミの時間のほかに、サブゼミの時間を設ける。サブゼミへの参加は必須である。

## 教 科 書 Textbooks

参考文献  
Reference Books

評価方法  
Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	課題図書など
平常点評価 Class Participation	50%	演習での発言
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 国際政治経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
308	国際政治経済学演習 I (多湖淳)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	多湖 淳
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

戦争と平和の科学を楽しく学ぶゼミ

## 授業概要 Course Outline

国際政治学 (Scientific IR, Conflict and Cooperation) のゼミです。

- ・楽しく学ぶが大原則。高みを目指そう。
- ・アウトプットは英語で専門学術誌 (ジャーナル) に投稿して問題ないレベルを目指しましょう。

## 授業の到達目標 Objectives

- ・目標は、社会科学の総合力を身につける。  
問題発見、問題設定力 まずは先行研究を読み、つなげる、そして仮説をつくる。
- データ入手・精製能力 データこそ命 (実験、テキスト、Large N、ケース比較)。
- データ分析・報告能力 RStudioとRMarkdownの力、データの検定・検証能力。
- コミュニケーション力 データを面白く話す力、英語力 (TED)、相手と対話する力。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

特になし

## 授業計画 Course Schedule

通年のゼミの内容は以下の通り。

- ・前期は基礎訓練と問題発見、仮説作り (面白い問い合わせ、理論と仮説)、データ入手
- ・後期はデータ精製と分析、論文執筆  
論文はできればRMarkdownを用いてPDFの形で作成
- タイプライターとしての「ワード」もいいけども、アウトプットはPDFで。
- ※これは3年、4年共通で、4年生は3年生よりも素敵な研究をして、報告する。

### 【訓練内容 (方法部分)】

- ・メソッド：分析道具がないと始まらない！
- ※方法論の概観 (因果、実験、回帰分析、ゲーム)  
伊藤公一朗 (2017) 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社。
- 山岸俊男 (2008) 『日本の「安心」はなぜ、消えたのか』集英社。
- ※クアルトリクス (実験プラットフォーム)：高等研のSongさんの教材も配布  
<https://wasedapse.aul.qualtrics.com/>
- ※テキスト分析 (記述と関係の見える化)：高等研のWatanabeさんの教材  
[http://docs.quanteda.io/articles/pkgdown/examples/quickstart\\_ja.html](http://docs.quanteda.io/articles/pkgdown/examples/quickstart_ja.html)
- ※RStudio (テキスト分析、回帰分析、実験データの仮説検証)：  
日本社会心理学会の方法論セミナー資料 (まずはこれ！)  
[https://kazutan.github.io/JSSP2018\\_spring/index.html](https://kazutan.github.io/JSSP2018_spring/index.html)
- Wonderful RのRの基礎、RStudioについてのテキスト  
<http://www.kyoritsu-pub.co.jp/bookdetail/9784320112414>
- Wonderful RのRMarkdownのテキスト  
<http://www.kyoritsu-pub.co.jp/bookdetail/9784320112438>

### 【訓練内容（国際政治をめぐる先行研究）】

- ・サブスタンス：科学的なIRを理解するための材料を読んでいきます。
- 多湖淳（2011）「国際政治学における計量分析」『オペレーションズ・リサーチ』56(4)、215-220ページ。  
多湖淳（2017）「拒否権行使と驚き」『政治分析方法のフロンティア（年報政治学）』2017-II、13-35ページ。  
鈴木基史・岡田章編（2013）『国際紛争と協調のゲーム』有斐閣。  
山影進（2012）『国際関係論講義』東京大学出版会。  
ジャーナルは以下を参考に。APSR、AJPS、JOP、BJPS、IO、ISQ、IS、JCR、JPR、CMPS、II、AFS Google Scholarで効率的に先行研究を見つけて読んでいく
- ★スケジュール・重要事項  
多湖ゼミSlackで連絡をします。プレゼンから変わらない時間帯のコアタイム制です。  
Slackの招待を多湖（tago@waseda.jp）から得てください。  
ゼミのコアタイムは毎週水曜日の夕方になります（詳細は参加者で詰めましょう）。

教科書 Textbooks
------------------

参考文献 Reference Books
-------------------------

評価方法 Evaluation
--------------------

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	60%	期末のプレゼンテーションをレポートとして評価する。
平常点評価 Class Participation	40%	ゼミへの参加の度合い（欠席がやむをえない場合、あらかじめメールで断りをいれるべきであり、無断欠席は2回でアウトカウントする）。
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL
----------------------

本授業は、割り当てられた教室で開催します。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 国際政治経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
309	国際政治経済学演習 I (唐亮)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	唐 亮
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle
-----------------

現代中国の政治経済と外交戦略

授業概要 Course Outline
------------------------

1980年代以降、中国は改革開放路線の推進によって急速かつ持続な発展を遂げ、世界第2の経済大国として浮上してきた。他方、キャッチアップ型近代化を実現していくには、内外の課題が多い。演習では、1) 中国モデルは欧米モデルと比べればどんな特徴を持つか、2) 産業の構造的な転換や貧富格差の克服に取り組んでいるか、3) エリートの選抜と権力競争は民主主義政治とはどこがどう違うか、4) 国民の政治意識と政治参加はどうなっているか、5) どんな立場で欧米主導の国際秩序に臨んでいるか、6) いかなる戦略でアメリカ主導の対中包囲網を克服しようとするか、7) 台湾統一戦略のポイントはどこにあるか等々をトピックとして取り上げ、中国の「実像」と「将来像」に迫る。

授業の到達目標 Objectives
-----------------------

現代中国の内政外交に関する幅広い基礎知識を有するほか、多文化の視点、複眼的な分析能力を身に付け、自主的な研究課題について豊かな構想力をもつことは理想である。また、学生の主体的参加と討論によってプレゼンテーションの能力を高める。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review
--------------------------------------

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule
-------------------------

春学期は教科書を毎週1章のペースで輪読するほか、ゼミ論の構想発表を行う。秋学期は引き続き教科書を毎週1章のペースで輪読するほか、ゼミ論の中間発表を行う

教 科 書 Textbooks
--------------------

家近亮子ら編著『新版 5 分野から読み解く現代中国—歴史政治経済社会外交—』晃洋書房、2016年  
唐亮『現代中国の政治』岩波新書、2012年

毛里和子『新版現代中国政治』第3版、名古屋大学出版会、2011年

毛里和子『日中関係—戦後から新時代へ』岩波書店、2006年

国分良成編著『中国は いま』岩波新書、2011年。

丸川知雄『現代中国経済』有斐閣、2013

丸川知雄『チャイニーズ・ドリーム』ちくま新書、2013

中兼和津次『経済発展と体制移行』名古屋大学出版会

中兼和津次『開発経済学と現代中国』名古屋大学出版会、2012年

園田茂人『不平等国家 中国』中公新書、二〇〇八年。

木間正道ら編著『当代中国法入門』第五版、有斐閣、二〇〇九年

岩崎育夫『アジア政治を見る目』中公新書、2001年

武田康裕『民主化の比較政治—東アジア諸国の体制変動過程』ミネルヴァ書房、2001年

参考文献  
Reference Books

随时指定する

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	実施しない
レポート Papers	70%	着眼点、先行研究の整理、論点を裏付けるデータ・根拠の提示、書式を重視する。
平常点評価 Class Participation	30%	出席・報告内容・議論への貢献度を重視する。
その他 Others	0%	なし

備考・関連URL  
Note・URL

夏休みに自主参加の形で北京大学などとの共同セミナ、庶民生活の体験および社会観察などの自主参加プログラムを実施する

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 国際政治経済学演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
310	国際政治経済学演習 I (遠矢浩規)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	遠矢 浩規
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

国際政治経済学の理論と分析

## 授業概要 Course Outline

(1) 遠矢ゼミは国際政治経済学の理論や概念を学ぶゼミです。それらを習得し、自分自身で様々な国際問題を理解し分析する能力を身につけることを目標としています。当ゼミでは、「国際政治経済学」の意味を広く捉え、国際政治学、国際経済学、国際社会学なども範囲に含めています。

(2) とりあげる理論や概念は、例えば、プロダクト・サイクル論、国際的相互依存論、統合論、ソフト・パワー、構造的権力、霸権安定論、比較優位説、不等価交換、ECLA構造主義、従属論、世界システム論、ドルの「法外な特権」、流動性のジレンマ、国際金融のトリレンマ、文化的多様性、グローバル公共財、ロゴウスキーの逆第二イメージ論などです(順不同)。これらの多くは講義科目「国際政治経済学」でも対象としています。

(3) 春学期・秋学期とも、事前学習を前提とした、いわゆる「反転授業」の形式で行います(詳細は下記「授業計画」(A)の通りです)。教員が何かを「教える」というゼミではなく、ゼミ生自身が「リサーチして」「考えて」「議論する」ことに重点を置いています。

(4) 夏休みにはゼミ合宿を行います(詳細は下記「授業計画」(B)の通りです)。

(5) 4年生には上記(3)の3年生ゼミに原則参加してもらいます。グループディスカッションにおいて3年生をリードするチューター的な役割が期待されています。

これと並行して、4年生には卒論制作を奨励していますが、卒論は必須ではありません。卒論指導は原則個別に行います(詳細は下記「授業計画」(C)の通りです)。

(6) プレ演習(2年の冬クオーター)も上記(3)のゼミで合同で行います(課題等の負担は3・4年生より軽めです)。数回実施します。

## 授業の到達目標 Objectives

- ①国際政治経済学(国際政治学、国際経済学を含む)の理論・モデル・概念を使って国際問題を分析する能力を習得すること。
- ②上記①の分析に基づいてプレゼンテーションやディスカッションを行うスキルを習得すること。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

下記「授業計画」を参照してください。

## 授業計画 Course Schedule

※ゼミの内容・方法についてはこのシラバスよりも、下記URLの遠矢浩規の公式サイト（遠矢ゼミ募集案内のページ）で図や写真や動画を使用してより詳しく説明しています。必ずそちらを参照してください。サイトは「遠矢浩規 公式」で検索することもすぐ見つけることができます。

遠矢浩規公式サイト（ゼミ案内のページ）：<https://hirokitohya.wixsite.com/tohya/seminar-1>

以下は上記サイトからの抜粋です。

### (A) 春学期・秋学期の通常ゼミの実施方法

#### 【事前学習】

・事前に、指定されたコンテンツ（春学期は講義科目「国際政治経済学」のオンデマンド動画、秋学期は専門書からの数章）を学習し、与えられた課題（理論を当てはめて具体的な事例を解釈するなど）について各自でリサーチを行い、コメント・ペーパー（A4で1～2枚程度）を作成・提出してもらいます。※コンテンツの視聴やテキストの輪読自体は学習目的ではありません。

・動画や課題はゼミのDiscordで事前に提示・共有されます。コメント・ペーパーもDiscordに提出してもらいます（全員で共有します）。なお、ゼミの日常的な連絡、情報交換、ファイル共有等はDiscordで行っています（LINEグループも併用しています）。

・秋学期のコンテンツ（専門書からの数章）については未定ですが、G・ジョン・アイケンベリー『リベラルな秩序か帝国か』は候補の一つです。

#### 【ゼミ当日（反転授業）】

・教室で原則「対面」で行いますが、同時に全員がZoomを使用します。海外（留学中）や自宅・外出先からも（正当な理由があり事前に認められた場合は）「出席」できます。

・予め決められた報告者（2人）が、当日のテーマとなっている理論・概念について、事前に学習したコンテンツとは異なる内容や視点でプレゼンを行います（つまり、事前学習したコンテンツを要約することがプレゼンではありません）。プレゼン資料はZoomで画面共有し（ハードコピーの配布は不要）、ゼミ後にDiscordにアップロードしてもらいます（全員で共有します）。

・事前に提示された課題やプレゼンで挙げられた論点等について、数人づつのグループ・ディスカッションを行い、深く掘り下げます（班分けは当日、発表されます）。各グループでは司会、書記、総括報告者を決めてもらいます。ゼミの時間の大半はグループ・ディスカッションに費やされます。オンライン参加者（教室外）は、教員（遠矢）とZoomでディスカッションします。

・グループ・ディスカッション終了後、総括報告者が全体セッションで概要を報告し、各班の内容を全員で共有します。総括報告に続けて、適宜、教員（遠矢）からの解説や全体でのディスカッションを行います。

・グループ・ディスカッション以外のすべてのセッションはZoomで録画されます。グループ・ディスカッションの内容については、班ごとに議事録を作成してもらいます。

#### 【事後の作業・学習】

・ゼミの録画は直後にYouTubeで限定公開され、DiscordでURLが共有されます。欠席者は録画を視聴してキャッチアップしておくことが求められます。出席者も理解を定着させる復習のために利用できます。各班の議事録もDiscordにアップロードしてもらいます（全員で共有します）。

### (B) ゼミ合宿（夏休み）

・春学期に行ったゼミで蓄積されたアーカイブ（コメント・ペーパー、録画、議事録）をもとに、ゼミで取り上げた各理論・各概念の論点の整理を行います。参加者を3つのグループにわけ、各グループにいずれかの理論・概念を割り振ります。この作業を（メンバーを入れ替えて）3セッション行います。まとめた内容をもとに、「論点」を解説する短い動画を班ごとに撮影してもらいます。「ワークショップ」型のゼミです。

### (C) 卒論

・遠矢ゼミでは卒論制作を推奨していますが、必須ではありません。ゼミの成績評価は卒論の有無とはリンクしていません。ゼミはゼミのパフォーマンスだけで評価し、卒論の成績評価は「演習論文」の単位の中で行います。

・4年生には、卒論制作に関する約1時間のレクチャーの録画をまず視聴してもらい、卒論を制作するかどうかを決めてもらいます。

・卒論指導は、原則、個別コンサルという形となります。対面やZoomやメールなどで、マンツーマンで、卒論のテーマ決定の相談から、リサーチ途中の相談、ドラフトへのコメントなどを、リクエストに応じて行います。ただし、必要に応じて、卒論制作予定者を集めたレクチャー等を4年ゼミの時間帯に開催する場合もあります。

※以上のように、遠矢ゼミは「対面授業」と「オンライン授業」の双方の利点をミックスさせながら、アクティブラーニングを実現しています。

### 教科書 Textbooks

教科書はありませんが、毎回、指定されたコンテンツ（春学期はオンデマンド動画、秋学期は専門書からの数章）を学習し、与えられた課題（コンテンツで説明されていた理論やモデルを使って具体例を解釈する、など）についてコメント・ペーパーを事前に作成・提出することが求められます。

【参考】実際に出された「課題」は例えば次のようなものです。

「マルクシズム②従属論」の課題です。

(課題1)

ロストウの近代化論（経済発展段階説）と従属論（中心周辺構造）は南北関係について対照的な見解となっています。現実には、日本のように明治維新後、段階的に発展してきた国もあれば、ここ1世紀くらい経済的に成長していないと思われるような最貧国も存在しています。「近代化論」のシナリオと「従属論」のシナリオは、どのような条件を満たす国家・地域に当てはまるのでしょうか？

(課題2)

従属論はECLA構造主義（輸入代替工業化）と異なり、外国資本の導入（多国籍企業）を害悪視しています。一方、東アジアのように先進国の資本を誘致して「輸出志向型発展」を実現させた国・地域もあります。「経済特区地域」を設定して先進国企業を優遇し（法人税減税、労働基準緩和など）、技術移転や工業化を図る国もあります。「外国資本」「多国籍企業」を途上国（周辺国）の発展に利用するためには、どのような条件が必要でしょうか？

(課題3)

「世界資本主義」（グローバル・キャピタリズム）の功罪として何が考えられるでしょうか。従属論はマイナス面だけを指摘しますが、世界資本主義の「良い面」やメリットはあるでしょうか（例えば、グローバル・バリュー・チェーンによる途上国の工業化・技術獲得・雇用創出なども考えられそうです）。

(課題4)

周辺国の国内に「中心」部と「周辺」部があり、前者は中心国（先進国）と結託しているという指摘は、妥当でしょうか。具体例はあるでしょうか。

### 参考文献 Reference Books

毎回扱う理論・モデル・概念が異なるため、必要に応じて、その都度、紹介します。

評価方法 Evaluation		
	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	<p>・成績評価は次の手順で行います。</p> <p>①デフォルトの評価はAです。マイナス査定、プラス査定を順に行い、プラスマイナスか、ちょっとプラス程度なら評価はAのままとします。トータルでマイナスならB、トータルで大きくプラスならAプラスとします。</p> <p>②マイナス査定（その1）。欠席は2回まで不間に付します。3回以上の欠席は回数に応じて減点します。無断欠席は倍の減点となります。</p> <p>③マイナス査定（その2）。コメントペーパー提出回数が定められた回数に満たない場合は、減点します。</p> <p>④マイナス査定（その3）。重大なミス等（プレゼンし忘れなど）は減点します。</p> <p>⑤プラス査定（その1）。プレゼンは、(a)教員（遠矢）が授業で利用したくなりそうなほど興味深い内容である、(b)上記(a)には及ばないがよくリサーチしてある、(c)上記(b)に及ばない、の3ランクで評価し、(a)は加点します。(b)は総合判断の際にボーダーライン上であれば加点要素とします。なお、(c)であってもマイナス査定には使用しません。</p> <p>⑥プラス査定（その2）。コメントペーパーは、「よくリサーチし」かつ「よく考えている」かを評価指標とし、(a)非常に努力している、(b)普通、(c)努力不足、の3ランクに評価したうえで、トータルで(a)の評価のペーパーを多く書いた者に加点します。トータルで(b)が多かった者でも、定められた回数より多く提出した者は、総合判断の際にボーダーライン上であれば加点要素とします。(c)が多い者は原則不間に付しますが、程度によってマイナス査定にする可能性があります（なんでもいいから出せばいい、では困るので）。</p> <p>⑦プラス査定（その3）。グループ・ディスカッションの相互評価で評価の高かった上位者（3年と4年で各数名づつ）は加点します。この項目のみ、3年と4年はわけて評価します（3年は4年に物を言いにくいだろうから）。※学期末に全員に相互評価票を提出してもらいます。</p> <p>⑧グループ・ディスカッションで司会・書記・総括報告者をやった回数を合計し、総回数が非常に多い者は、総合判断の際にボーダーライン上であれば加点要素とします。</p> <p>⑨ゼミの欠席ゼロだった者は、総合判断の際にボーダーライン上であれば加点要素とします。</p>

**備考・関連URL  
Note・URL**

下記URLの遠矢ゼミ募集案内を必ず事前に参照してください。

<https://hirokitohya.wixsite.com/tohya/seminar-1>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# ジャーナリズム・メディア演習Ⅰ

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
401	ジャーナリズム・メディア演習Ⅰ(齊藤泰治)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	齊藤 泰治
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

ジャーナリズムの視点からの中中国研究Ⅰ

## 授業概要 Course Outline

本演習は「ジャーナリズム・メディア演習」として設置されており、中国に関してジャーナリズム的な視点から研究することを目的とする。具体的には、中国に関する報道を通して中国を研究するという側面と、ジャーナリズム、報道について研究するという側面を含む。このような研究を行うためには、中国の政治、社会、文化、歴史をはじめとする諸分野に対する旺盛な関心と知識が必要であると同時に、グローバルな視点からジャーナリズム、報道に関する研究を行うことが必要となる。基礎となる文献を読み、具体的な報道事例等を通してジャーナリズム的視点から中国研究を進めるための方法論を組み立てていく。

## 授業の到達目標 Objectives

これまでの内外の研究成果を踏まえ、中国報道に関して現状分析のための基礎力を身につけることによって、ジャーナリズムの視点から中国を研究することができるようになる。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

一週間単位で中国に関する報道、ニュースを調べ、関連する資料によって理解を深めて演習に臨むことを基本とする。具体的な内容については初回のオリエンテーションで説明する。

## 授業計画 Course Schedule

第1回目はオリエンテーションを行う。第2、3回は資料について説明する。第4回以降は資料を読むと同時に、受講者に研究発表をしてもらう。最終回は全体のまとめを行う。

## 教 科 書 Textbooks

特定の教科書は使用しない。

## 参考文献 Reference Books

隨時紹介する。

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験は行わない。
レポート Papers	70%	レポートのテーマを最初から計画的に考え、提出期限までに提出するものとする。
平常点評価 Class Participation	30%	出席するだけでなく、授業への積極的貢献をもとに評価を行う。短いレポートを随時書いてもらう。コミュニケーションを大切にしてほしい。
その他 Others	0%	とくになし。

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# ジャーナリズム・メディア演習Ⅰ

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
402	ジャーナリズム・メディア演習Ⅰ(高橋恭子)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	高橋 恭子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

ジャーナリズムの現在と未来～映像ジャーナリズムを中心に

## 授業概要 Course Outline

私たちは、インターネットによって新たなコミュニケーションの場や機会を生み出し、情報収集することで知識を蓄積することができる。しかし、同時にネット上にはデマ、偽情報、流言が飛び交い、現代は真実が犠牲にある「ポスト真実の時代」といわれる。フェイクニュースに立ち向かう対抗策としてのメディア・リテラシーが注目されているが、多くの場合、メディアの倫理的な活用という意味でとらえられ、メディアの問題を市民の側から批判的かつ多角的に見る視点が欠如している。

本ゼミでは、メディア・リテラシーに、情報の真偽を見分ける「ニュース・リテラシー」や「ファクトチェック」といった新たなリテラシーの要素を複合させ、デジタル時代に相応しいワークショップを再構築すると同時に、映像メディアに見られる問題を提起し、映像メディアの現在、未来を検証する。授業は理論と実践の両面からジャーナリズムにアプローチするクリティカルからクリエイティブな流れをデザインする。具体的には、1. 講義と討論「映像メディア検証」、2. 学生によるメディア分析、3. 学生による取材・調査・映像撮影 4. 次世代ジャーナリズム関連書の購読、5. 成果物（文章、映像、写真、Web等）の制作・発表・評価から構成する。映像メディア分析では、メディア・リテラシー研究の分析手法を採用し、I メディア・テクスト、II オーディエンス、III テクストの生産・制作の3つの領域から考察する。

本演習では、主体的に授業に参加し、自らの意見を根拠をもって主張し、かつ意見交流をできる基礎を形成することを目的とする。

## 授業の到達目標 Objectives

メディアをクリティカルに分析する力とメディアを創造する実践的な力を養う。

実践はドキュメンタリー、フォトストーリー、Webコンテンツ、ソーシャルメディアを利用したコンテンツなど個々の知識と能力によって選択する

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

文献やニュース番組分析を通して、メディアをクリティカル分析する力を養う。この経験から、自らテーマを設定し、取材活動を行う。取材した内容は、ゼミのサイトなどで原稿や映像として発表する。

## 授業計画 Course Schedule

授業の方向性とオリエンテーション/ニュース分析/購読  
ニュース分析/購読  
ニュース分析/エッセイ ブレーンストーミング  
ニュース分析の質的分析のための課題提示/購読  
ニュース分析/購読  
エッセイ第一稿発表  
エッセイ 第二稿提出  
ニュース分析/購読  
プロジェクトブレーンストーミング  
ワークショップ「ジェンダーの視点からニュースを見る」  
課題発表 ニュース分析/購読

プロジェクト中間報告  
ニュース・リテラシーワークショップ  
フェイク分析/購読  
ニュース分析発表/購読  
プロジェクト発表

教科書  
Textbooks

そのつど、Moodle上に掲載する。

参考文献  
Reference Books

「ジャーナリズムの原則」 ビル・コバッチ、トム・ローゼンスティール 日本経済評論社  
「インテリジェンス・ジャーナリズム」 ビル・コバッチ、トム・ローゼンスティール ミネルヴァ出版  
「フェイクニュースを科学する」 笹原和俊 化学同人  
「ファクトチェックとは何か」 立岩陽一郎、楊井人文 岩波ブックレット

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	試験: 0%なし レポート: 25% メディア分析 メディアリテラシーの理解度。 平常点評価: 50%出席と授業の主体的参加度。 その他: 25%コンテンツのプランニングと実践力。

備考・関連URL  
Note・URL

映像制作のための技術を身につけたい場合は、グローバルエデュケーションセンター開講の副専攻「ジャーナリズムとメディア表現」の「映像芸術表現」「制作プロジェクト研究」の映像系科目を受講することをお薦めします。

関連URL :

ゼミサイトは「Action! from critical to creative」  
<http://www.waseda.jp/sem-kytwaseda/>  
facebook 「高橋恭子ゼミ」

ゼミ紹介

<https://www.waseda.jp/fpse/pse/news/2017/12/11/8269/>

本年度は原則、対面で実施する。コロナウィルスの感染拡大が認められた際は、リアルタイムによるオンライン授業とオンデマンドに移行する。

原則、3、4年合同で木曜日の4、5時限に実施します。卒論や3年生のプロジェクトのまとめ時期には別に実施することもあります。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# ジャーナリズム・メディア演習Ⅰ

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
403	ジャーナリズム・メディア演習Ⅰ(田中幹人)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	田中 幹人
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

ハイブリッド・メディアのメディア研究方法論

## 授業概要 Course Outline

マス/ソーシャルメディアが複雑に絡み合った「ハイブリッド・メディア」の時代になって15年近くが経ちました。私たちが接するメディアの変化は、私たちの生活、ひいては社会のあり方に影響を与えています。当ゼミでは、このようなハイブリッドメディアの時代におけるメディアの機能、さらにはそこで求められるジャーナリズム規範についての研究を行っています。

この「ジャーナリズム・メディア研究Ⅰ」では、研究に必要な、基礎的な方法論の修得を目指します。

## 授業の到達目標 Objectives

個別課題やチーム課題の実施を通じ、研究のうえで求められる基礎的方法論を修得する。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

- 文献の蒐集と熟読。
- 課題分析の実施。

## 授業計画 Course Schedule

第1回：今学期の学習内容について  
オリエンテーションを行います。

第2回：内容分析の基礎1

メディア研究手法の基礎である「内容分析」について学びます。

第3回：内容分析の基礎2

メディア研究手法の基礎である「内容分析」について学びます。

第4回：内容分析の基礎3

メディア研究手法の基礎である「内容分析」について学びます。

第5回：質的テクスト分析の基礎1

メディア研究手法の基礎である「質的テクスト分析」について学びます。

第6回：質的テクスト分析の基礎2

メディア研究手法の基礎である「質的テクスト分析」について学びます。

第7回：質的テクスト分析の基礎3

メディア研究手法の基礎である「質的テクスト分析」について学びます。

第8回：量的テクスト分析の基礎1

メディア研究手法の基礎である「量的テクスト分析」について学びます。

第9回：量的テクスト分析の基礎2

メディア研究手法の基礎である「量的テクスト分析」について学びます。

第10回：量的テクスト分析の基礎3

メディア研究手法の基礎である「量的テクスト分析」について学びます。

第11回：チーム課題分析1：内容分析

5名程度のチーム単位に分かれ、指定されたデータについてこれまで学んだことを用いて分析します。

第12回：チーム課題分析2：質的テクスト分析

5名程度のチーム単位に分かれ、指定されたデータについてこれまで学んだことを用いて分析します。

第13回：チーム課題分析 3：量的テキスト分析

5名程度のチーム単位に分かれ、指定されたデータについてこれまで学んだことを用いて分析します。

第14回：課題発表プレゼンテーション

チームで分析を行った結果を発表します。

教科書  
Textbooks

- 課題内容に応じて適宜指定します。

参考文献  
Reference Books

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	課題の実施・提出状況に応じて評価します。

備考・関連URL  
Note・URL

履修者の傾向に応じて、課題内容を変更する可能性があります。

# ジャーナリズム・メディア演習Ⅰ

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
404	ジャーナリズム・メディア演習Ⅰ(土屋礼子)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	土屋 礼子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

近現代史におけるメディアとプロパガンダ、およびジャーナリズム

## 授業概要 Course Outline

近現代の日本および欧米におけるメディアとジャーナリズムの発達の経緯を理解し、検閲制度をはじめとする政府との関係、政治家や政府機関などとジャーナリズムおよびメディアとの関係、世論を動かすためのプロパガンダという思想がどのように展開してきたかを、実証的に学び議論する。また、実際にメディアやジャーナリズムに関係した人々にインタビュー調査や資料探索を行ない、メディアの歴史や、メディアに対するアプローチのしかた、メディアの分析のしかたに関する知見を深め、年度末には各自が卒論テーマを見いだせるよう研究をすすめる。なお、2024年度は、スポーツ・ジャーナリストのOBにインタビュー調査する予定である。

## 授業の到達目標 Objectives

メディアとジャーナリズムに関する基本的知識を学ぶだけでなく、それを活用し、自分で資料を探索し読み解き、思考する能力を養う。また実際にインタビュー調査を行う力量を育成する。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

## 授業計画 Course Schedule

第一回：オリエンテーション  
第二回～第七回：英語文献講読  
第八回～第十三回：日本語文献講読  
第十四回：インタビュー調査の目的及び計画の説明と準備

## 教 科 書 Textbooks

初回の授業には、藤竹暁編著『図説 日本のメディア』(NHKブックス、2018年)を読んだ上で、持参すること。

その次からは、開講時に配布する英文テキストを読む。  
以降は授業中に指示する。

## 参考文献 Reference Books

関連文献については、随時紹介する。

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	二回ほどレポートを指示する。
平常点評価 Class Participation	70%	英語文献及び日本語文献の講読の際に行う報告、発言、議論を評価対象とする。
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

基本的には教室での対面講義を行う。積極的な質疑応答、議論を評価します。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# ジャーナリズム・メディア演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
405	ジャーナリズム・メディア演習 I (中村理)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	中村 理
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle
-----------------

内容分析を中心に用いたメディア・メッセージの実証研究（演習I：ヒューマン・コーディング／演習II：コンピュータ・コーディング）

授業概要 Course Outline
------------------------

本演習は、内容分析という手法を使ってメディアの送り出す情報を実証的に分析することを目標にしています。

あなたはメディアを通じて得る情報に疑問を持ったことはないでしょうか。たとえば、原発報道はどういった経緯を経て今にいたっているのか、経済問題に報道は一貫した姿勢で対処してきたのか、CMやドラマにあらわれるジェンダー観は時代とともにどう変わってきたのか、SNSはニュースにどう反応するのか、などです。こうした疑問のもととなる情報（メッセージ）は、日々、新聞やテレビ、インターネットなどから大量に発信されています。そこにはどういった特徴や傾向があり、その背後には発信者のどういった情報選択があるものでしょうか。

本演習では、こうしたあなたの興味を分析していきます。分析の主題は政治でもジェンダーでも文化でも構いません。また、対象は報道でも映画でもコマーシャルでもSNSでも構いません。マス・コミュニケーション上あるいはジャーナリズム上の興味をもって、メディアに流れる情報をぜひ実証的に・科学的に分析してみましょう！

そのために、本演習では内容分析という手法を学びます。内容分析とは、単に内容を分析するという抽象的なものを指すのではありません。どういう手順で何をするかが決まっている、ある科学的な分析手法の名称なのです。この内容分析では、メッセージの内容をコード（記号）化して分析します。たとえば、議題・争点を「政局」「政策」に分類したり、登場人物を「政治家」や「専門家」といったコードに分類したり、論調を「ポジティブ」や「ネガティブ」といったコードに分類したり、です。そして、それらコードが何回あらわれるかを数えるなどし、発信される情報を量にして、情報の特徴をとらえていきます。こうすることで、流れている情報を客観的に扱えるようになります。

コード化には主に2つの技法があります。当演習では（1）学部3年次前半（春学期）にヒューマン・コーディングという技法を、（2）後半（秋学期）にコンピュータ・コーディングという技法を学び、4年次に卒業研究に取り組みます。内容分析は、マス・コミュニケーションやジャーナリズム研究によく使われるほか、企業が顧客のクチコミを分析してマーケティングに役立てることにも利用されています。この手法を使って、ジャーナリズム、マス・コミュニケーション、あるいはメディア上の課題やあなたの疑問に挑みましょう。あなたの興味とやる気を、ぜひ具体的な形にしてみてください！

この演習では、一つの主題や目標を複数の受講者が共有し、チームで議論をしながら協調的に作業を進める活動を主体にしています。これにより、専門性を深めるだけでなく、チームの中で目標を共有し、困難に面したときに助け合ったり責任を分担したりして解決する経験をつんでみましょう。この経験は、将来、あなたが専門課程で研究を行ったり、職場で同僚と協調的に仕事をしたりする際に必ず役に立ちます。そして、簡単なようでなかなかそうではない実証的な調査・研究というものをぜひ経験してください！ これは大学にいればこそできるものです。

### 授業の到達目標 Objectives

- ・実証的な調査の流れ（問題意識～仮説～調査計画～実施～結果の整理～分析～考察～結論）を経験し、その要領を学ぶ。
- ・分析法を習得する。（演習Iはヒューマン・コーディング、演習IIはコンピュータ・コーディング）
- ・分析力を高める。
- ・マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、メディア上のなんらかの課題に建設的に言及する。
- ・チーム内でコミュニケーションをとりながら協調的に作業をし、課題を解決する。
- ・以上を通じ、特定の専門知識だけでなく、社会に出た際の汎用的なスキルを身につける。

### 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

当演習は反転授業を取り入れています。授業後は次の授業に向けた準備を各自がおこない、教室では時間と場所をチームのメンバーと共有するメリットを活かして協調学習やチームワークに取りくみます。たとえば、論文を読む際には事前に読んだり演習問題に取り組んだりし、当日に教室で発表と議論をします。チームワークではその日までの進捗に応じて次までの目標をチームが自ら立て、それを持ちよって次の授業をすすめます。

### 授業計画 Course Schedule

- 第01回：オリエンテーション  
第02回：内容分析とは？ I：研究論文を読む（プレ演習の論文読解の続き）／内容分析のデザインと実践1：調査主題を提案する・決める  
第03回：手法を学ぶ1：内容分析の歴史  
第04回：内容分析のデザインと実践2（チームワーク）：問い合わせをたてる・対象をきめる・変数とカテゴリを設定する  
第05回：手法を学ぶ2：内容分析の設計  
第06回：内容分析のデザインと実践3（チームワーク）：テスト・コーディングを始める  
第07回：手法を学ぶ3：サンプリング  
第08回：内容分析のデザインと実践4（チームワーク）：テスト・コーディングをもとに計画を再検討する  
第09回：手法を学ぶ4：ヒューマン・コーディング  
第10回：内容分析のデザインと実践5a（チームワーク）：コーディング・マニュアルを完成させる I.  
第11回：内容分析のデザインと実践5b（チームワーク）：コーディング・マニュアルを完成させる II.  
第12回：手法を学ぶ5：信頼性を検定する  
第13回：内容分析のデザインと実践6（チームワーク）：コーディング結果を集計するI／コーダへ依頼する  
第14回：内容分析のデザインと実践7（チームワーク）：コーディング結果を集計するII／レポートにまとめる  
学期末：成果を発表する：レポートの提出と発表（15週目にゼミ発表会）

### 教科書 Textbooks

必要に応じて授業内で提示。

### 参考文献 Reference Books

必要に応じて授業内で提示。以下、参考まで：  
有馬明恵『内容分析の方法』（ナカニシヤ出版、2007年）  
クラウス・クリッペンドルフ『メッセージ分析の技法-「内容分析」への招待』（勁草書房、1989年）  
ダニエル・リフ他『内容分析の進め方』（勁草書房、2018年）  
田崎篤郎・児島和人『マス・コミュニケーション効果研究の展開（改訂版）』（2003、北樹出版）  
竹下俊郎『メディアの議題設定機能—マスコミ効果研究における理論と実証（増補版）』（2008、学文社）  
佐渡島沙織・吉野亞矢子『これから研究を書くひとのためのガイドブック』（2008、ひつじ書房）  
戸田山和久『最新版 論文の教室』（2022、日本放送出版協会）

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験は行いません。レポートを実施しない場合にのみ代替として検討します。
レポート Papers	30%	20–40%。半期ごとになんらかのまとめをおこないます。最終的に調査・分析の結果あるいはその進捗状況をレポートおよび発表資料にまとめたうえで発表します。その際の提出物、発表内容、貢献度で評価します。
平常点評価 Class Participation	55%	50–70%。授業への参加態度、課題・分析への取り組み、チームへの貢献をもとに評価します。各自が目的を持ち、主体的・協調的に作業することを重視します。
その他 Others	15%	10–20%。ゼミの運営や行事に協調的にかかわる活動を評価します。また、上記以外で特筆すべき事項、推奨履修科目の学習状況等も、ここに計上します。

備考・関連URL  
Note・URL

<https://semi.on-w.com/>

[https://twitter.com/nakamura\\_semi](https://twitter.com/nakamura_semi)

研究は主に、学生であるみなさん自身が次までの課題を決めて宿題を持ちより、メンバーと議論しながらチームで協調的に作業することによって進めます。理科といえば「実験」のようなもので、机上で考えるだけでなく、ポジティブなコミュニケーションで人と協働しながら手を動かし、自分なりのデータを分析してみたいという方に向いています。これまでの主題例は最新のものも含めて関連URL記載のサイトから見ることができます。

あなたはPCやプログラミングに習熟している必要はありません。苦手な方でもできる内容をこころがけてデザインしています。逆に、RやPythonでプログラミングをしたい方にはサブゼミ・卒論で個別に指導することも可能です。

ゼミ全体の流れは次の通りです。(1)まず、内容分析を使ってどういった研究ができるのかをプレ演習から演習Iにかけて学びます。同時に、プレ演習では内容分析の体験をします。(2)演習Iではヒューマン・コーディングの手法を学びながら、それを用いた調査プロジェクトをチームごとに実演します。(3)同様に、演習IIではコンピュータ・コーディングの手法を学びながら、それを用いた調査プロジェクトをチームごとに実演します。(4)演習III～IVでは、卒業論文の作成を前提に進めます。ここではチーム内で主題を共有しながら、そのもとで一人ひとりが独立したプロジェクトに取り組みます。たとえば原発報道というチーム主題のもとで、あるものは新聞に取り組む、あるものはTVに取り組む、などです。それらの結果を卒業論文にまとめ、年度末に報告します。(5)演習I～IVにかけては、並行して前後いずれかの時間にサブゼミを実施します。その中では、チームワークの補填をしたり、マス・コミュニケーション理論とジャーナリズム史、R、論文執筆法、エクセルの使い方、コンピュータ・コーディングの詳細、データ分析法といった基礎スキルを学んだりします。(6)また、各学期に2度ほど、サブゼミの時間にメディア・職業人ワークショップをおこないます。

春学期、秋学期演習とも、第15週に発表をおこないます。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 学際領域演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year • Credits	担当教員 Instructor
501	学際領域演習 I (岡本暁子)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	岡本 暁子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

行動生態学と隣接諸科学I

## 授業概要 Course Outline

ヒトを含む地球上の生き物は、何千万年何億年という時間をかけて変化し、まわりの環境に適応してきた。行動生態学は、生物の行動と生態の進化に関わるさまざまな問題を扱う分野である。本演習では、行動生態学の基本的な知見を習得し、特定の生物もしくはトピックについての研究をする準備をすすめる。同時に、履修者の興味関心にあわせて、行動生態学の隣接諸科学についての知識も深めていく。

## 授業の到達目標 Objectives

行動生態学の基本的な知見を習得し、特定の生物もしくはトピックについての研究をする準備をする。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

指定されたテキストの予習復習をする。

## 授業計画 Course Schedule

第1回は演習のガイダンスを実施する。その後の回は、演習参加者による報告と討論、資料を参照しながらの討論などをおこなう。

## 教 科 書 Textbooks

第1回目の演習時に提示する。

## 参考文献 Reference Books

演習中に適宜紹介する。

## 評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	期末の発表とそのまとめを評価する。
平常点評価 Class Participation	50%	演習への出席、課題の達成度、討論への取り組みなどを、総合的に評価する。
その 他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

授業実施方法については適宜連絡する。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 学際領域演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
502	学際領域演習 I (プロッソーシルヴィ)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	プロッソー シルヴィ
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

映画研究演習、映画学入門の演習

## 授業概要 Course Outline

本セミナーは、映画の分析（映画研究、映画学）の入門講座である。

映画はショーであり、楽しみをもたらすものだが、研究の対象ともなりうるものである。映画は、娯楽のために鑑賞することがほとんどである。映画鑑賞は、いわば「感覚の時」とも言え、感動、恐怖、喜び、悲しみ、不安、動搖などを体験する時間である。また映画は、ある話、テーマ、（フィクション上または実在の）人物を、（自然または人工的に作り上げられた）特有の空間において発見する機会であり、知られざる運命や状況、世界に出会う手段である。映画は、画像と同じく、世界の一つの表象である。したがって、映画鑑賞は、我々のいる世界、状況、社会について考える機会となる。映画が、常に世界の表象である、としたら、それをどのように読み解けばよいのだろう。またその表象をどのように描写し、理解し、解釈すればよいのだろう。映画の分析は、これらの質問（何が？どのように？なぜ？）に答えてくれる。映画を分析することで、より多くのことが理解でき、より多くの知識が得られ、より多くのことに関心が持てるようになる。

本セミナーでは、ジャン=リュック・ゴダール（1930-フランス・スイスの監督）の映画を紹介し、研究する。

具体的な例を用いて、映画分析を構成する要素について学ぶ。

日本語字幕付きの複数の映画を鑑賞し、その一部について詳しく分析する。

映画はかならず意味とメッセージを持ち、時にはサブテキストかイデオロギーをも持つ。

映画は型にはまった考え方を見せることもあれば、逆に新たな考え方や予想外のイメージを見せることもある。

どのように、内容と形式の間の関係を見つけるか？

映画内での、話、メッセージと美学の間の関係はどのようなものか？

ある映画について、歴史的、社会学的、美学的に興味深い点はどこか？

一部のイメージについて、興味深い点はどこか？そうしたイメージは、どのような技術と、どのような構成を用いて組織されているか？

面白い部分、重要な部分、意味深い部分はなにか？こうした問題に注目する。

## 授業の到達目標 Objectives

本セミナーでは、ジャン=リュック・ゴダールの映画を紹介し、研究する。

具体的な例を用いて、映画分析を構成する要素について学ぶ。

日本語字幕付きの複数の映画を鑑賞し、その一部について詳しく分析する。

映画はかならず意味とメッセージを持ち、時にはイデオロギーをも持つ。

映画は型にはまった考え方を見せることもあれば、逆に新たな考え方や予想外のイメージを見せることもある。

どのように、内容と形式の間の関係を見つけるか？

映画内での、話、メッセージと美学の間の関係はどのようなものか？

ある映画について、歴史的、社会学的、美学的に興味深い点はどこか？

一部のイメージについて、興味深い点はどこか？そうしたイメージは、どのような技術と、どのような構成を用いて組織されているか？

面白い部分、重要な部分、意味深い部分はなにか？こうした問題に注目する。

事前・事後学習の内容  
Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画  
Course Schedule

本セミナーでは、ジャン=リュック・ゴダールの映画を紹介し、研究する。

本セミナーにおいては、特に背景、セット、そして空間と風景の表象、すなわち映画に現れる場所、風景、そこに用いられた光、色彩といった要素に注目する。アクションが起こる場所はどこか？こうした空間の劇的な機能はどこにあるのか？映画の中、フィクションの中、話の中における風景の役割はどのようなものか？風景は、映画の話や、人物、時間、空間を設定するための単なる背景としてだけ存在するのではなく。風景は、ある雰囲気・環境や、感情をもたらすほか、様々な意味、レフェランス（ほかの芸術作品の暗示など）、象徴といった要素をもたらす。どのような風景がそこにあるのだろうか？どのようにそれを描写すればよいか？風景は何を意味しているのだろうか？

本セミナーにおいて、学生各自は、自ら選択し、注意深く鑑賞して分析・研究した映画を紹介する。学生は自由に映画を選択できる。紹介する映画は製作年代を問わず、日本映画、米国映画、その他の国の映画など、国籍も問わない。映画分析は、「好き・好きではない」「良い・良くない」といった個人的な意見を超越したものである。好きでない映画であっても、大変面白い分析をすることが可能である。

教科書  
Textbooks

資料のコピーを配る

参考文献  
Reference Books

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	試験: 0 % 試験なし レポート: 40 % 映画分析の論文 平常点評価: 60 % 発表 出席 参加度 その他: 0 % なし

備考・関連URL  
Note・URL

# 学際領域演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
503	学際領域演習 I (マルティ・オロバル ベルナット)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	マルティ・オロバル ベルナット
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

近世・近代における宗教思想（西洋・日本の宗教事情を中心に）

History of Religious Thought in Modern and Contemporary Times (Religions in the West and Japan)

## 授業概要 Course Outline

このゼミでは思想史学・宗教社会学という視座より、西洋・日本における宗教史に対する理解を深め、宗教と社会、宗教と政治、宗教と道徳との関係について考えていきたい。「近代化と宗教」という問題、つまり近代化がもたらした様々な変化が宗教にどのような影響を与えたかを分析・理解するのがゼミの最終目標となる。先ず、近代は信教の自由と共に世俗化が進んだ時代であるといえる。その中で、科学の進歩と共に、新たな思想伝統が誕生し、宗教の意義を否定する思潮が台頭した。中には、近代化に適応し、宗教と科学を融合させようとした、宗教の内面化（最近の用語を使用すれば「マインドフルネス化」）を試みようとした宗教家も存在する。しかし、その一方で、宗教界において近代化・新たな思潮に反発した原理主義も誕生し、宗教アイデンティティ問題、宗教と国家主義との深い関係も見られる。この二つの要素、「近代」及び「宗教」の複雑な関係についてゼミ生と一緒に考えていきたい。

This seminar is dedicated to the study of the history of religion in the West and Japan from the perspective of the history of ideas and the sociology of religion. We will consider topics as the relationship between religion and society, religion and politics, and religion and morality. The final goal of the seminar is to analyze and understand the interrelation of modernization and religion, that is, how the changes produced by modernization have affected religion. It can be said that modernity, especially in the West, is an era when secularization has spread, along with religious freedom. Together with the progress of science, new traditions of thought were born, and new currents of thought denying the significance of religion emerged. Some religious thinkers have tried to adapt to modernization and combine religion and science, or to interiorize (privatize) religion (as it can be seen in recent phenomena as the “mindfulness” trend). On the other hand, a completely different reaction to modernity in the religious world is fundamentalism, which denies modernization and all the new currents of thought. This ideological retreat, which is fundamentalism, is also intimately related to other questions, as religious identity problems and the relation between religion and nationalism. In sum, I would like to reflect upon the complex relationship between “modernity” and “religion” together with the seminar students.

## 授業の到達目標 Objectives

ゼミの主な目的を以下の要点にまとめる

- ・宗教思想史・宗教社会学の基礎知識を身につける。
- ・思想史・宗教思想史の観点から、西洋人・キリスト教信者のものの見方自体、そして彼らがどのように異文化・異宗教を理解したのかを分析する。
- ・日本の伝統的宗教について学び、その独自の変容、または西洋の影響による変容を理解する。
- ・宗教思想史・宗教社会学から現代世界や現代日本の宗教動向を学ぶ。

The main purposes of the seminar are summarized in the following points:

- Acquire basic knowledge of the history of religious thought and sociology of religion.
- Analyze the Westerner's (Christians) understanding of themselves, and how they viewed different cultures and religions from the perspective of the history of religious thought.

- Learn about traditional Japanese religions and understand their transformations, and also how they were influenced by Western thought and religion.
- Learn about the religious trends of modernity from the perspective of the history of religious thought and sociology of religion.

**事前・事後学習の内容**  
Preparation and Review

教科書は特になく、事前に、文献リスト、課題となる論文等を配布する。基本的には日本語で著された文献（学生の能力・ニーズに応じて外国語で書かれた著作も使用する）を読解、分析し、その内容について皆で自由に討論する。また、卒論を書きたい学生は自分自身で問い合わせ立て、自分にとって最も面白い研究主題を絞り、卒業論文を完成させる。宗教に関するものであれば、研究テーマの選択は完全に自由である。卒業論文の執筆で使用する可能な言語は日本語、スペイン語、英語、フランス語またはカタルーニャ語である。

We will not use any textbooks. I will distribute the reading materials (academic papers or book chapters) in advance. Students must read and analyze documents in Japanese (also use works written in foreign languages depending on students' abilities and needs) and discuss the contents freely with everyone. However, if members of the EDP join the seminar, I will try to provide materials in English. Students who want to write a graduation thesis must narrow down the research topics that are most interesting to them and complete their graduation thesis. As far as the research topic is related to religion, students have complete freedom to choose. Possible languages for writing the thesis are Japanese, English, Spanish, French, or Catalan.

**授業計画**  
Course Schedule

第1回：導入Introduction

第2回：中世ヨーロッパの世界観。中世ヨーロッパにおける宗教と社会、宗教と政治 I

Worldview of medieval Europe. Religion and Society, Religion and Politics in Medieval Europe I

第3回：中世ヨーロッパの世界観。中世ヨーロッパにおける宗教と社会、宗教と政治 II

Worldview of medieval Europe. Religion and Society, Religion and Politics in Medieval Europe II

第4回：中世ヨーロッパに誕生した「宣教」の意義

The meaning of “mission” in medieval Europe

第5回：大航海時代におけるキリスト教宣教活動（アメリカ・アジア） I

Christian missionaries during the Age of Discovery (their activities in America and Asia) I

第6回：大航海時代におけるキリスト教宣教活動（アメリカ・アジア） II

Christian missionaries during the Age of Discovery (their activities in America and Asia) II

第7回：ルネサンス文化と宗教改革

Renaissance Culture and Reformation

第8回：宗教改革と近世国家 I

Reformation and the Modern State I

第9回：宗教改革と近世国家 II

Reformation and the Modern State II

第10回：絶対君主制と宗教

Absolute monarchy and religion

第11回：西洋の植民地主義とキリスト教宣教師活動との関係 I

Relationship between Western colonialism and the Christian missionary I

第12回：西洋の植民地主義とキリスト教宣教師活動との関係 II

Relationship between Western colonialism and the Christian missionary II

第13回：啓蒙主義と宗教。政教分離の芽生えについて

Enlightenment and religion. On the origin of the separation of Church and State

第14回：総合討論

General discussion

**教科書**  
Textbooks

**参考文献**  
Reference Books

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	期末レポート
平常点評価 Class Participation	50%	演習への出席、課題の達成度、討論への取り組みなどを、総合的に評価する
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 学際領域演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year • Credits	担当教員 Instructor
504	学際領域演習 I (室井禎之)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	室井 禎之
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

コミュニケーションとことば

## 授業概要 Course Outline

私たちの社会を作り上げているものはそのメンバーの間のコミュニケーションです。もちろんコミュニケーションにはさまざまな種類のものがありますが、ここで取り上げるのは、ことばによるコミュニケーションです。しかしこれらとの関連で、異なるタイプのコミュニケーション（たとえばノンヴァーバルコミュニケーション）について考えることもできます。

参加者は自分の問題意識に従って研究テーマを設定することができます。たとえば、さまざまなタイプのコミュニケーションにおけることばの働き、言語のヴァリエーション（地域的変種、社会的変種など）、社会とことば、言語政策、対人関係のことば、異文化コミュニケーション、などが考えられます。授業では、それぞれの問題意識に沿って、どのようなアプローチがありうるのか、先行研究には何があるのかなどを案内しながら、考えます。演習ですから、学生の発表とディスカッションを中心に進めて行きます。

あらゆるコミュニケーション形態の基礎となっているのは個人の間のコミュニケーションです。そこにおけることばの働きについては、語用論 (Pragmatics) と呼ばれる言語学の一分野での研究を知ることが不可欠です。授業ではその主要な理論や分析方法についての導入も行います。また必要に応じてことばの働きそのものについての紹介もします。

## 授業の到達目標 Objectives

1. コミュニケーションとことばについて自覚的になり、自らのコミュニケーションを反省的に見、改善につなげる試みが行えるようにすること。
2. コミュニケーションに関わるファクターと、それらの働きについて知ることで、他者のコミュニケーションを理解する能力を高めること。

以上 2 点が本演習の I から IV を通して学修することによって到達する目標です。最初の段階である I ではコミュニケーションとことばについて考えるための基礎を得ることに重点を置きます。具体的には、参加者の問題意識に対応するテーマの基本的な文献を選び、その理解を通じてコミュニケーションに対する感覚を養い、分析のための手法を得ます。また次の段階への展望を開きます。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

自分のテーマについての文献を探し、読み、発表を準備すること。ディスカッションにもとづき振り返りを行い、追加調査を行うこと。上記の作業を踏まえてレポートを執筆すること。教科書を読み、その内容について考察すること。授業後に振り返りを行うこと。

授業計画  
Course Schedule

第1回：オリエンテーション

参加者に各自問題関心を出してもらい、それに応じた方向性を検討したり、参考文献を紹介します。また2回目以降の教科書講読および発表の分担を決めます。

第2回：文献講読・発表と討論

- ・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

- ・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第3回：文献講読・発表と討論

- ・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

- ・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第4回：文献講読・発表と討論

- ・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

- ・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第5回：文献講読・発表と討論

- ・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

- ・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第6回：文献講読・発表と討論

- ・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

- ・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第7回：文献講読・発表と討論

- ・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

- ・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第8回：文献講読・発表と討論

- ・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

- ・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第9回：文献講読・発表と討論

- ・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

- ・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第10回：文献講読・発表と討論

- ・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

- ・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第11回：文献講読・発表と討論

- ・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

- ・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第12回：文献講読・発表と討論

- ・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

- ・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第13回：文献講読・発表と討論

- ・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

- ・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

第14回：文献講読・発表と討論

- ・教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

- ・参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

教科書  
Textbooks

今井邦彦『語用論への招待』(大修館)

参考文献  
Reference Books

- D. スペルベル/D. ウィルソン 『関連性理論』(研究社)  
P. グライス 『論理と会話』(勁草書房)  
安井稔『言外の意味』(研究社)  
J. サール『言語行為』(勁草書房)  
他授業時に隨時紹介する

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	学期中の成果と次の段階への展望をまとめたレポートを学期末に提出
平常点評価 Class Participation	50%	授業時の口頭発表、およびその振り返り、ディスカッションへの参加状況
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 学際領域演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year • Credits	担当教員 Instructor
505	学際領域演習 I (本野英一)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	本野 英一
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

中国人の行動原理と日本への働きかけ

## 授業概要 Course Outline

中国社会がどのような仕組みで成り立っており、そこで生きる中国人は一体どのような原理に基づいて行動し、それが中国全体の対外態度、日本への働きかけとなって現れているのかを、中国と日本の研究者の著作を通して考察する。

## 授業の到達目標 Objectives

中国共産党の世界観、対外政策のみならず、広く中国人一般はどのような思考様式に基づいて行動しているのかを、理解できるようになり、日本のみならず世界中のメディアが流すようになった中国悪玉論を安易に受け入れない人間になること。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

事前準備の仕方については、第1回目のオリエンテーションの時に説明する。学生は毎回テキストの指定された部分について要約を作成し、そこから経済史は何を研究課題としているのかを考察する。

## 授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション：テキストの概略紹介と演習形式の説明

本演習で読むテキストの解題と授業内容の説明。今回は、翟学偉（朱安新・小嶋華津子訳）『現代中国の社会と行動原理—関係・面子・権力』（岩波書店、二〇一九年）の日本語版序と第一部第一章、第二章に基づいて説明する。

第2回：『現代中国の社会と行動原理—関係・面子・権力』（岩波書店、二〇一九年）第二部第一章

今回は、第二部第一章「中国人の関係ネットワークにおける構造的均衡モデル」を読んでその内容について討論する。

第3回：『現代中国の社会と行動原理—関係・面子・権力』（岩波書店、二〇一九年）第二部第二章  
今回は、第二部第二章「『報』の方向性」を読んでその内容について討論する。

第4回：『現代中国の社会と行動原理—関係・面子・権力』（岩波書店、二〇一九年）第二部第三章

今回は、第二部第三章「<関係>か、それとも社会関係資本か」を読んでその内容について討論する。

第5回：『現代中国の社会と行動原理—関係・面子・権力』（岩波書店、二〇一九年）第二部第四章

今回は、第二部第四章「中国人の<関係>のベクトル—インターネット社会がもたらす転換の可能性—」を読んでその内容について討論する。

第6回：『現代中国の社会と行動原理—関係・面子・権力』（岩波書店、二〇一九年）第三部第一章

今回は、第三部第一章「中国人の『大公平観』と嘗み—日本社会の『公私観』との比較において—」を読んで、その内容について討論する。

第7回：『現代中国の社会と行動原理—関係・面子・権力』（岩波書店、二〇一九年）第三部第二章

今回は、第三部第二章「<人情>、<面子>と<権力>の再生産—「情理」社会における社会的交換—」を読んで、その内容について討論する。

第8回：『現代中国の社会と行動原理—関係・面子・権力』（岩波書店、二〇一九年）第三部第三章

今回は、第三部第三章「中国の官僚の作法と技術—『偏正構造』と『顔』のはたらき—」を読んで、その内容について討論する。

第9回：『現代中国の社会と行動原理—関係・面子・権力』（岩波書店、二〇一九年）第三部第四章

今回は、第三部第四章『<関係>と<権力>—共同体から国家へ—』を読んで、その内容について討論する。

第10回：『現代中国の社会と行動原理—関係・面子・権力』（岩波書店、二〇一九年）おわりに

今回は、本書の終章を読んで、中国人学者が描く中国社会の原理全体の特徴について論じ合う。

第11回：益尾知佐子『中国の行動原理—国内潮流が決める国際関係一』（中公新書）序章、第一章

今回から二冊目のテキストを読む。今回は序章と第一章を読み、中国人の世界観を論じ合う。

第12回：益尾知佐子『中国の行動原理—国内潮流が決める国際関係一』（中公新書）第二章、第三章

今回は、中国人の家族観と、彼らが対外関係をどのように見ているのかについて論じ合う。

第13回：益尾知佐子『中国の行動原理—国内潮流が決める国際関係一』（中公新書）第四章、第五章

今回は、鄧小平以降の中央政府の動向と、対照的に地方政府の動向を扱った二章を読んで、中国の統治者の行動原理について討論する。

第14回：益尾知佐子『中国の行動原理—国内潮流が決める国際関係一』（中公新書）第六章、終章

今回は、現在中国がフィリピン、台湾、そして日本や東南アジア諸国を巻き込んで対立を深刻化させている海洋問題並びに中国の今後の動向について論じ合う。

教科書  
Textbooks

翟学偉（朱安新・小嶋華津子訳）『現代中国の社会と行動原理—関係・面子・権力』（岩波書店、二〇一九年）  
益尾知佐子『中国の行動原理—国内潮流が決める国際関係一』（中央公論新書、二〇一九年）

参考文献  
Reference Books

斎藤孝・西岡達裕『学術論文の技法』（日本エディタースクール、2005年）

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	実施しない。
レポート Papers	60%	第13回と最終回時に、独自の論文構想レポートを発表し、提出してもらう。特に最終回は、参加者一人一人が独自の先行研究リスト、読むべき史料とその所在をリスト化して提出していただく。
平常点評価 Class Participation	40%	毎回授業に先立って提出する疑問点メモの内容を判断する。
その他 Others	0%	特になし。

備考・関連URL  
Note・URL

春学期のアジア経済史の単位取得者、秋学期に私が担当する経済史入門Bの受講者、中国語圏（中国大陸、台湾、香港・澳門、シンガポール）留学経験者を優先的に採用する。また、12月に行うプレ学際領域演習には必ず参加すること。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 学際領域演習 I

2024

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
506	学際領域演習 I (ロペスアルフレド)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	ロペス アルフレド
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副 題 Subtitle

西洋文学論

## 授業概要 Course Outline

文学はどう定義すればいいのか？その本質は何であるのか？読者は本を読むということから何が得られるのか？人間にとてフィクションが必要なのか？ヨーロッパではこのような質問に答えようとする人が、西洋文化が形成され始めるや否や次々に現れてきました。ギリシャ・ローマ時代からアリストテレス、ホラティウスを中心に文学についての考察は一つの欠かせない要因となっているのは間違いないことです。18、19世紀のロマン主義を経て、とくに20世紀以降では人文科学の目覚ましい発展の中で文学論がなくてはならない学問として認められるようになりました。

この講義では西洋で文学について考えられたことを紹介しながら本を読むことはどこまで有意義で楽しいことなのかを確認して、様々な意味での文学の重要性を強調し、抽象的な考え方を発展させ西洋文化の理解を深めることを目指します。

## 授業の到達目標 Objectives

文学の理解を深める。これにより西洋文化をより分かりやすくする。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

各授業の前にその日を読む予定のテクストを確認して、その後も一度理解度を確認する。

## 授業計画 Course Schedule

- 第1回：本講義の目的と概要について説明します。
- 第2回：文学とは何か(1)
- 第3回：文学とは何か(2)
- 第4回：文学とは何か(3)
- 第5回：アリストテレスの「詩学」(1)
- 第6回：アリストテレスの「詩学」(2)
- 第7回：アリストテレスの「詩学」(3)
- 第8回：アリストテレスの「詩学」(4)
- 第9回：アリストテレスの「詩学」(5)
- 第10回：アリストテレスの「詩学」(6)
- 第11回：アリストテレスの「詩学」(7)
- 第12回：アリストテレスの「詩学」(8)
- 第13回：アリストテレスの「詩学」(9)
- 第14回：学生の発表

## 教 科 書 Textbooks

アリストテレス・ホラティウス 「私学・詩論」 岩波文庫  
プレ演習のほうで  
内多毅 「現代文学理論入門」 創元社を使用する。

参考文献  
Reference Books

T. イーグルトン 「文学とは何か」 岩波書店

評価方法  
Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
そ の 他 Others	100%	出席や授業に取り込んだこと、発表を評価する

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>